



超少子高齢化地域での先進的がん医療人養成

令和元年度

活動成果報告書



金沢大学



信州大学



富山大学



福井大学



金沢医科大学



石川県立看護大学



ご挨拶

超少子高齢化地域での先進的がん医療人養成
北信がんプロ 事業推進代表者 金沢大学長
山崎 光悦



文部科学省の公募事業である「がんプロフェッショナル養成プラン」は、がん対策基本法が施行された2007年にはじまり、「がんの均てん化」をテーマに全国18拠点/95大学が取り組みました。2011年からの第2期目は「教育改革、研究者育成、地域連携」をテーマに全国15拠点/100大学が、がん医療の人材育成について取組み、その実績が高く評価されました。

2017年からスタートした第3期目のがんプロ事業である「多様な新ニーズに対応する「がん専門医療人材（がんプロフェッショナル）」養成プラン」では、これまでの富山大学、福井大学、金沢医科大学、石川県立看護大学及び本学からなる枠組みに信州大学を加え、6大学による「北信がんプロ」として活動を北陸・長野の北信地域に広げております。北信地域が全国平均と比較し15年以上進んだ超少子高齢化社会であることから、本事業は「超少子高齢化地域での先進的がん医療人養成」というテーマで、戦略的にがん医療人を養成しております。

2018年からはオブザーバー参加として山梨大学を加えた7大学連携にてセミナーを開催するなど、新たな枠組みでの事業にも取り組んでいます。

北信がんプロでは「がんプロ運営協議会」に地域すべてのがん診療連携拠点病院、医師会、行政が参加し、協力体制が整備されていること、患者会の方々にもご参画いただいて連携していること、6大学の学長による学長連絡協議会を設置し、大学院生の受入れ状況など事業の進捗を管理することが、がんプロ養成推進委員会でも高く評価されております。

北信がんプロの連携大学が一丸となって取組を推進し、本年度は前年度からがんデータベースの本格的な運用開始をはじめ、e-learning教材の運用・整備にも着手したほか、令和元年度に行われた文部科学省の中間評価では、これまでの2年半の実績が評価され、B評価を得ることが出来ました。

今後も、地域がん医療の特徴を把握するためのがんデータベース化、全国e-learningクラウドによる教材の充実のほか、教員向けのFD研修の実施など多彩な取組を行うとともに、連携大学が合同で開催する合同市民公開講座、ニュースレターなどによる教育成果の公表を積極的に行ってまいります。

「北信がんプロ」の活動が一層の成果を挙げ、他地域や都市圏でのがん医療のモデルとなりうるよう、連携大学が一丸となって推進してまいります。



北信がんプロ統括コーディネーター
金沢大学附属病院がんセンター教授

やの せいじ
矢野 聖二



「がんゲノム医療を担うスペシャリストの養成」

本学は、ゲノム医療をメインテーマとして掲げ、2019年には「がんゲノム医療拠点病院」に指定されました。本科生コースとして開設している医師・歯科医師対象、薬剤師対象、医学物理士対象の3コースには、今年度もそれぞれ5名、2名、4名と目標を上回る履修生を受け入れています。また、社会人向けのインテンシブコースとしては医師・歯科医師対象の「がんゲノム生涯教育コース」、薬剤師対象の「がん個別化薬物療法実践薬剤師コース」、今年度新設した多職種向けの「がんゲノム多職種連携入門コース」にもそれぞれ11名、3名、13名と目標を上回る受講生を受け入れ、スペシャリストの養成を進めています。一方で、北信がんプロ独自の試みとして行っている「地域がんデータベース」事業の成果として、石川県において立ち遅れている妊孕性温存ができる体制構築の必要性や、小児医療費制度の問題点を石川県議会に提起いたしました。来年度以降も、地域医療の充実のため北信がんプロから地域行政や地域医療機関に積極的に働きかけを行ってまいりたいと思います。



「がんゲノム医療の実践指導と認定遺伝カウンセラーの育成」

信州大学包括的がん治療学教授

こいずみ とものお
小泉 知展



本学は2017年9月、がんクリニカルシーケンスを開始し、2019年9月、がんゲノム医療拠点病院に認可されました。ゲノム医療の実践・指導体制を継続し、家族性腫瘍や遺伝性卵巣乳がん症候群等でも、その診断・遺伝子解析および遺伝カウンセリングを継続・発展させています。

第三期北信がんプロではこれらの体制のもと、「ゲノム医療に精通したがん治療医育成コース」4名、「がん診療に詳しい認定遺伝カウンセラー養成コース」4名の本科生への指導を行っています。さらに2020年9月、新規に「がん専門医療人養成インテンシブコース」を設置し、予定数を上回る受講生に対して、チーム医療の重要性、希少がんを含む多くのがん種また小児から高齢者までの幅広い年代のがん種の診断・治療の研修会などを通じてがん医療人の人材育成を行っています。



「2019年度の富山大学成果報告」

富山大学附属病院臨床腫瘍部教授

はやし りゅうじ
林 龍二



2019年度、富山大学大学院生の受け入れとしては本科生医師コース10名、薬剤師コース2名、インテンシブコース医師2名、薬剤師2名、看護師3名といずれも目標人数を達成しました。

昨年度から重点を置いたがんゲノム医療教育においても、国の保険診療導入と併せて、附属病院でエキスパートパネルが開始され、がんプロ受講生が実際の場で学べる環境を用意することができました。来年度は附属病院との協力を深めて、受講生が先端医療の場で学習できる体制を整える予定です。

この取り組みにより、まさにがん専門医療人材育成の目的を達成できると考えます。また、薬剤師インテンシブコースにおいては今季初の修了者を出すことができました。引き続きアウトカム達成に努め、より多くのがん専門医療人材育成に努めてまいります。



「地域で活躍するがん医療人の養成」

福井大学がん診療推進センター長 腫瘍病態治療学

ひろの やすお
廣野 靖夫



本学は地域で専門的ながん治療から在宅医療までカバーできる、がん専門医の育成を課題として活動しております。特に在宅緩和ケア、在宅栄養に重点を置き、インテンシブコースでは「在宅緩和医療コース」「在宅栄養管理コース」を開設しており、多数の受講者に参加していただいております。

今年度も多くの研修会や公開講座を開催し、コース受講者を含めた多くの医療人の方に参加を頂きました。がん治療の円滑な遂行には医療人の緩和ケアや臨床栄養に対する一層の理解が必要です。また急速な高齢化社会に伴う医療費抑制や病床再編の流れから今後在宅医療の重要性はさらに増すものと予想されます。今後も地域と一体となったがん医療人の育成を行っていきたいと考えております。



「患者の思いに寄り添える医師の養成」

金沢医科大学腫瘍内科学教授 もとお よしはる
元雄 良治

私たちは、希少がんを含むさまざまながん患者を、臓器横断的に診療できる専門家の養成を目指しています。その目的のため、北信がんプロでは本科生に「がん専門医リーダー養成コース」、インテンシブでは「集学的治療医養成コース」を設置しました。

本学は再生医療センターで、希少がんの免疫療法・再生医療に取り組んでいます。また、2018年4月からゲノム医療センター（それまでの遺伝子医療センターを発展させ改称）では、遺伝カウンセリングを中心に独自の教育内容を有しております。

腫瘍内科では、肉腫・神経内分泌腫瘍・原発不明がんなどの診療・教育・研究に携わっているのも特色です。

私たちが養成すべき人材像は、患者の思いに寄り添い、最新のエビデンス（医学的根拠）と情報を集め、患者と家族の希望をかなえるよう努力できる専門医師です。本学の教育プログラム・コース修了者が、各専門分野の専門医・認定医などの資格を取得し、地域を問わず、広く教育職・研究職・第一線の診療医として活躍できることを構想しています。



「高いアセスメント力と心のケアを担えるがん看護」

石川県立看護大学成人看護学領域教授 まきの ともえ
牧野 智恵

本学はがんプロ本科生では「がんライフステージコース」、インテンシブでは「がんライフケアコース」を開設しています。近年、AYA世代（思春期・若年成年）の子宮頸がんが増えていることもあり、予防や治療と平行して、看護師による心のケアが重要ではないかと考えております。

本科生コースは、がん患者のQOL（生活の質）の向上を目的に、小児からAYA世代、高齢者までの各ライフステージにおいて、治療・療養など全般に卓越した看護を提供できるがん看護専門看護師を育てます。富山大学・福井大学と連携し、がん看護専門看護師の育成と科目の充実を図っていきたくて思っております。

インテンシブでは、これまでのテレビ会議システムを用いた「ライフステージ事例検討会」の参加施設を増やし、看護師だけでなく医師、医療従事者を対象とした内容に発展させて実施する予定です。

特に金沢大学の薬学類とも協力して、看護学のみならず、医学、薬学の視点からがん患者支援について検討していく予定です。

ご挨拶

目次

北信がんプロ各組織委員一覧

第Ⅰ部 事業の概要

1. 事業の構想	1
2. 達成目標・評価指標	3
3. 事業の実現可能性	3
4. 令和元年度 教育プログラムコース一覧	7
◇本科生コース	
◇インテンシブコース	

第Ⅱ部 実績

1. 養成実績	
◇令和元年度 教育コース受入実績	31
2. 事業実績	
◇令和元年度 北信がんプロ行事一覧	33
◇学長連絡協議会／運営協議会	39
◇オンコロジーセミナー	49
◇がんライフステージ事例検討会	51
◇FD・国際セミナー・国際シンポジウム	53
◇合同市民公開講座／市民公開講座	61
3. その他の実績	
◇広報活動	67

第Ⅲ部 外部評価

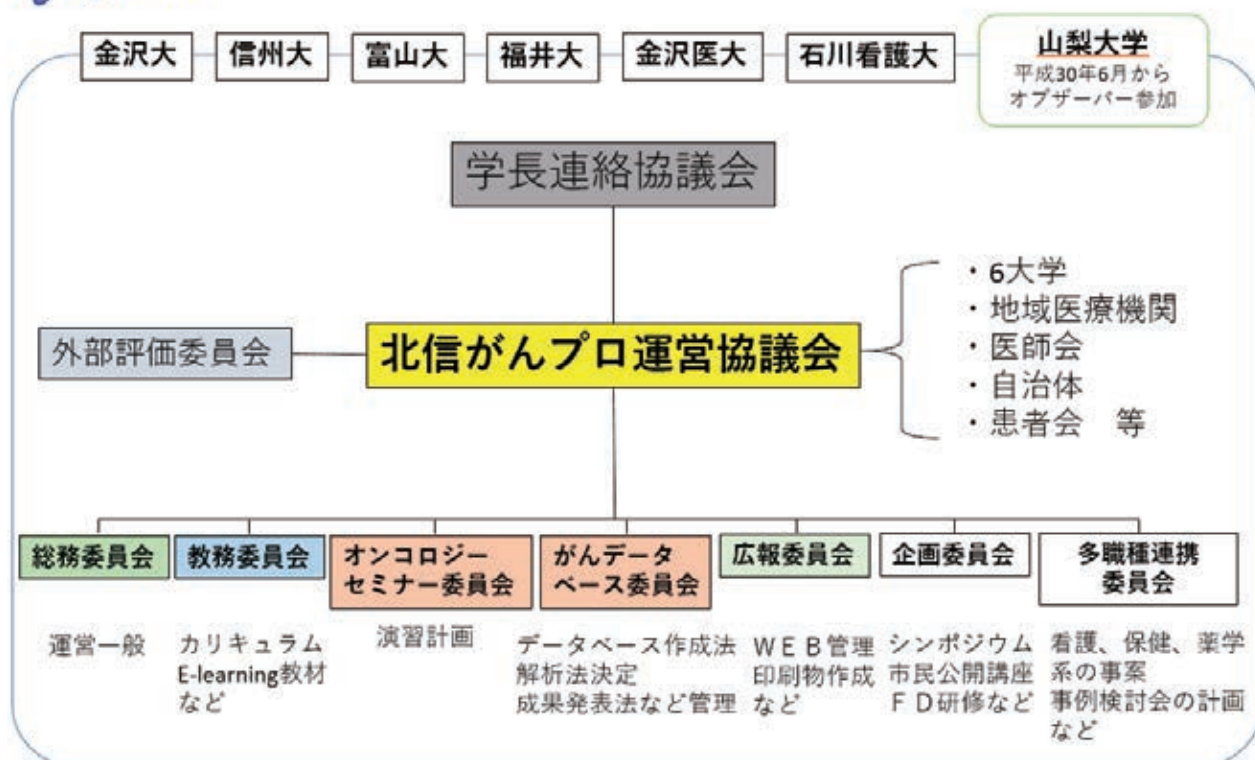
◇外部評価委員会（次第）	71
1. 文部科学省中間評価	
◇中間評価結果	74
2. 外部評価報告	
◇外部評価委員会 評価手順	95
◇外部評価結果	98

北信がんプロ 実施体制・各組織委員

(令和2年1月末現在)



北信がんプロ実施体制



【学長連絡協議会】

氏名	所属	部署/役職
山崎 光悦	金沢大学長	事業統括・学長連絡協議会会長
濱田 州博	信州大学長	事業総括・学長連絡協議会委員
齋藤 滋	富山大学長	事業総括・学長連絡協議会委員
上田 孝典	福井大学長	事業総括・学長連絡協議会委員
神田 享勉	金沢医科大学長	事業総括・学長連絡協議会委員
石垣 和子	石川県立看護大学長	事業総括・学長連絡協議会委員

【運営委員】

氏名	所属	部署/役職
蒲田 敏文	金沢大学	病院長
大竹 茂樹		基幹教育改革・財務・附属病院担当理事
堀 修		医薬保健学総合研究科長
多久和 陽		医学類長・血管分子生理学教授
矢野 聖二		がんセンター長 腫瘍内科教授 統括コーディネーター
中田 光俊		脳神経外科学教授 副統括コーディネーター
松下 良		臨床薬物情報学教授

氏名	所属	部署/役職
溝上 敦	金沢大学	泌尿器集学的治療学教授
絹谷 清剛		核医学診療科長
大島 正伸		腫瘍遺伝学教授
稲垣 美智子		臨床実践看護学教授
越田 潔	国立病院機構金沢医療センター	病院長
萱原 正都		統括診療部長
常塚 宣男	石川県立中央病院	呼吸器外科科長・診療部長
土山 寿志		消化器内科部長
元雄 良治	金沢医科大学	腫瘍内科学教授・集学的がん治療センター長
安本 和生		腫瘍内科学特任教授
下平 滋隆		再生医療学教授
西野 昭夫	小松市民病院	副病院長（泌尿器科）
又野 豊		消化器内科担当部長
横川 明男	石川県済生会金沢病院	病院長
龍澤 泰彦		副病院長
安田 健二	石川県医師会	会長
上田 博		副会長
菊地 修一	石川県健康福祉部	健康福祉部次長
相川 広一		健康福祉部健康推進課長
石垣 和子	石川県立看護大学	石川県立看護大学長
牧野 智恵		実践看護学領域成人看護学分野教授
高見 俊也	北國新聞社	論説委員長
和田 真由美	血液疾患の患者会「萌の会」	代表
腰地 孝昭	福井大学	病院長
廣野 靖夫		がん診療推進センター長
片山 寛次		がん専門医育成推進講座 教授
磯見 智恵		看護学科成人・老年看護学教授
吉川 淳	福井県立病院	副病院長
河合 泰一		血液腫瘍内科主任医長
高木 治樹	福井赤十字病院	病院長
廣瀬 由紀		外科部長
登谷 大修	福井県済生会病院	病院長
宗本 義則		外科部長
半田 祐二	国立病院機構 敦賀医療センター	病院長
戸川 保		診療部長
木村 俊久		診療部長
大中 正光	福井県医師会	会長
広瀬 真紀		理事
宮下 裕文	福井県健康福祉部	健康増進課長

氏名	所属	部署/役職
齋藤 滋	富山大学	病院長
林 龍二		臨床腫瘍部教授
北村 寛		医学薬学研究部（医学）腎泌尿器科学教授
新田 淳美		医学薬学研究部（薬学）薬物治療学教授
清水 康一	富山県立中央病院	病院長
前田 基一		がんセンター部長
石田 陽一	富山市民病院	病院長
長谷川 徹		産婦人科部長
北川 清秀	厚生連高岡病院	病院長
高仲 強		総合的がん診療センター長
藪下 和久	高岡市民病院	副病院長
菓子井 達彦		呼吸器内科主任部長
西嶋 博司	市立砺波総合病院	がん診療部長
又野 禎也		血液内科部長
桐山 正人	黒部市民病院	副病院長
角谷 直孝	富山労災病院	副病院長
石浦 嘉之		泌尿器科部長
佐々木 正寿	富山赤十字病院	副病院長
尾崎 淳		第二血液内科部長
野田 八嗣	富山県済生会高岡病院	病院長
吉田 徹		外科部長
清水 哲朗	富山県済生会富山病院	外科部長
菓子井 良郎		内科部長
梅 博久	金沢医科大学氷見市民病院	病院長
馬瀬 大助	富山県医師会	会長
前田 彰久	富山県厚生部	厚生部長
助野 吉昭		厚生部参事・健康課長
佐久間 寛	芳珠記念病院	病院長
渡辺 美智夫		副病院長
中積 泰人	金沢市立病院	呼吸器内科科長
廣瀬 宏一		外科科長
大石 尚毅		消化器内科科長
二上 文夫	金沢赤十字病院	第一外科部長
富澤 ゆかり		看護部長
渡辺 和良	地域医療機能推進機構金沢病院	副病院長
安居 利晃		統括診療部長
荒木 一郎	浅ノ川総合病院	病院長
中野 達夫		外科部長
卜部 健	白山石川医療企業団	副企業長
谷 卓	公立松任石川中央病院	病院長

氏名	所属	部署/役職
上木 修	公立能登総合病院	病院長
牛島 聡		副病院長
徳楽 正人		外科部長
鎌田 徹	恵寿総合病院	副病院長
山崎 雅英		診療部長
前多 亜佐子		事務部副部長
本田 孝行	信州大学	病院長
田中 榮司		医学系研究科長
小泉 知展		包括的がん治療学教室教授
渡辺 仁	佐久総合病院佐久医療センター	病院長
梶川 昌二	諏訪赤十字病院	病院長
川合 博	伊那中央病院	病院長
堀米 直人	飯田市立病院	病院長
田内 克典	相澤病院	病院長
和田 秀一	長野赤十字病院	病院長
池田 宇一	長野市民病院	病院長
西村 秀紀		副病院長・がんセンター長
関 隆教	長野県医師会	会長
竹重 王仁		副会長
岡田 啓治		副会長

【総務委員】

氏名	所属	部署/役職
矢野 聖二	金沢大学	がんセンター長 腫瘍内科教授 統括コーディネーター
中田 光俊		脳神経外科学教授 副統括コーディネーター
中山 淳	信州大学	医学系研究科長
小泉 知展		包括的がん治療学教室教授
林 龍二	富山大学	臨床腫瘍部教授
新田 淳美		医学薬学研究部（薬学）薬物治療学教授
廣野 靖夫	福井大学	がん診療推進センター長
磯見 智恵		看護学科成人・老年看護学教授
片山 寛次		がん専門医育成講座 特命教授
元雄 良治	金沢医科大学	腫瘍内科学教授 集学的がん治療センター長
下平 滋隆		再生医療学教授
石垣 和子	石川県立看護大学	石川県立看護大学長
牧野 智恵		実践看護学領域成人看護学分野教授

【教務委員】

氏名	所属	部署/役職
溝上 敦	金沢大学	泌尿器集学の治療学教授
鈴木 健之		がん進展制御研究所 がん分子標的探索プログラム 機能ゲノミクス教授
田嶋 敦		革新ゲノム情報学教授
松下 良		臨床薬物情報学教授
武村 哲浩		保健学系医療科学 量子医療技術学教授
中山 淳	信州大学	医学系研究科長
中沢 洋三		小児医学教室教授
小泉 知展		包括的がん治療学教室教授
北村 寛	富山大学	大学院医学薬学研究部(医学)教授
早川 芳弘		和漢医薬学総合研究所 病態生化学教授
小林 基弘	福井大学	腫瘍病理学教授
磯見 智恵		看護学科成人・老年看護学教授
廣野 靖夫		がん診療推進センター長
片山 寛次		がん専門医育成推進講座 特命教授
下平 滋隆	金沢医科大学	再生医療学教授
川端 浩		血液免疫内科学特任教授
牧野 智恵	石川県立看護大学	実践看護学領域成人看護学分野教授
金谷 雅代		小児看護学講師

【広報委員】

氏名	所属	部署/役職
大島 正伸	金沢大学	がん進展制御研究所 先進がんモデル共同研究センター 腫瘍遺伝学教授
吉崎 智一		耳鼻咽喉科・頭頸部外科学教授
塩沢 丹里	信州大学	産科婦人科学教室教授
新田 淳美	富山大学	医学薬学研究部(薬学) 薬物治療学教授
長田 拓哉		附属病院集学的がん診療センター(第二外科) 副センター長
廣野 靖夫	福井大学	がん診療推進センター長
上野 栄一		基礎看護学教授
犀川 太	金沢医科大学	小児科学教授
新井田 要		総合医学研究所先端医療研究領域教授 遺伝子医療センター長
谷本 千恵	石川県立看護大学	精神看護学准教授
瀧澤 理穂		成人看護学助教

【がんデータベース委員】

氏名	所属	部署/役職
中田 光俊	金沢大学	脳神経外科学教授、副統括コーディネーター
土屋 弘行		整形外科教授
谷本 梓		がん進展制御研究所 腫瘍内科助教
小泉 知展	信州大学	包括的がん治療学教室教授
野見山 哲生		衛生学公衆衛生学教室教授
中沢 洋三		小児医学教室教授
塩沢 丹里		産科婦人科学教室教授
伊藤 研一		外科学第二教室教授
林 龍二	富山大学	臨床腫瘍部教授
関根 道和		医学薬学研究部（医学）教授
吉田 好雄	福井大学	産科婦人科学教授
黒川 哲司		産科婦人科学准教授
西野 善一	金沢医科大学	公衆衛生学教授
浦本 秀隆		呼吸器外科学教授

【オンコロジーセミナー委員】

氏名	所属	部署/役職
矢野 聖二	金沢大学	がんセンター長 腫瘍内科教授 統括コーディネーター
中田 光俊		脳神経外科学教授 副統括コーディネーター
小泉 知展	信州大学	包括的がん治療学教室教授
中沢 洋三		小児医学教室教授
塩沢 丹里		産科婦人科学教室教授
伊藤 研一		外科学第二教室教授
藤井 努	富山大学	大学院医学薬学研究部（医学）教授
梶浦 新也		附属病院集学的がん診療センター緩和ケア部長 助教
片山 寛次	福井大学	がん診療推進センター長 腫瘍病態治療学講座教授
谷澤 昭彦		がん専門医育成推進講座教授
安本 和生	金沢医科大学	腫瘍内科学特任教授
高村 博之		一般・消化器外科学臨床教授
今方 裕子	石川県立看護大学	成人看護学助教

【企画委員】

氏名	所属	部署/役職
絹谷 清剛	金沢大学	核医学教授
谷本 梓		がん進展制御研究所 腫瘍内科助教
伊藤 研一	信州大学	外科学第二教室教授
北村 寛	富山大学	大学院医学薬学研究部(医学)教授
櫻井 宏明		大学院医学薬学研究部(薬学)教授
谷澤 昭彦	福井大学	がん専門医育成推進講座教授
山下 芳範		医療情報部准教授
山田 壮亮	金沢医科大学	臨床病理学教授
川崎 康弘		精神神経科学教授
牧野 智恵	石川県立看護大学	実践看護学領域成人看護学分野教授
松本 智里		成人看護学助教

【多職種連携委員】

氏名	所属	部署/役職
松下 良	金沢大学	臨床薬物情報学教授
崔 吉道		附属病院薬剤部 薬剤部長 教授
稲垣 美智子		臨床実践看護学教授
多崎 恵子		臨床実践看護学准教授
武村 哲浩		保健学系医療科学 量子医療技術学教授
笠島 里美		保健学系医療科学 病態検査学准教授
徳丸 季聡		附属病院診療科栄養管理部栄養管理室長
内田 緑	信州大学	看護部副看護部長
間宮 敬子		附属病院信州がんセンター緩和部門教授
安田 智美	富山大学	医学薬学研究部(医学)臨床看護学成人看護学教授
八塚 美樹		医学薬学研究部(医学)臨床看護学成人看護学教授
新田 淳美		医学薬学研究部(薬学)薬物治療学教授
上野 栄一	福井大学	基礎看護学教授
繁田 里美		成人・老年看護学准教授
影近 謙治	金沢医科大学	医学部リハビリテーション医学特任教授
北村 佳子		看護学部成人看護学講師
牧野 智恵	石川県立看護大学	実践看護学領域成人看護学分野教授
金谷 雅代		実践看護学領域講師

第 I 部 事業の概要

1. 事業の構想

概要

本事業は、県の枠を超えた北信4県（石川県、富山県、福井県、長野県）での戦略的がん医療人育成システム構築を目指し、6大学（金沢大学、信州大学、富山大学、福井大学、金沢医科大学、石川県立看護大学）の強みを生かした最先端がんゲノム医療、小児・AYA世代・希少がんの集学的治療、ライフステージに応じたケアを大学の枠を超えて学修できる、教育プログラム・コースを構築。e-learningによる講義や、2期がんプロで構築したTV会議システムを発展させた北信オンコロジーセミナー、ライフステージ事例検討会等を定期開催し、遠隔教育により多施設・多職種連携を推進する。さらに免疫チェックポイント阻害薬使用例など特色ある症例の北信地域がんデータベースを構築し、学会・論文発表に使用して専攻生や教員の意欲を高めると共に、地域がん対策に活用し成果を社会に還元する。これらの活動により、患者中心のチーム医療を行う超少子高齢化地域で活躍できる先進的がん医療人を輩出し、将来の日本の超少子高齢化社会におけるがん医療人材育成モデルを確立する。

課題

北信地域は全国と比較し、15年以上進んだ超少子高齢化状態にあり、将来の日本を反映したモデル地域である。北信地域でも全国と同様最先端のゲノム医療による高度医療実現、小児・AYA世代・希少がん治療、ライフステージごとの対応が必要だが、進行した超少子高齢化により、社会を支える小児・AYA世代・働き盛り世代がんの最適な診療・治療・就労支援、増加した高齢者がんの最適な治療・在宅緩和ケアが喫緊のニーズである。これまでは金沢大の先進的な集学的個別化ゲノム医療、信州大の小児・AYA世代がん診療、金沢医大の希少がん病理診断や集学的治療、富山大の高齢者がん対策、福井大の先進的在宅緩和ケア、石川看護大の全人的ケアと認定看護師養成等、各大学が特徴ある診療やがん医療人育成を行ってきた。しかし北信地域では医療スタッフが少ない、小児・AYA世代・希少がん症例数が少ない、地域として医療実態の把握がなされていない等、がん医療人育成における地域的医療課題がある。

対応策

北信地域に適合するがん医療人材育成のためには、6大学の強みを生かした相互補完的教育の実施、症例数が少ないがんでも効率よく経験できる遠隔教育・研修システムの確立、北信地域全体の症例・がん医療のデータベース化による医療実態の把握等に取り組み、県の枠を超えた戦略的ながん医療人育成システム構築が必要である。現状の北信地域で多様なニーズに対応した患者中心のチーム医療を行う先進的がん医療人材育成モデルを構築できれば、将来の日本の超少子高齢化社会で活躍するがん医療人材を育成できると考えられる。

新規性・独創性

本事業（北信がんプロ）においては、北信6大学の強み（金沢大：先進的な集学的個別化ゲノム医療、信州大：がん診療に詳しい認定遺伝カウンセラー養成、小児・AYA世代がん診療、金沢医大：希少がん病理診断や集学的治療・就労支援、富山大：高齢者がん対策、福井大：先進的在宅緩和ケア、石川看護大：患者のライフステージに合わせた全人的ケア・認定看護師養成）を生かした相互補完的教育プログラムを19コース新設（本科10コース、インテンシブ9コース）し、大学の枠を超えて履修できる共通選択科目や単位互換の導入によって、北信地域における多様な新ニーズに対応できる知識を相互補完的に習得できる特色がある。

また、2期がんプロでの北陸5大学と共通のTV会議システムを信州大にも導入し、TV会議システムを活用した従来の北陸がんプロキャンサーボードをさらに充実・発展させた、北信地域での遠隔教育システムの構築・活用に取り組む。遠隔教育システムにより6大学やがん診療連携拠点病院の専攻生や教員、医療スタッフ等の多職種が一堂に会する北信オンコロジーセミナー（病態や治療中心）やライフステージ事例検討会（患者ケア・支援中心）を定期開催する。

これにより北信地域全体の多職種が、最先端のゲノム医療、小児・AYA世代・高齢者がんや希少がん症例の研究、診断、治療、緩和ケア、就労支援等を効率的に学修することができる。地域医療機関との人材交流、金沢大がん進展制御研究所や国立がん研究センター、シンガポール国立大、復旦大等との連携を利用した国際シンポジウムも実施する。さらに、各大学教員を海外連携機関へFD研修に派遣（平成33年度末までに各大学1回）し、スタッフの活性化とレベルアップを図る。海外FD研修の参加者は、上記TV会議システムを活用した北信地域でのFD講習会で成果発表（成果共有・還元）すると共に、多職種のスキルアップ指導を行う。これらの取り組みによって、多施設・多職種連携を一層推進するチーム医療教育を行うところに本事業の独創性がある。

北信地域のがん症例・がん医療（先進的医療を含む）の実態を把握するため、北信地域のがん診療連携拠点病院（28施設）の院内がん登録データを活用するとともに、金沢大附属病院先端医療開発センター（データマネジメント部門）が作成する電子入力システム（Ptoshを応用）を用い、免疫チェックポイント阻害薬や分子標的薬使用症例、在宅緩和ケア実施症例、障がい者がん症例、妊孕性保存症例など特色ある症例を対象とした独自の北信地域がんデータベースを新たに構築する。それを基盤とした臨床研究（高額な薬剤の有効利用法の探索を含む）成果の国内・国際学会発表や英語論文発表を推進することで、専攻生や教育スタッフの意欲を高め、本事業の求心力を保ち、データベースの情報や論文等の成果を北信がんプロの教育コースへも還元する。研究成果を継続的に社会に発信・還元することで、将来のがん対策の一環として地域住民へ「がん教育（がんの理解）・予防・検診受診・早期発見・早期治療・早期社会復帰」に対する啓蒙を行う。

以上の県の枠を超えた戦略的がん医療人材育成システム構築活動により6大学から輩出される医師・歯科医師・薬剤師・看護師・遺伝カウンセラー等は、現状の北信地域、ひいては将来の日本の超少子高齢化社会において、ゲノム医療や多職種による就労支援及び切れ目ない緩和ケアを実践し活躍できる先進的がん医療人材となることが期待されるが、このような育成モデル確立に挑戦する点に最大の新規性がある。

社会との関係

信州大を中心とした遺伝カウンセラー養成では、家族性腫瘍（乳がん、卵巣がん等を含む）の患者・家族のカウンセリングを行い、心のケアや検診・早期発見・早期治療を支援する。また、北信地域の患者会等と連携し、地域メディア（テレビ、新聞、雑誌等）や合同市民公開講座を通じて地域住民にがん教育を行い、がん予防、検診受診による早期発見・早期治療、早期社会復帰等の啓蒙活動を積極的に行う。これらの活動を通じて患者や家族の意見を収集し、北信がんプロ運営協議会でその対応を議論し、がん患者及び家族の視点に立った取組みを推進する。また、2期北陸がんプロでは小・中学校教諭向けがんe-learning教材を作成し、北陸3県の小・中学校に無償配布を行った。本事業ではゲノム医療、小児・AYA世代・希少がん等の内容を盛り込んだ教材の改訂を行い、北陸3県に加えて長野県や高校にも配布し、がん教育を支援する。全国的にも実態が把握されていない障がい者のがんや特にAYA世代のがん患者や家族において重大な問題となる妊孕性保存についても北信地域がんデータベースで実態を把握し、患者

や家族のための対策立案に取り組む。

キャリア教育・キャリア形成支援

北信がんプロでは教員（各大学数名ずつ）を海外連携機関へFD研修に派遣し、後日TV会議システムを活用した北信地域でのFD講習会で成果発表させることにより、国際化と教育のキャリア形成を行う。また、多職種連携、役割分担によるチーム医療を通じて業務の効率化を試み、女性でも継続的勤務が可能な働きやすい職場環境の実現を目指す。2期北信がんプロで看護師の復帰支援の取組を行い実績を上げたが、連携施設間で他施設の長所を取り入れ、医師、歯科医師、薬剤師、遺伝カウンセラー、ソーシャルワーカー、放射線技師、リハビリテーション技師、栄養士等を含む多職種についても復帰支援を積極的に行う。

2. 達成目標・評価指標

教育プログラム・コースにより、本事業全体として、355名の医師、薬剤師、看護師、遺伝カウンセラー等を輩出し、北信地域における超少子高齢化社会に対応した地域医療従事者の輩出および北信地域医療へ貢献する。

その他の指標としては、多職種連携、FD講習、人材交流などの人材育成のためのセミナーやシンポジウムの回数、地域医療レベル向上のための地域医療機関での診療回数、セミナーの実施回数、地域のがん医療の実態を把握する北信地域がんデータベースで機能するデータベース項目数等を掲げる。

その他の指標としては、多職種連携、FD講習、人材交流などの人材育成のためのセミナーやシンポジウムの回数、地域医療レベル向上のための地域医療機関での診療回数、セミナーの実施回数、地域のがん医療の実態を把握する北信地域がんデータベースで機能するデータベース項目数等を掲げる。

本科生コース 平成30年4月受入れ開始								
教育コース	対象	H30	H31	H32	H33	合計		
金沢大	先進的個別化医療	医師等	5	5	5	5	20	
	個別化薬物療法	薬剤師	1	2	2	2	7	
	高度化医学物理士	物理士	2	2	2	2	8	
信州大	ゲノムがん治療医	医師	2	2	2	2	8	
	遺伝カウンセラー	多職種	1	1	1	1	4	
富山大	高齢がん患者対策	医師	4	4	4	4	16	
	個別化医療薬剤師	薬剤師	1	1	1	1	4	
福井大	地域がん専門医	医師	2	2	2	2	8	
金沢医大	がん専門医リーダー	医師	2	2	2	2	8	
石川看護大	ライフステージ	看護師	2	2	2	2	8	
合計			22	23	23	23	91	
インテンシブコース 平成29年10月受入れ開始（一部平成30年4月開始）								
教育コース	対象	H29	H30	H31	H32	H33	合計	
金沢大	がんゲノム生涯教育	医師等	2	6	6	6	6	26
	個別化薬物療法	薬剤師	0	1	2	2	2	7
富山大	高齢がん患者対策	医師	2	2	2	2	2	10
	高齢対策薬剤師	薬剤師	1	2	2	2	2	9
福井大	在宅緩和ケア	看護師	0	1	2	2	2	7
	在宅栄養管理	医師等	0	12	22	22	22	78
金沢医大	在宅緩和ケア	医師等	0	24	24	24	24	96
	がん臨床的治療	医師	1	2	2	2	2	9
石川看護大	がんライフケア	多職種	2	5	5	5	5	22
合計			8	55	67	67	67	264
シンポジウム等（5年間）								
名称	参加校数	開催数				参加者数		
多職種連携	北信オンコロジーセミナー	6	18			6,500		
セミナー	ライフステージ事例検討会	6	30			4,500		
FD	海外FD研修	6	1回/校			30		
	FD講習会	6	3			90		
人材交流	国際シンポジウム	6	2			400		
	市民公開講座	6	5			1,000		
	地域医療機関での診療	6	3,000			3,000		
実態把握	北信地域がんデータベース	7種類以上の機能する疾患データ						

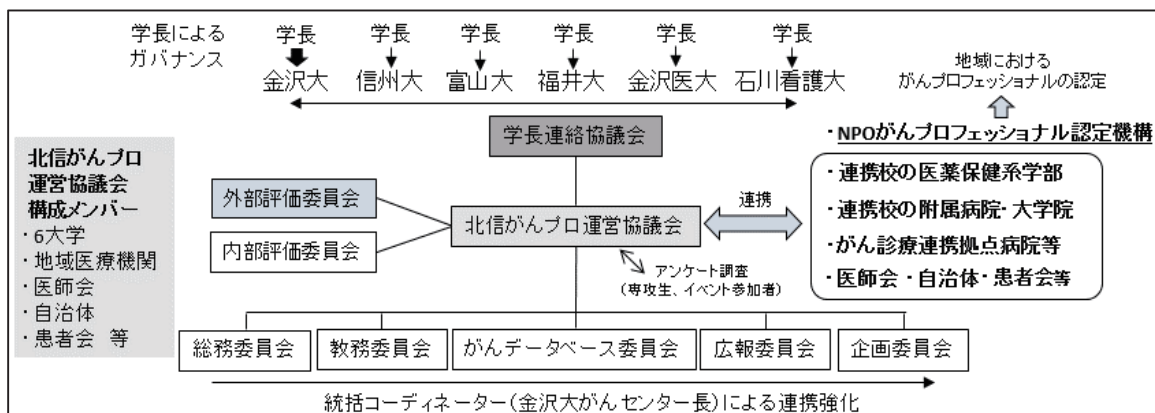
3. 事業の実現可能性

(1) 事業の運営体制

① 事業の実施体制

各大学の学長が各施設においてガバナンスを発揮して事業を推進する。全学長が集まる学長連絡協議会を設置し、事業の進捗を管理する。6大学・地域医療機関・医師会・自治体・患者会等による運営協議会（年1回開催）を設置し、実際的意思決定及び運営を行う。さらに6大学

による総務委員会（ステアリングコミッティー）、教務委員会、がんデータベース委員会（がんデータベースの個人情報管理状況、倫理審査状況も掌握）、広報委員会、企画委員会等を設置（年数回開催）し、実務を担当する。金沢大学がんセンター長が統括コーディネーターとして6大学の連携強化・調整を行う。



② 事業の評価体制

内部評価委員会（研究科長等の内部有識者）及び外部評価委員会（地域医療機関の長や患者会代表等の外部有識者）を立上げ、事業（特に数値目標の達成状況や一般向け情報発信状態）を定期的（中間、最終）に評価する。各評価委員会が評価結果を北信がんプロ運営協議会に提出し、同協議会で評価に対するPDCAサイクルを回して事業計画を見直し、運営状態の改善を常に図る。また、専攻生や市民公開講座等のイベント参加者へのアンケート調査を行い、同様に事業内容改善を図る。

③ 事業の連携体制（連携大学、自治体、地域医療機関、民間企業等との役割分担や連携のメリット等）

連携6大学では学長連絡協議会・北信がんプロ運営協議会等の実施体制を整備し、各大学の強みを生かした相互補完的教育プログラムのコースを設置する他、北信オンコロジーセミナーやライフステージ事例検討会等を実施することで、多施設・多職種連携・チーム医療教育を行いスキルアップを図る。北信地域がんデータベースは金沢大附属病院先端医療開発センター（データマネジメント部門）による電子入力システム（Ptoshを応用）構築で、円滑なデータ管理・運用が可能となるメリットがある。

また、本事業の実施にあたり、金沢大がん進展制御研究所、国立がん研究センター、がん拠点病院・医師会、患者会、海外連携施設、他のがんプロチーム、文科省人材養成プログラム等と連携する。金沢大がん進展制御研究所によりがんゲノム等の基礎知識教育を実施する。国立がん研究センター（金沢大が連携協定締結）が実施中のがん遺伝子解析事業（SCRUM-JAPAN）と連携し、分子標的薬等による個別化医療研究・医師主導治験に関する支援を受け北信がんプロ及び北信地域の先進的医療の推進を図る。シンガポール国立大や復旦大等の海外連携施設では教育・医療スタッフが海外FD研修（各大学が1回海外出向する）を受け、医療のグローバル化を見据えて教育・医療スタッフの能力向上を図るとともに、FD講習会により北信地域の医療従事者や北信がんプロの教育コース専攻生に教育成果を還元する。北信4県のがん拠点病院（28施設）や医師会との連携では北信地域がんデータベース作成の支援を受ける一方で、人材交流による地域がん医療レベルの向上に貢献する。また、合同市民公開講座開催で予防・検診受診による早期発見・早期治療・早期社会復帰の概念を市民に啓蒙・普及させる。4県の患者会とは運営協議会や市民公開講座を通じて患者の意見を広く取り入れることで、患者目線の医療立案に役立てる。他のがんプロチームとは合同シンポジウムを開催（H30年2月に名古屋大等と血

液がんシンポ開催予定)し、連携を深め本事業の普及を図る。他の文科省人材養成プログラム「(未来医療人材養成プログラム(金沢大・第三の道)、課題解決型高度医療人材養成プログラム(金沢大・北陸認知症プロフェッショナル医養成プラン、信州大・次世代スーパードクターの育成)」とも合同シンポジウム等で人材交流・相互のプロジェクト内容の改善を図る。

全国規模の e-learning システムに参画し、新規教材作成に協力して本事業の情報発信を行う一方で、必須科目教材の提供を受ける。

(2) 取組の継続・事業成果の普及に関する構想等

①取組の継続に関する構想

将来の日本の超少子高齢化社会で活躍できるがん医療人材の戦略的育成のため、本事業で設置した教育コース、連携事業等は基本的に各大学の学長のガバナンスにおいて予算を確保して継続させる。特に、北信地域がんデータベース構築事業は、北信地域ひいては将来の日本の超少子高齢化社会における効率的ながん医療人材教育システム構築に向けた基盤形成事業と位置付け、改善・発展させながら継続する。そのために、自己資金の支出のみに依存せず、公的研究費獲得に向けた申請を継続的に行う。

②事業成果の普及に関する計画

本事業で構築するがん医療人材育成システムは、将来の日本の超少子高齢化社会においても機能するがん医療人材育成モデルであり、国内のがん関連学会(日本癌学会、日本癌治療学会、日本臨床腫瘍学会等)や市民公開講座、ホームページ、マスメディア(TV、新聞、雑誌等)等を通じて成果を発信し、国民に「がん教育・予防・検診受診促進・早期発見・早期治療・早期社会復帰」の意識付けができるよう啓蒙に努める。

北信がんプロの実施事業

大学院生・医療従事者向け

①全国 E クラウドによる e-learning 講義

インターネット環境があればどこでも学修できる e-learning 教材で最先端がんゲノム医療、小児・AYA 世代・希少がんの集学的治療、ライフステージに応じたケアを、大学、地域の枠を超えて学修できるようにします。

②TV 会議システムによる遠隔演習

連携大学、がん診療連携拠点病院などで受講可能とした、TV 会議システムを介して北信オンコロジーセミナー等を定期開催し、遠隔教育により多施設・多職種連携を推進します。

③北信がんデータベースの構築

特色ある症例を集めた「北信地域データベース」を構築し、受講生や教員が「学会・論文発表に活用するとともに、地域のがん対策に運用していきます。

教職員、受講生向け

④FD海外研修などのスタッフ研修

海外研修を実施し、最先端ゲノム医療や緩和ケア、グリーフケアなどを学んだ参加教員が、講習会を開いて最新の治療や緩和ケア等の情報共有を図ります。

大学間

⑤大学間

他エリアのがんプロ拠点や、人材育成プログラムと積極的に連携し、国際シンポジウム、合同シンポジウムを開催します。

市民向け

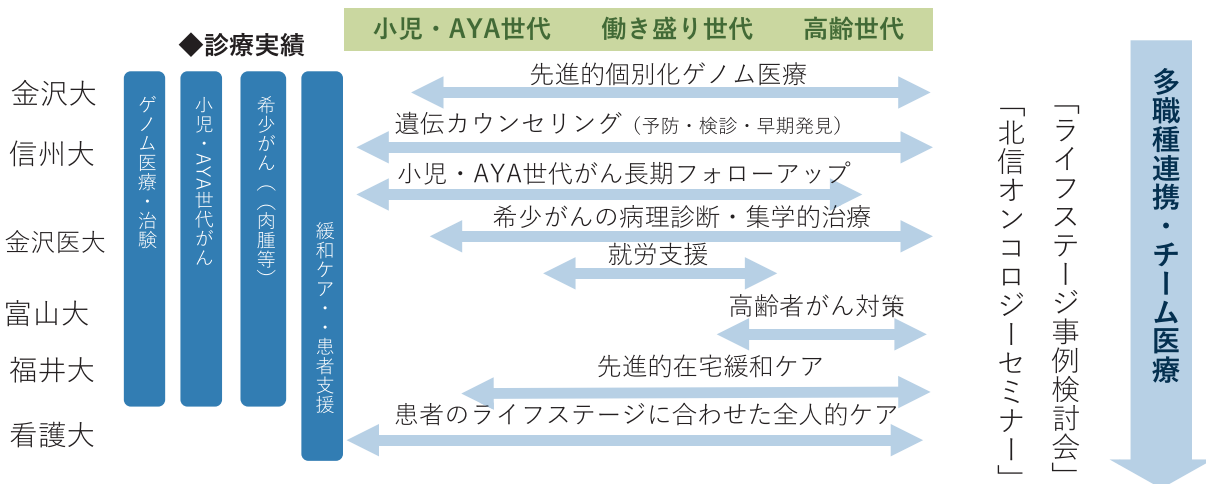
⑥市民啓発・がん教育

患者会や北信4県の自治体、医師会、がん拠点病院と連携し、公開講座やシンポジウムを開催して、がんに関する正しい理解の啓蒙と情報発信に努めます。

◆各大学の強みを生かした相互補完的教育コース (本科10コース、インテンシブ9コース)

多施設・多職種連携の演習

TV会議システム、
遠隔教育システム活用



特徴ある症例の地域がんデータベース構築

「将来の日本を映し出すデータベース」

大学院生による学会・英語論文発表

モチベーションを高め事業の求心力を保つ

社会に対する成果の発信・還元

⇒がん教育・予防・検診受診・早期発見・
早期治療・早期社会復帰へ

超少子高齢化地域で活躍する
先進的がん医療人



予防からケア、啓発まで

「将来の日本の
がん医療人育成モデル」

令和元年度 教育プログラム・コース

■本科生コース

	教育コース
金沢大学	◆先端的個別化医療コース 【医薬保健学総合研究科医学専攻】
	◆がん個別化薬物療法薬剤師リーダーコース 【医薬保健学総合研究科薬学専攻】
	◆個別化高度化を担う医療技術・医学物理人材育成コース 【医薬保健学総合研究科保健学専攻】
信州大学	◆ゲノム医療に精通したがん治療医育成コース 【総合医理工学研究科医学系専攻・生命医工学専攻】
	◆がん診療に詳しい認定遺伝カウンセラー養成コース 【医学系研究科医科学専攻】
富山大学	◆高齢がん患者対策専門コース 【医学薬学教育部生命・臨床医学専攻・東西統合医学専攻】
	◆高齢化した地域医療を個別化医療で支えることができる 高度薬剤師養成コース 【医学薬学教育部薬学専攻】
福井大学	◆地域がん専門医養成コース 【医学系研究科統合先進医学専攻】
金沢医科大学	◆がんプロフェッショナルがん専門医リーダー養成コース 【医学研究科生命医科学専攻】
石川看護大学	◆がんライフステージコース 【看護学研究科(博士前期課程) 看護学専攻実践看護学領域成人看護学分野】

令和元年度 教育プログラム・コース

■ インテンシブコース

	教育コース
金沢大学	◆がんゲノム医療生涯教育コース 【医薬保健学総合研究科医学専攻】
	◆がん個別化薬物療法実践薬剤師コース 【医薬保健学総合研究科薬学専攻】
	◆がんゲノム多職種連携入門コース 【医薬保健学総合研究科】
信州大学	◆がん専門医療人養成インテンシブコース 【医学系研究科医科学専攻】
富山大学	◆高齢がん患者対策専門コース 【医学薬学教育部生命・臨床医学専攻・東西統合医学専攻】
	◆高齢化した地域医療を個別化医療で支えることができる 専門的薬剤師養成コース 【医学薬学教育部薬学専攻】
	◆在宅がん緩和リハビリテーションコース 【医学薬学教育(博士前期課程)医学領域看護学専攻成人看護学分野】
福井大学	◆在宅栄養管理コース 【医学部】
	◆在宅緩和医療コース 【医学部】
金沢医科大学	◆がん集学的治療医養成コース 【医学研究科生命医科学専攻】
石川看護大学	◆がんライフケアコース 【看護学研究科(博士前期課程) 看護学専攻実践看護学領域成人看護学分野】

令和元年度開設

教育プログラム・コースの概要

大学名等	金沢大学大学院医薬保健学総合研究科医学専攻						
教育プログラム・コース名	先端的個別化医療コース						
対象者	医薬保健学総合研究科医学専攻大学院学生						
修業年限（期間）	4年						
養成すべき人材像	ゲノム解析等により分子標的薬や免疫チェックポイント阻害薬の最適化使用を目指す先端的研究を理解し、遺伝子解析に基づく最適の集学的個別化医療（手術、放射線、薬物治療等）を実践できる医師及び歯科医師を養成する。						
修了要件・履修方法	<p><修了要件>北信がんプロフェッショナル授業科目のうち、選択必修科目5単位を含む10単位以上を取得し、研究論文が学位審査に合格すること。</p> <p><履修方法>e-learning教材、TV会議によるセミナー、演習等で履修する。</p>						
履修科目等	<p><選択必修科目>分子生物学入門（1単位）、分子腫瘍学特論、ほか3科目</p> <p><選択科目>がんゲノム学特論（1単位）、小児・AYA世代・希少がん特論（1単位）、在宅緩和ケア特論（1単位）、老年医療学特論（1単位）、がんライフステージ演習（1単位）、腫瘍薬物学特論（1単位）、臨床腫瘍学演習（1単位）ほか10科目</p>						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	従来の個別化医療は主に遺伝子解析に基づく薬物療法であったが、本コースでは、今後のわが国で必要とされる遺伝子解析に基づいた最適の集学的治療（手術、放射線、薬物治療の逐次・同時併用を含む）を行うために必要な一連の過程（遺伝子解析検査説明と同意取得、検体採取と提出、遺伝子解析結果の解釈と患者への説明、治療法選択と治療の実施、効果判定と副作用対策、再発時の対応など）を全て北信がんプロ科目において学習し、実践できる能力を養う点に独創性がある。演習で、金沢大学附属病院において実施されている医師主導治験や先進医療等の実際を学ぶ（先端医療開発センターや国立がんセンターと連携）。選択演習として、ゲノム解析等により分子標的薬や免疫チェックポイント阻害薬の最適化使用を目指す先端的基礎を実際に行う（がん進展制御研究所との連携）プランを設定するところにも特色がある。						
指導体制	本コースでは、金沢大学がん進展制御研究所や金沢大学の遺伝子解析、個別化医療研究のエキスパートやがんプロ卒業生が、実際に進行しているプロジェクトを通じたon-the-jobトレーニングを行う。また、e-learningやTV会議セミナー等も活用して幅広く能率的に指導する。指導方法の標準化について教務委員会で検討する。						
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	本コースで養成された人材は、がんゲノム医療における世界水準の知識・技能・研究力を有し、将来、医学教育機関等のスタッフやがん診療連携拠点病院等の地域基幹病院におけるがんゲノム診療のリーダーとして貢献するとともに、高額な薬剤の有効利用により医療費コストの軽減に貢献する。						
受入開始時期	平成30年4月						
受入目標人数	対象者	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	計
	大学院学生	/	5	5	5	5	20
	計	0	5	5	5	5	20

教育プログラム・コースの概要

大学名等	金沢大学大学院医薬保健学総合研究科薬学専攻						
教育プログラム・コース名	がん個別化薬物療法薬剤師リーダーコース						
対象者	医薬保健学総合研究科薬学専攻大学院学生						
修業年限（期間）	4年						
養成すべき人材像	がん・緩和薬物療法の安全性・有効性を向上させ、がん患者の多様性に応じた個別化薬物療法の処方支援、有害事象回避ができる人材。 がん・緩和薬物療法に関する最新知識を有するとともに、がん患者の心理を良く理解し、チーム医療の中で他の医療従事者を支援できる人材。 以上の様な業務を先駆けて実践し、広めていくことができるリーダー。						
修了要件・履修方法	<p><修了要件>北信がんプロフェッショナル授業科目6単位〔選択必修の基礎科目2単位、実習、演習科目1単位を含む〕を修得すること。</p> <p><履修方法>e-learning教材、TV会議によるセミナー、演習等で履修する。実習演習科目は、金沢大学医薬保健研究域薬学系又は附属病院を中心に富山大学を含めた他大学及び医療施設と共同で実施する。スクーリング、TV会議によるセミナー、演習等の中から選択して履修する。</p>						
履修科目等	<p><選択必修科目（基礎科目）>分子腫瘍学特論、臨床統計学特論、臨床栄養学特論（各1単位）</p> <p><選択必修科目（実習、演習科目）>先進的がん薬物療法個別化実習（0.5単位）、がんリスクマネジメント実習（0.5単位）、有害事象解析演習（0.5単位）、がんライフステージ演習（0.5単位）</p> <p><選択科目>>腫瘍薬物学特論（1単位）、がん緩和医療学特論（1単位）、がんゲノム学特論（1単位）、小児・AYA世代・希少がん特論（1単位）、在宅緩和ケア特論（1単位）、老年医療学特論（1単位）ほか4科目</p>						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	全国的にも非常に少ない6年制学士課程の本コース入学者が、将来の薬剤師の教育者、研究者・指導者となること目標とし、がん個別化薬物療法に特化した専門能力を向上させるための4年制博士課程教育の充実をはかる点に独創性がある。患者の多様性に応じた個別化薬物療法の実践に必要な薬剤師のスキル（薬物療法の最適化・個別化、有害事象回避、抗がん剤・医療用麻薬の混合調製など）を地域・職種の壁を越えて教育し、多職種連携のリーダーとなる薬剤師を養成するところに新規性がある。						
指導体制	がん・緩和薬物療法に関連する専門資格を有する金沢大学の薬学系教員・薬剤師が、臨床現場等でon-the-jobトレーニングにより指導する。						
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	本コース修了者は、本プログラムを基盤として、日本医療薬学会が認定するがん専門・指導薬剤師や日本緩和医療薬学会が認定する緩和薬物療法認定薬剤師の資格取得が可能となる。更に、がん薬物療法の個別化及び安全性向上を実践し、ん薬物療法及び地域包括ケアを推進する多職種連携のリーダーとなる薬剤師のキャリア形成につながる。						
受入開始時期	平成30年4月						
受入目標人数	対象者	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	計
	大学院学生	/	1	2	2	2	7
	計	0	1	2	2	2	7

教育プログラム・コースの概要

大学名等	金沢大大学院医薬保健学総合研究科保健学専攻						
教育プログラム・コース名	個別化高度化を担う医療技術・医学物理人材育成コース						
対象者	医薬保健総合研究科（博士後期課程）保健学専攻大学院学生						
修業年限（期間）	3年						
養成すべき人材像	がん治療において基礎的及び臨床的がん診療を理解し、より高度化した放射線治療において放射線技術および医学物理学による個別化医療を目指す臨床研究を実践できる診療放射線技師・医学物理士を養成する。						
修了要件・履修方法	<p><修了要件>機能画像解析学特別研究もしくは量子診療技術学特別研究（6単位）、放射線治療物理臨床技術学特講（2単位）、臨地専門マネジメント演習（2単位）を必修とすること、及びその他、北信がんプロフェッショナル授業科目2単位以上を履修することとし、合計12単位以上の修得が必要。また、個別化医療の基礎・臨床研究を行い、研究論文が学位審査に合格すること。</p> <p><履修方法>e-learning教材、TV会議によるセミナー、演習等で履修する。</p>						
履修科目等	<p><選択必修科目>放射線治療物理臨床技術学特講（2単位）、臨地専門マネジメント演習（2単位）、機能画像解析学特別研究もしくは量子診療技術学特別研究（6単位）</p> <p><選択科目>腫瘍薬物学特論（1単位）、腫瘍放射線医学特論（1単位）、がん緩和医療学特論（1単位）、コンサルテーション論（2単位）、分子生物学入門（1単位）、医療統計学特論（2単位）、がんゲノム学特論（1単位）、小児・AYA世代・希少がん特論（1単位）、在宅緩和ケア特論（1単位）、老年医療学特論（1単位）、北信オンコロジーセミナー（1単位）、がんライフステージ演習（1単位）</p>						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	2期までのがんプロで放射線治療技術の底上げを目指した教育により、放射線治療技術の均てん化は進んできた。その為、2期がんプロのがん専門放射線技術・医療物理コースを改修し、放射線治療技術の更なる高度化や個別化医療に資する人材を育成することを目指す。本コースはその点に新規性がある。また、より高精度な放射線治療技術及び個別化放射線治療の包括的な知識を習得させ、自身で個別化要因を洗い出し、研究を計画・実施・評価できる能力を養う点に独創性がある。金沢大学附属病院におけるon-the-jobトレーニング演習と北陸オンコロジーセミナー等への参加により、より実践的な技術及びがん治療の全体像を学習する点に特色がある。						
指導体制	本コースでは、金沢大学医薬保健総合研究科保健学専攻と金沢大学附属病院の教員やがんプロ卒業生により直接on-the-jobトレーニングを行う。e-learningやTV会議等も活用して幅広く能率的に指導する。指導方法の標準化について、連携協議会で検討する。						
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	本コースで養成された人材は、世界水準の研究力を有し、将来、医学教育機関等のスタッフやがん診療連携拠点病院等の地域基幹病院における研究及び放射線治療の品質管理のリーダーとして貢献する。得られた知識や研究からの副作用の少ない放射線治療を医師と共同で実践し医療費コストの軽減に貢献する。						
受入開始時期	平成30年4月						
受入目標人数	対象者	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	計
	大学院学生	/	2	2	2	2	8
	計	0	2	2	2	2	8

教育プログラム・コースの概要

大学名等	信州大学大学院総合医理工学研究科						
教育プログラム・コース名	ゲノム医療に精通したがん治療医育成コース						
対象者	総合医理工学研究科医学系専攻及び生命医工学専攻大学院学生						
修業年限（期間）	4年						
養成すべき人材像	1) 遺伝性・家族性のがんを含めた幅広いがん治療に精通する医師、2) 個別化医療やゲノム医療の実際を経験し、その重要性を理解し、その推進に関わることができる医師 3) 個別化医療やゲノム医療へのリサーチマインドを有する医師						
修了要件・履修方法	<p><修了要件>医学系専攻または生命医工学専攻の修了要件計32単位を修得し、研究論文が学位審査に合格すること。</p> <p><履修方法>各専攻の対象専門科目を履修し、コース必修のe-learning科目の履修、TV会議によるセミナー、演習等で履修する。</p>						
履修科目等	<p>医学系専攻</p> <p><研究科共通科目>先鋭領域融合研究群最先端研究特講（2単位）</p> <p><専攻共通科目>生命倫理・研究倫理特論（2単位）、医学統計・疫学特論（2単位）、生涯保健学研究法特論（2単位）</p> <p><分野共通科目>医科学研究遂行特論（2単位）ほか6科目</p> <p><専門科目>論文演習（2単位）、特別研究（10単位）、ほかがん・ゲノム関係科目</p> <p>生命医工学専攻</p> <p><研究科共通科目>先鋭領域融合研究群最先端研究特講（2単位）</p> <p><専攻共通科目>社会医工学特論（2単位）、イノベーションセミナー（2単位）</p> <p><分野共通科目>特別演習Ⅰ（2単位）、特別演習Ⅱ（2単位）</p> <p><専門科目>特別演習Ⅲ（4単位）、生命倫理・研究倫理特論（2単位）、医科学研究遂行特論（2単位）、ほかがん・ゲノム関係科目</p> <p>両専攻共通</p> <p><コース必修科目>がんゲノム医療（1単位）、小児・AYA・希少がん（1単位）、ライフステージに応じたがん医療（1単位）〔全国共通e-learning科目〕</p>						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	当研究科では 1) 先のがんプロ事業で新規講座を開設し、その担当診療科で、AYA世代から高齢者に渡り、多がん種のがん診療を行う体制を整備した。2) 小児の血液がんおよび悪性腫瘍の診療・研究・指導体制が充実している。3) 附属病院遺伝診療研究センターで、遺伝性・家族性腫瘍患者のデータベースおよび診療が整備されている。4) 附属病院ではゲノム医療推進の試みとしてクリニカルシーケンス開設の準備中である。5) このコースでは、幅広いがん診療・治療を経験させながら、個々のがんゲノム医療の重要性とリサーチマインドを持つ医療人を育成する。						
指導体制	当研究科は従来より大学院生に対して主および副担任制度を設けている。本コースに配属する大学院生に関しては必ずコーディネイターおよび事業推進委員のどちらかの担任となり指導体制をとる。事業推進委員の各教室が連携して幅広い領域の臨床研鑽を可能とし、研究指導を行う。なお、本学医学系研究科（博士課程）は、平成30年度に総合工学系研究科とともに「総合理医工学研究科」を設置すべく準備中であり、新たな研究科の中で人材養成を行う。						
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	当施設は先のがんプロにおいて大学院修了者を県内の地域がん拠点病院に輩出（2名）及び学内で指導者（2名）として雇用している実績がある。また当附属病院は都道府県がん拠点病院としての責務もあり、院外からも多くの若手ががん治療医の短期研修（総勢3名）の受け入れをし、がん薬物療法専門医等の受験資格までの指導を行ってきた。この事業でも修了者は、県内7か所の地域がん診療連携拠点病院との人材ネットワークの中核として県内全体のがん研究・診療の向上に寄与させる。						
受入開始時期	平成30年4月						
受入目標人数	対象者	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	計
	医師	0	2	2	2	2	8
	計	0	2	2	2	2	8

教育プログラム・コースの概要

大学名等	信州大学大学院医学系研究科医科学専攻						
教育プログラム・コース名	がん診療に詳しい認定遺伝カウンセラー養成コース						
対象者	医学系研究科（修士課程）医科学専攻大学院生						
修業年限（期間）	2年						
養成すべき人材像	認定遺伝カウンセラー資格を取得できる能力を身につけた医療人。 家族性・遺伝性がん診療における遺伝カウンセリングの重要性を理解でき、臨床の現場で実践できる医療人。 がん診療におけるクリニカルシーケンスの意義を理解し、臨床の現場で実践できる医療人。 遺伝性がんに関するリサーチマインドを有する医療人。						
修了要件・履修方法	<p><修了要件> 遺伝カウンセリングコースの科目（修士課程必修科目26単位、修士課程選択必修科目4単位、計30単位及びコース必修科目23単位）に選択科目として臨床腫瘍学、がんサロン実習等を加え、がん診療に詳しい認定遺伝カウンセラーとなるに相応しい能力があることを試験により確認する。</p> <p><履修方法> e-learning教材、TV会議によるセミナー、演習等で履修する。</p>						
履修科目等	<p><必修科目> 医科学研究概論（1単位）、生命倫理・医学概論（3単位）、健康科学概論（1単位）、人間機能・形態学概論（1単位）、ほか8科目</p> <p><選択必修科目> 医科学研究方法論演習Ⅰ～Ⅵ（各2単位）</p> <p><コース必修科目> 基礎人類遺伝学（4単位）、遺伝医学（1単位）、染色体検査実習（1単位）、遺伝カウンセリングロールプレイ（2単位）、ほか6科目</p> <p><コース選択科目> ライフサイエンス知的財産概論（2単位）、医学科臨床腫瘍学（2単位）、臨床腫瘍学研究特論（2単位）、がんサロン実習（6単位）、ほか4科目</p> <p>全国共通のe-learning科目〔がんゲノム医療（1単位）、小児・AYA・希少がん（1単位）、ライフステージに応じたがん医療（1単位）〕</p>						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	信州大学では平成15年本邦で初めて遺伝カウンセリングコースを設定し、毎年1～3名の学生を受け入れ、今までに15名の認定遺伝カウンセラーを全国（長野県以外では、長崎県、岡山県、福岡県、福島県2名、兵庫県、奈良県、新潟県、大分県）に輩出してきた。このコースでは、従来存在するコースの履修内容に追加して、がんに関する講義と実習の場を選択的に設定することで、がん診療に詳しい認定遺伝カウンセラーを養成する。北陸5大学との連携により、広報に努め、北陸地方からの応募者を積極的に受け入れる。						
指導体制	従来の修士課程遺伝カウンセリングコースでは、遺伝医学・予防医学教室及び附属病院遺伝子医療研究センターの教員が、担任として、ほぼマンツーマンの体制で指導し、認定遺伝カウンセラーを養成してきたが、今回開設する「がん診療に詳しい認定遺伝カウンセラーコース」では、遺伝医学・予防医学教室、附属病院遺伝子医療研究センターに加えて包括的がん治療学教室及び小児医学教室の教員が副担任となり、学生の指導にあたる。						
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	本コース修了者は、臨床の現場特に当院で始めるクリニカルシーケンスの現場に携わる医療人を目指す。また、関連施設で、遺伝子性のがん診療の現場で遺伝カウンセリングに対応し、遺伝性腫瘍の疫学、臨床研究に参加・関与・推進する。						
受入開始時期	平成30年4月						
受入目標人数	対象者	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	計
	カウンセラー	0	1	1	1	1	4
	計	0	1	1	1	1	4

教育プログラム・コースの概要

大学名等	富山大学大学院医学薬学教育部生命・臨床医学専攻・東西統合医学専攻						
教育プログラム・コース名	高齢がん患者対策専門コース						
対象者	医学薬学教育部大学院学生、医学科研究医養成コース履修者（学部学生）						
修業年限（期間）	4年（学部2年）						
養成すべき人材像	がん患者の多数を占める高齢がん者の診療を行う上で必要となる老年医学を学び、脆弱な高齢者にあった診療を実現する専門医を養成する。本人の健康状態だけではなく、介護状況などの社会背景、家族への配慮も必要となるため、幅広い全人的医療を行う専門医を養成する。						
修了要件・履修方法	<p><修了要件>必修科目26単位以上、選択科目8単位以上合計34単位以上を履修し、高齢者がんに関する基礎又は臨床研究を行い、研究論文が学位審査に合格すること。</p> <p><履修方法>e-learning教材、TV会議によるセミナー、演習等で履修する。</p> <p><単位認定>e-learning各科目の単位認定は、e-learning科目の合格とオンコロジーセミナーの出席により所定の単位を認定する。</p>						
履修科目等	<p><必修科目>臨床薬物学特論（1単位）、腫瘍放射線医学特論（1単位）、がん緩和医療学特論（1単位）、臨床腫瘍学特論（1単位）、医学特論（4単位）、医学演習（4単位）、医学特別研究（14単位）</p> <p><選択科目>分子腫瘍学特論（1単位）、腫瘍病理学特論（1単位）、がん外科学特論（1単位）、分子生物学入門（1単位）、臨床統計学特論（1単位）、がんゲノム学特論（1単位）、小児・AYA世代・希少がん特論（1単位）、在宅緩和ケア特論（1単位）、老年医療学特論（1単位）、がんライフステージ演習（1単位）、北信オンコロジーセミナー（1単位）</p> <p>注：他大学の授業科目履修は10単位まで認められる。</p>						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	超高齢社会の我が国においてがん患者の年齢も高齢化している。がんは高齢者に多い疾患であるが、臨床試験が難しく、エビデンスが蓄積されにくい。こうした高齢がん者に焦点を絞った研究、人材育成は今まで意外なほど調査研究が進んでいない。高齢がん者のライフステージに合わせた教育、人材育成に独創性がある。						
指導体制	富山県を含む北信地域は国内でも高齢化率が高い地域で、本プログラムを行う地盤は充実している。富山大学では大学病院でありながら地方の特性を生かし、地域密着型の診療を行っている。在宅療養を目指した地域連携を強化しており、高齢がん患者の看取りまでを踏まえた指導を実現する。富山大学では学部生に対し、研究医養成コースを設けており、このコース学生を本プログラムの対象とすることにより、専門医教育の底辺拡張を目指す。						
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	e-learningを含む座学による知識習得のほかに、実際の症例を検討する北信オンコロジーセミナーや高齢がん患者の診療を通して専門医としてのスキルを習得する。さらに、北信地域の高齢がんの実態を調査するデータベース研究を展開し、リサーチの実践にも取り組む。コース修了者は地域において最も重要な高齢がん患者診療のプロとして機能するほか、研究を発展させて他地域、次世代への貢献も期待される。						
受入開始時期	平成30年4月または10月						
受入目標人数	対象者	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	計
	大学院学生	/	2	2	2	2	8
	学部学生	/	2	2	2	2	8
	計	0	4	4	4	4	16

教育プログラム・コースの概要

大学名等	富山大学大学院医学薬学教育部薬学専攻						
教育プログラム・コース名	高齢化した地域医療を個別化医療で支えることができる高度薬剤師養成コース						
対象者	医学薬学教育部薬学専攻大学院学生						
修業年限（期間）	4年						
養成すべき人材像	<p>がん化学療法のほぼ全てがレジメンに基づき行われ、多くが外来通院で実施されるようになってきている。レジメンの作成や管理、外来化学療法室での医薬品管理や患者への化学療法の説明に加え、緩和医療チームへの参画など薬剤師のがん治療に対する貢献度が特段に増してきている。これらのことについては、日本病院薬剤師会等によって、数多くの講習や実習を含む事業がなされており、基礎的な事柄は6年制薬学部での教育内容に含まれてきている。そこで、我々は、現在の薬剤師を越える高度薬剤師の輩出を目指す。病院における、がん治療や緩和医療の個別化医療に加え、地域包括ケア制度に策定に伴う在宅での抗がん剤や緩和医療への貢献ができる人材の養成をしたい。特に富山県は、三世帯同居率が高く、制度の整備とともに、病院薬剤師とかかりつけ薬剤師が連携を持って、治療にあたる体制が構築されつつあることから、大学院生レベルで、医療現場で演習を行うことは意義の高いことである。加えて、国立大学薬学部として、10年後の医療を担う人材の育成も想定し、次世代のゲノム医療にも深い理解を持つ人材を養成したい。</p>						
修了要件・履修方法	<p><修了要件>所属専攻の修了要件単位数（30単位）に加え、北信がんプロフェッショナル授業科目6単位（必修科目5単位、選択単位1単位以上）を修得し、合計36単位の修得及び、研究論文が学位論文審査に合格すること。</p> <p><履修用法>授業はe-learning及び対面で行う。在宅医療に関係する実習については地域病院と共同して実施する。演習・実習科目は金沢大学薬学系が開講する科目の履修を認め、単位互換を可能とする。</p> <p><単位認定>e-learning各科目の単位認定は、e-learning科目の合格とオンコロジーセミナーの出席により所定の単位を認定する。</p>						
履修科目等	<p><必修科目>分子腫瘍学特論、臨床統計学特論、臨床栄養学特論（各1単位）、がん治療におけるゲノム医療演習（1単位）、地域包括医療でのがん治療演習（0.5単位）、ライフステージ事例検討演習（0.5単位）</p> <p><選択科目>腫瘍薬物学特論、がん緩和と医療学特論、腫瘍放射線医学特論、腫瘍病理学特論、臨床腫瘍学特論、分子生物学入門（各1単位）、臨床疫学、最先端医療、AYA世代診療、腫瘍学（各2単位）、がんゲノム学特論、在宅緩和ケア特論、老年医療学特論（各1単位）</p>						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	<p>国立大学での6年制薬学教育を受け、薬剤師免許を有する博士課程薬学専攻の学生を対象とすることから、15年後の日本のがん治療を薬学的観点から担える人材の育成を意識している。現在の病院・薬局薬剤師が、すでに行っていることだけでなく、大学でしか実施できない高度な内容を含む。本プログラムから開始されるがん治療におけるゲノム医療の講義については、講義に加え、実習や遺伝子多型の検出、それらへの抗がん薬との治療効果などについて、深く学ぶシステムをとる。在宅でのがん治療に参画できるだけの薬剤師としての養成だけでなく、地域で他の職種との連携の要となるよう本学独自の在宅研修ラボを使用して演習をし、加えて、医療現場での実習も行う予定である。演習、実習科目は、金沢大学附属病院での実施分も富山大学の大学院生も履修可能として単位認定できるようにし、富山大学での実施分も両大学の大学院生が履修できるようにし、大学間連携を持ち、地域で薬剤師としての医療を支えることを体験する。</p>						
指導体制	<p>富山大学大学院医学薬学教育部薬学専攻の統括は、医学薬学研究部・薬物治療学研究室 新田淳美教授が担当する。さらに、地域医療における薬剤師職に関係する実習のために、同医療薬学研究室 藤 秀人教授が実習の計画に参画する。また、がん治療へのゲノム医療に関係する講義や演習については、同がん細胞生物学 櫻井宏明教授が担当する。</p>						
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	<p>全国の医学部附属病院へ薬剤師として勤務し、日本医療薬学会認定のがん薬物療法認定薬剤師を目指し、将来的には、がん専門認定薬剤師やがん専門指導薬剤師の取得をする。6年制薬学部卒業後、4年制の薬学専攻の大学院への入学生は全国でも100名前後であり、特に国公立大学卒業生には、将来の大学病院薬剤部長としての期待がなされている。または、厚生労働省等の中央官庁に勤務し、がん治療を含む行政職につき、日本の薬学関連の医療をリードする。</p>						
受入開始時期	平成30年4月または10月						
受入目標人数	対象者	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	計
	大学院学生	/	1	1	1	1	4
	計	0	1	1	1	1	4

教育プログラム・コースの概要

大学名等	福井大学大学院医学系研究科統合先進医学専攻						
教育プログラム・コース名	地域がん専門医養成コース						
対象者	医学系研究科統合先進医学専攻大学院学生						
修業年限（期間）	4年						
養成すべき人材像	がん医療に携わる専門的な知識及び技能に加えて、臨床研究に卓越した医師やその他の医療従事者の養成、本学の特色を活かした緩和ケアや在宅医療にも精通する。						
修了要件・履修方法	<p><修了要件>がんプロフェッショナル授業科目の必須科目5単位を含む10単位以上を取得すること。がんに関する研究論文が学位審査に合格すること。</p> <p><履修方法>e-learning教材、TV会議によるセミナー、演習等で履修する。（e-Learning科目の単位認定は、e-Learning科目+オンコロジーセミナー（演習）出席にて、1単位とする。）</p>						
履修科目等	<p><必修科目>分子生物学入門（1単位）、分子腫瘍学特論（1単位）、臨床栄養学特論（1単位）、臨床統計学特論（1単位）、臨床統計学演習（1単位）</p> <p><選択科目>がん緩和医療学特論（1単位）、腫瘍薬物学特論（1単位）、腫瘍放射線医学特論（1単位）、がん患者看護論（1単位）、がん患者看護論Ⅱ（1単位）、がん外科学特論（1単位）、腫瘍病理学特論（1単位）、臨床腫瘍学特論（1単位）、腫瘍病理学演習（1単位）、医学物理学特論（1単位）、コンサルテーション論（1単位）、がんゲノム学特論（1単位）、小児・AYA・希少がん特論（1単位）、がんライフステージ演習（1単位）、在宅緩和ケア特論（1単位）、老年医療学特論（1単位）</p>						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	本学大学院の統合先進医学専攻 先端応用医学コース 腫瘍医学部門の科目に加え北信がんプロ養成プログラムの科目を履修することにより、地域におけるがん診療力の高度な知識を修得できる。						
指導体制	福井大学腫瘍病態治療学講座及び福井大学の教職員が対応する。						
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	研修の修了者は、医師では施設の緩和ケアチーム医師、緩和ケア病棟医師、地域緩和ケアチームのリーダーとしての活躍が期待できる。また、日本緩和医療学会の専門医を目指す為の教育を提供できる。医師以外のスタッフでは、地域緩和ケアチームのスタッフとして期待される。						
受入開始時期	平成30年4月						
受入目標人数	対象者	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	計
	大学院学生	/	2	2	2	2	8
	計	0	2	2	2	2	8

教育プログラム・コースの概要

大学名等	金沢医科大学大学院医学研究科生命医科学専攻						
教育プログラム・コース名	がんプロフェッショナルがん専門医リーダー養成コース						
対象者	医学研究科生命医科学専攻大学院学生						
修業年限（期間）	4年						
養成すべき人材像	希少がんを含むがん患者を臓器横断的に診療できる専門家の養成を目指し、がん患者の思いに寄り添い、最新のエビデンスと情報を集めると同時に、患者・家族の希望を叶えられるように努力できる、がん専門医師を養成する。						
修了要件・履修方法	<p><修了要件>博士課程に4年以上在学し、所定の単位数（30単位）以上を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上、学位論文の審査に合格することで博士（医学）を授与する。専門医養成コースの授業科目のうち必修科目10単位を含む13単位を修得をもって大学院修了単位の11単位に読み替えし、独自に設立されるNPO法人の認定医の申請資格を授与する。</p> <p><履修方法>e-learning教材、TV会議によるセミナー、演習等で履修する。</p>						
履修科目等	<p>主として専攻する科目の講義・演習・実験実習（各4単位、計12単位）、特別研究（6単位）、医の倫理または生命倫理学（各1単位）のほか、以下に掲げる専門医養成コースの授業科目13単位以上</p> <p><必修科目>がんゲノム医療学特論（1単位）、小児・AYA世代・希少がん特論（1単位）、ライフステージに応じたがん医療特論（1単位）、在宅緩和ケア特論（1単位）、腫瘍薬物学特論（1単位）、腫瘍放射線医学特論（1単位）、がん緩和医療学特論（1単位）、腫瘍病理学特論（1単位）、臨床腫瘍学特論（1単位）、がん外科学特論（1単位）</p> <p><選択科目>分子腫瘍学特論（1単位）、臨床統計学特論（1単位）、臨床栄養学特論（1単位）、臨床統計学演習（1単位）、分子生物学入門（1単位）、がんライフステージ演習（1単位）ほか6科目</p>						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	金沢医科大学病院再生医療センターにおける希少がん等対象の免疫療法・再生医療、集学的医療部遺伝子医療センターにおける遺伝カウンセリングにおける独自の教育内容を有する。また金沢医科大大学院医学研究科腫瘍内科学/金沢医科大学病院腫瘍内科では肉腫・神経内分泌腫瘍・原発不明癌などの臓器横断的分野の診療・教育・研究を行っている。						
指導体制	腫瘍内科学：元雄 良治、安本和生、再生医療学：下平 滋隆、先進呼吸器外科学：浦本 秀隆、消化器外科治療学：小坂 健夫、遺伝子医療センター：新井田 要、をはじめとする本施設の教育スタッフが指導を行う。						
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	本教育コースの修了者は、各専門分野の専門医・認定医等の資格を取得し、その後は地域を問わず広く教育職・研究職・第一線の診療医として活躍できる。						
受入開始時期	平成30年4月						
受入目標人数	対象者	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	計
	医師	/	2	2	2	2	8
	計	0	2	2	2	2	8

教育プログラム・コースの概要

大学名等	石川県立看護大学大学院看護学研究科（博士前期課程） 看護学専攻実践看護学領域成人看護学分野						
教育プログラム・コース名	がんライフステージコース						
対象者	がん看護専門看護師コース大学院学生						
修業年限（期間）	2年						
養成すべき人材像	がん患者のQOLの向上を目的として、小児、AYA世代、壮年、高齢者といった各ライフステージにおける痛みに関する知識・技術を駆使して、対象の治療・療養・生活過程の全般を統合・管理し、卓越した看護ケアを提供できる看護師。さらに、総合的な判断能力と組織的な問題解決力を持ち、専門領域における新しい課題に挑戦し、現場のみならず、教育や政策の課題にも反映できる開発的役割がとれる変革推進者として機能できる看護師。						
修了要件・履修方法	共通科目と各専門看護分野の専門科目から38単位の他に「がんライフステージ演習」を履修すること。「がんライフステージ演習」は、各大学のTV会議システムからの参加でも可能とする。						
履修科目等	<必修科目>看護科学論（2単位）、看護研究（2単位）、フィジカルアセスメント（2単位）、病態生理学（2単位）、臨床薬理学（2単位）、特別研究（6単位）、成人看護学特論（2単位）、がん看護援助論（2単位）、がん病態治療学特論（2単位）、緩和ケア演習Ⅰ（2単位）、がん看護学演習Ⅰ（2単位）、ほか6科目 <選択科目> コンサルテーション論（2単位）、ケアと哲学（2単位）、がんゲノム学特論（1単位）、小児・AYA世代・希少がん特論（1単位）、住宅緩和ケア特論（1単位）、老年医療学特論（1単位）、がんライフステージ演習（1単位）						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	本コースでの「がんライフステージ演習」は、テレビ会議システム等を活用し、がん看護専門看護師養成コースを有する大学（石川県立看護大学、富山大学、福井大学）が提携し、単位互換を可能とする。従来の教育とは異なり、各大学の教授陣の専門を学ぶことが出来る。講師として、がん看護、小児看護、老年看護、リエゾン看護の専門看護師を採用することで、それぞれの専門性の視点から、各ライフステージにおけるがん看護について理解を深めることができる。						
指導体制	北信越におけるがん看護専門看護師、小児看護専門看護師、老人看護専門看護師、精神看護専門看護師を講師に迎え、講義や演習を通してライフステージにおけるがん看護の特徴と支援の在り方を教授する。						
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	本コース修了には北信がんプロNPO機構より「がんライフステージ・スペシャリスト」（仮）の認定を授与する。また、本コース修了生は、北信がんプロのインテンシブコース等で講義、演習を行い、さらに自身のキャリアアップを行う。						
受入開始時期	平成30年4月						
受入目標人数	対象者	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	計
	看護師	/	2	2	2	2	8
	計	0	2	2	2	2	8

教育プログラム・コースの概要

大学名等	金沢大学大学院医薬保健学総合研究科医学専攻						
教育プログラム・コース名	がんゲノム医療生涯教育コース（インテンシブ）						
対象者	地域でがん診療に携わる医師及び歯科医師						
修業年限（期間）	1年（延長可）						
養成すべき人材像	遺伝子解析に基づいた分子標的治療や免疫チェックポイント阻害薬による治療の概要を理解し、多職種と連携して実地医療における個別化医療を実践できる医師及び歯科医師を養成する。						
修了要件・履修方法	<p><修了要件>北信がんプロフェッショナル授業科目3単位以上の修得及び北信がんプロオンコロジーセミナーへの出席又はがんライフステージ事例検討会への参加。</p> <p><履修方法>全国規模のe-learnin教材及び本事業の講義教材を利用して自己学習を行うのみならず、テレビ会議システムを利用した北信がんプロオンコロジーセミナー又はがんライフステージ事例検討会への参加による学修を行う。</p>						
履修科目等	<選択科目>がんゲノム学特論（1単位）、小児・AYA世代・希少がん特論（1単位）、在宅緩和ケア特論（1単位）、老年医療学特論（1単位）、北信オンコロジーセミナー（1単位）、がんライフステージ演習（1単位）						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	従来のがん治療の均てん化を目的とした講義内容にとどまらず、本事業においては、今後のわが国で必要とされるであろう遺伝子解析に基づいた最適の集学的治療（手術、放射線、薬物治療の逐次・同時併用を含む）を行うために必要な一連の過程（遺伝子解析検査説明と同意取得、検体採取と提出、遺伝子解析結果の解釈と患者への説明、治療法選択と治療の実施、効果判定と副作用対策、再発時の対応など）を全て教育し、将来の日本のがんゲノム医療に対応できる能力を養成する点に特色がある。						
指導体制	大学及び連携機関に所属するがんゲノム医療のエキスパートであるスタッフが、遺伝子解析に基づいた最適の集学的治療を行うために必要な一連の過程をe-learning又はシンポジウムで講義する。						
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	本コースで養成された医師及び歯科医師は、多職種と連携できるがんゲノム診療のリーダーとして、がん診療連携拠点病院等の地域基幹病院におけるがんゲノム医療に貢献する。						
受入開始時期	平成29年10月						
受入目標人数	対象者	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	計
	地域医療機関の医師及び歯科医師	2	6	6	6	6	26
	計	2	6	6	6	6	26

教育プログラム・コースの概要

大学名等	金沢大学大学院医薬保健学総合研究科薬学専攻						
教育プログラム・コース名	がん個別化薬物療法実践薬剤師コース（インテンシブ）						
対象者	薬剤師免許を有し、がん専門薬剤師又は緩和薬物療法認定薬剤師の資格を取得しようとする者。						
修業年限（期間）	3月から1年（延長可）						
養成すべき人材像	がん・緩和薬物療法の安全性・有効性を向上させ、がん患者の多様性に応じた個別化薬物療法の処方支援、有害事象回避ができる人材。 がん・緩和薬物療法に関する最新知識を有するとともに、がん患者の心理を良く理解し、チーム医療の中で他の医療従事者を支援できる人材。 がん・緩和領域における地域包括ケアを推進する人材。 次世代のリーダーになることを目指す人材。						
修了要件・履修方法	北信がんプロフェッショナル授業科目3単位以上の修得及び北信がんプロオンコロジーセミナーへの出席又はがんライフステージ事例検討会への参加。 全国e-learningクラウド等のe-learning教材及び本事業が開催するがんゲノムシンポジウムにおける講義教材を利用して自己学習を行うのみならず、テレビ会議システムを利用した北信がんプロオンコロジーセミナー、がんライフステージ事例検討会への参加による学習を行う。実習演習については富山大学との共同開催として、他大学での開講科目も履修可能とする。						
履修科目等	＜選択科目＞がんゲノム学特論（1単位）、小児・AYA世代・希少がん特論（1単位）、在宅緩和ケア特論（1単位）、老年医療学特論（1単位）、北信オンコロジーセミナー（1単位）、先進的がん薬物療法個別化実習（0.5単位）、有害事象解析演習（0.5単位）、がんライフステージ演習（0.5単位）等						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	本プログラムの特色は、がん患者に対する地域包括ケアにおいて、薬剤師が患者の多様性に応じた個別化薬物療法の実践に要求されるスキル（薬物療法の最適化・個別化、有害事象回避、抗がん剤・医療用麻薬の混合調製など）を地域・施設間の壁を越えて、受講者の能力・ニーズに応じた教育を受けられることにある。そのために、先進的がん薬物療法個別化実習では、受講者がそれぞれの能力・ニーズに合致する実習ユニット（個別化薬物療法、在宅緩和医療、病院がん薬物療法、先進的注射薬管理、フィジカルアセスメントなど）が選択できる。また、有害事象解析演習については、TV会議システムを用いて、北信がんプロ参加大学間で協働して実施する。このユニットは、教育プログラムを発展させ、大学間多職種参加型研究プロジェクトとして、がん薬物療法の有害事象対策を多職種連携により確立することを目指すことによって、エビデンスを発信するスキルも学べる点に新規性・独創性がある						
指導体制	本コースでは、がん・緩和薬物療法に関連する専門資格を有する薬学系教員・薬剤師が、臨床現場において、on-the-jobトレーニングにより指導する。また、e-learningを活用した受講者の能動的学習を促し、実習により知識を定着化させる。						
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	本コース修了者には、本プログラムを基盤として、日本医療薬学会が認定するがん専門・指導薬剤師や日本緩和医療薬学会が認定する緩和薬物療法認定薬剤師の資格を取得する。さらには、地域において、がん・緩和薬物療法の個別化および安全性を向上させ、地域包括ケアの牽引者となる。そして、それらの経験を生かし、薬剤師や薬学生に対する講義、実習を行うことで、次世代の医療者の育成者となる						
受入開始時期	平成30年4月						
受入目標人数	対象者	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	計
	大学院学生	/	1	2	2	2	7
	計	0	1	2	2	2	7

教育プログラム・コースの概要

大学名等	金沢大学大学院医薬保健学総合研究科						
教育プログラム・コース名	がんゲノム多職種連携入門コース（インテンシブ）						
対象者	北信4県（石川県、長野県、富山県、福井県）在住の、看護師、薬剤師、臨床検査技師、診療放射線技師、理学療法士、作業療法士、栄養士、ソーシャルワーカー等						
修業年限（期間）	1年（延長可）						
養成すべき人材像	がん治療等における多職種連携の基本として、最近のがん治療等の最新の知識を持ち、遺伝子解析に基づいた分子標的治療や免疫チェックポイント阻害薬による治療の概要を理解し、医師をはじめとする他の医療職と連携して実地医療における個別化医療を実践する基本的な能力を持つ医療職（看護師、薬剤師、臨床検査技師、診療放射線技師、理学療法士、作業療法士、栄養士、ソーシャルワーカー等）を養成する。						
修了要件・履修方法	<p><修了要件>北信がんプロフェッショナル授業科目2単位以上の修得及び北信がんプロオンコロジーセミナー又はがんライフステージ事例検討会又は北信がんプロ主催の講演会への参加。</p> <p><履修方法>全国規模のe-learnin教材及び本事業の講義教材を利用して自己学習を行うのみならず、テレビ会議システムを利用した北信がんプロオンコロジーセミナー又はがんライフステージ事例検討会又は北信がんプロ主催の講演会への参加による学修を行う。</p>						
履修科目等	<選択科目>がんゲノム学特論（1単位）、小児・AYA世代・希少がん特論（1単位）、在宅緩和ケア特論（1単位）、老年医療学特論（1単位）、多職種連携演習（1単位）						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	従来のがん治療の均てん化を目的とした講義内容にとどまらず、本事業においては、今後のわが国で必要とされるであろう遺伝子解析に基づいた最適の集学的治療（手術、放射線、薬物治療の逐次・同時併用を含む）を行うために必要な一連の過程（遺伝子解析検査説明と同意取得、検体採取と提出、遺伝子解析結果の解釈と患者への説明、治療法選択と治療の実施、効果判定と副作用対策、再発時の対応など）を概括できる教育を通して、将来の日本のがんゲノム医療に対応できる基本的能力を養成する点に特色がある。						
指導体制	大学及び連携機関に所属するがんゲノム医療のエキスパートであるスタッフが、遺伝子解析に基づいた最適の集学的治療を行うために必要な一連の過程をe-learning又はセミナーで講義する。						
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	本コースで養成された医療職（看護師、薬剤師、臨床検査技師、診療放射線技師、理学療法士、作業療法士、栄養士、ソーシャルワーカー等）は、多職種と連携できるがんゲノム診療の一員となる。コース修了者は、更に各医療職の専門コースを学び、リーダーとして、がん診療連携拠点病院等の地域基幹病院におけるがんゲノム医療に貢献する。						
受入開始時期	平成30年9月						
受入目標人数	対象者	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	計
	地域医療機関の看護師・薬剤師・臨床検査技師・診療放射線技師・理学療法士・作業療法士・栄養士・ソーシャルワーカー等	0	10	10	10	10	40
	計	0	10	10	10	10	40

教育プログラム・コースの概要

大学名等	信州大学						
教育プログラム・コース名	がん専門医療人養成インテンシブコース						
対象者	信州大学附属病院及び長野県内の医師、看護師、薬剤師、臨床心理士、遺伝カウンセラーなど多職種の医療従事者。						
修業年限（期間）	2年						
養成すべき人材像	がん医療に携わる近隣の多職種の医療従事者が、1. ゲノム医療 2. 小児・AYAがん3. ライフステージ癌といった新たな社会ニーズとして求められている癌専門領域の知識を持つ事を目的とする。大学院教育水準で作成されたe-learning教育コンテンツを使って学習する事で、個々の専門領域に加えて、がんゲノム医療、AYA世代のがん、緩和・支持医療などがん診療をとりまく課題に広く配慮できる人材の養成を目指す。						
修了要件・履修方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ e-learning必修科目1単位以上の修得（e-learning科目の各項目は視聴講、ミニテスト・アンケートを行う事でその項目の学習完了となる。） ・ 本拠点構成大学が主催するがんプロ事業に係るシンポジウム・セミナー等への1回以上の参加 						
履修科目等	<p><e-learning必修科目> 全国がんプロe-learningクラウドにおける、下記3科目の中から1単位以上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ がんゲノム医療（8項目：1単位） ・ 小児・AYA・希少がん（9項目：1単位） ・ ライフステージに応じたがん医療（8項目：1単位） <p><がんプロ主催のシンポジウム・セミナー等> 本拠点構成大学が主催するがんプロ事業に係るシンポジウム・セミナー等への1回以上の参加</p>						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	<p>基本的知識については、e-learningを活用し教育を行う。 そのうえで、がんゲノム医療では、On the Job Trainingを重視し、知識だけでなく実際の医療現場で応用できる人材を育成する。 小児・AYA世代がんでは、治療前の妊孕性温存、治療後の長期間に渡るフォローアップなどの現代社会が抱えている諸問題に焦点を当てたセミナー・シンポジウムを毎年開催し理解を深める。 ライフステージがん医療ではがん患者の治療成功のための支持療法、終末期がん治療・緩和ケアの実臨床の現場で活躍できる医療人の育成を図る。</p>						
指導体制	e-learningを活用し、空間的・時間的な制約なくいつでも一貫した最新かつ高度な情報にアクセスできる状況を提供する。がんプロ主催のシンポジウム、セミナーの開催情報を提供し参加を促す。多職種が総合的なカリキュラムを構成し指導する。						
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	ゲノム、小児・AYA・希少がんの情報に基づいた効果的な治療法の選択や、ライフステージに応じたがん医療を熟知し倫理的・心理的諸問題に対応できる、地域のがん臨床診療拠点病院の中核となる人材を育成する。						
受入開始時期	令和元年7月						
受入目標人数	対象者	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	計
	医療従事者			5	10	10	25
	計	0	0	5	10	10	25

教育プログラム・コースの概要

大学名等	富山大学大学院医学薬学教育部						
教育プログラム・コース名	高齢がん患者対策専門コース(インテンシブ)						
対象者	各種医療機関で実際にごん診療に携わる医師						
修業年限(期間)	1年(延長可)						
養成すべき人材像	がん患者の多数を占める高齢担癌者の診療を行う上で必要となる老年医学を学び、脆弱な高齢者にあった診療を実現する専門医。本人の健康状態だけではなく、介護状況などの社会背景、家族への配慮も必要となるため、幅広い全人的医療を行う専門医。スピリチュアルペインに対応し、患者の人生観、死生観にも向き合える医師。						
修了要件・履修方法	<p><修了要件>指定する北信がんプロフェッショナル授業科目の選択科目の中から、3単位以上の修得及び北信がんプロオンコロジーセミナーへの出席又は多職種連携セミナーへの参加。</p> <p><履修方法>全国規模のe-learning教材及び本事業が開催するがんゲノムシンポジウムにおける講義教材を利用して自己学習を行うのみならず、テレビ会議システムを利用した北信がんプロオンコロジーセミナー又は多職種連携セミナーへの参加による学習を行う。</p> <p><単位認定>e-learning各科目の単位認定は、e-learning科目の合格とオンコロジーセミナーの出席により所定の単位を認定する。</p>						
履修科目等	<p><選択科目>がんゲノム学特論(1単位)、小児・AYA世代・希少がん特論(1単位)、在宅緩和ケア特論(1単位)、老年医療学特論(1単位)、がんライフステージ演習(がんライフステージ事例検討会に5回出席で1単位)</p> <p>上記選択科目の他に下記科目も開講しています。</p> <p>腫瘍薬物学特論(1単位)、腫瘍放射線医学特論(1単位)、がん緩和医療学特論(1単位)、腫瘍病理学特論(1単位)、臨床腫瘍学特論(1単位)、がん外科学特論(1単位)、分子腫瘍学特論(1単位)、分子生物学入門(1単位)、臨床統計学特論(1単位)</p>						
教育内容の特色等(新規性・独創性等)	超高齢社会の我が国においてがん患者の年齢も高齢化している。がんは高齢者に多い疾患であるが、臨床試験が難しく、エビデンスが蓄積されにくい。こうした高齢担癌者に焦点を絞った研究、人材育成は今まで意外なほど調査研究が進んでいない。高齢担癌者のライフステージに合わせた教育、人材育成に独創性がある。						
指導体制	富山大及び連携機関に所属する高齢者の代表的がんである肺癌の医療を専門とするエキスパートであるスタッフが、老年がん患者診療を行うために必要な一連の過程をe-learning又はシンポジウムで講義する(e-learningやシンポジウム参加、TV会議システムで受講)。						
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	本コースで養成された医師は、多職種と連携できる高齢者がん診療のリーダーとして、がん診療連携拠点病院等の地域基幹病院における地域医療に貢献する。						
受入開始時期	平成30年4月以降随時						
受入目標人数	対象者	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	計
	地域医療機関の医師	2	2	2	2	2	10
	計	2	2	2	2	2	10

教育プログラム・コースの概要

大学名等	富山大学医学薬学教育部薬学専攻						
教育プログラム・コース名	高齢化した地域医療を個別化医療で支えることができる専門的薬剤師養成コース（インテンシブ）						
対象者	北陸3県及び長野県の病院及び薬局薬剤師、特に、がん専門薬剤師の資格を取得しようとする者。日本医療薬学会認定のがん薬物療法認定薬剤師。						
修業年限（期間）	3カ月から1年（延長可）						
養成すべき人材像	がん治療や緩和医療に加えて、地域包括ケア制度の策定と、高齢化に伴い、在宅での抗がん剤の使用や緩和医療への関与も求められるようになった。特に北陸や長野県は、三世同居率が高く、制度の整備とともに、病院薬剤師とかかりつけ薬剤師が連携を持って、治療にあたる体制が構築されつつある。一方で、在宅医療に薬剤師が参画して、間もないことから、理論や技術の習得が困難なのが現状であり、経験則で医療が行われていることも否めない。そこで、薬学系大学院が地域を牽引して、要請度の高い在宅医療でのがん治療に対する薬剤師の役割、最近の抗体医薬品やゲノム医療の講義や演習を実施し、がん治療に関して、最先端医療から地域での在宅医療を担える先導的な人材の育成をする。少子高齢化が日本で最も進んでいる地域であることから、地域全体でも、がん医療を薬学的にリードする人材を育成し、チーム医療を介して、がん患者を全人的に支えることができる薬剤師を輩出する。						
修了要件・履修方法	<p><修了要件>北信がんプロフェッショナル授業科目6単位以上（必修科目4単位、選択科目2単位以上）の修得。</p> <p><履修方法>授業はe-learning及び対面で行う。本プログラムから開始する高齢者における薬物治療やゲノム医療については、本学の専門家が講義をすることから、1年目は、講義を実施するが、TV会議システムを活用し、金沢大学や他の地域へも公開する。在宅医療に関する実習については地域病院と共同して実施する。演習・実習科目は金沢大学薬学系が開講する科目の履修を認め、単位互換を可能とする。</p> <p><単位認定>e-learning各科目の単位認定は、e-learning科目の合格とオンコロジーセミナーの出席により所定の単位を認定する。</p>						
履修科目等	<p><必修科目>分子腫瘍学特論（1単位）、臨床統計学特論（1単位）、臨床栄養学特論（1単位）、がん治療におけるゲノム医療演習（1単位）、地域包括医療でのがん治療演習（0.5単位）、ライフステージ事例検討演習（0.5単位）</p> <p><選択科目>腫瘍薬物学特論（1単位）、がん緩和医療学特論（1単位）、臨床疫学（2単位）、最先端医療（2単位）、AYA世代診療（2単位）、腫瘍学（2単位）、がんゲノム学特論（1単位）、在宅緩和ケア特論（1単位）、老年医療学特論（1単位）、がんライフステージ演習（1単位）、腫瘍放射線医学特論（1単位）、腫瘍病理学特論（1単位）、分子生物学入門（1単位）</p>						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	講義科目は、e-learningにより受講。本プログラムから開始されるがん治療におけるゲノム医療の講義については、平成30年度は講義を実施し、平成31年度以降はe-learningに移行する。演習、実習科目は、金沢大学と共同で開催する。金沢大学附属病院での実施分も単位認定を行い、地域連携をする。						
指導体制	富山大学大学院医学薬学教育部薬学専攻の統括は、医学薬学研究部・薬物治療学研究室 新田淳美教授が担当する。さらに、地域医療における薬剤師職に関係する実習のために、同医療薬学研究室 藤秀人教授が実習の計画に参画する。また、がん治療へのゲノム医療に関する講義については、同がん細胞生物学 櫻井宏明教授が担当する。						
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	日本医療薬学会が認定するがん専門・指導薬剤師や日本緩和医療薬学会が認定する緩和薬物療法認定薬剤師の資格を取得する。受講者の所属している医療提供機関によって異なるが、急性期病院に勤務する者は、がん化学療法を含むチーム医療に貢献し、ゲノム医療を含めた先進的な化学療法に従事し、臨床研究への参画を期待している。慢性期病院や薬局に所属する者は、緩和医療や終末期医療をはじめ、がん患者へのケアを地域で牽引するようになる。実務実習指導薬剤師となり、次世代の人材養成にも貢献する。						
受入開始時期	平成30年4月以降随時						
受入目標人数	対象者	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	計
	病院・薬局薬剤師及び薬系大学教員	1	2	2	2	2	9
	計	1	2	2	2	2	9

教育プログラム・コースの概要

大学名等	富山大学大学院医学薬学教育部（博士前期課程） 医学領域看護学専攻成人看護学分野						
教育プログラム・コース名	在宅がん緩和リハビリテーションコース（インテンシブ）						
対象者	看護師						
修業年限（期間）	1年						
養成すべき人材像	がん患者のQOLの向上を目指して、小児、AYA世代、壮年、高齢者といった各ライフステージの個人、家族、及び集団に対して、総合的な判断能力と問題解決力さらに倫理に関する解決能力を養い、全人的緩和医療が行える看護師。						
修了要件・履修方法	<p><修了要件>必修科目：在宅がん緩和リハビリテーション事例演習（1単位）、 「公開講座」又は「実技演習」（1単位）、選択科目の中から1科目（1単位） 以上の合計3単位以上修得。</p> <p><履修方法></p> <p>【必修科目】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・在宅がん緩和リハビリテーション事例演習（1単位）：北信4県におけるTV会議システムを利用したがんライフステージ事例検討会や富山がん事例検討会に5回以上参加により単位認定。 ・「公開講座」又は「実技演習」（1単位）：富山大学にて開催される、公開講座あるいは、実技演習に1回以上参加することにより単位認定 <p>【選択科目】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・e-learning「がん緩和医療学特論」「腫瘍薬物学特論」「腫瘍放射線医学特論」「分子腫瘍学特論」「臨床栄養学特論」「分子生物学入門」「在宅緩和医療特論」「がん患者看護論」「コンサルテーション論」より1単位以上修得。 <p><単位認定>e-learning各科目の単位認定は、e-learning科目の合格とオンコロジーセミナーの出席により所定の単位を認定する。</p>						
履修科目等	<p><必修科目>在宅がん緩和リハビリテーション事例演習（1単位）、「公開講座」又は「実技演習」（1単位）</p> <p><選択科目>e-learning「がん緩和医療学特論」「腫瘍薬物学特論」「腫瘍放射線医学特論」「分子腫瘍学特論」「臨床栄養学特論」「分子生物学入門」「在宅緩和医療特論」「がん患者看護論」「コンサルテーション論」より1単位以上修得。</p>						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	北信4県におけるTV会議システムを利用したがんライフステージ事例検討会や富山がん事例検討会にて、緩和ケア・がんリハビリ、在宅療法、化学療法中患者等の困難事例について意見交換を行うとともに、e-learning科目・演習を通して、在宅医療における患者・家族のQOL向上・症状コントロールを図るための知識・技術を得る点に特色がある。						
指導体制	北信4県のがん看護専門看護師を中心に、医師、薬剤師、理学療法士、作業療法士、ソーシャルワーカーなどそれぞれの立場から意見交換や講義演習を実施する。 講義科目は、e-learningにより受講する。						
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	本コース修了者にはNP0がんプロフェッショナル認定機構より、「在宅がん緩和リハビリテーション・スペシャリスト」（仮）の認定証を授与する。						
受入開始時期	平成30年4月以降随時						
受入目標人数	対象者	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	計
	看護師	/	1	2	2	2	7
	計	0	1	2	2	2	7

教育プログラム・コースの概要

大学名等	福井大学医学部						
教育プログラム・コース名	在宅栄養管理コース（インテンシブ）						
対象者	一般医師、歯科医師、後期研修医、在宅医療に関わる看護師、薬剤師、管理栄養士、言語聴覚士、理学療法士、運動療法士、その他の医療スタッフ						
修業年限（期間）	1年						
養成すべき人材像	栄養学は全ての医療の基本であり、在宅医療にあっても欠かせない医療技術である。終末期がん患者や、脳血管障害その他の慢性疾患で在宅医療を行う場合にも地域の医療資源として在宅栄養管理を安全かつ有効に行うことができる医療者を養成する必要がある。在宅医療においても、経口摂取の維持、経管栄養、静脈栄養など患者の状態に最も適した栄養法を安全に行う事が求められる。そのためには在宅栄養パスの効率的な利用も必要である。日本静脈経腸栄養学会認定教育施設における、NST専門療法師資格取得のための20時間以上の研修は、NST専門療法師資格取得にも繋がる。						
修了要件・履修方法	<p><修了要件>必修科目（e-learning）3単位の修得。かつ、がんプロが実施するオンコロジーセミナーに2回以上参加または、指定する研修等へ参加すること。</p> <p><履修方法>e-learning教材、TV会議によるセミナー、演習等で履修する。</p>						
履修科目等	<p><必修科目>在宅栄養特論（1単位）、在宅緩和ケア特論（1単位）、臨床栄養学特論（1単位）</p> <p><選択科目>以下のいずれかを演習として履修する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・がんプロが実施するオンコロジーセミナー2回以上の参加 ・日本静脈経腸栄養学会認定教育施設にて20時間以上の研修 ・（医師）日本静脈経腸栄養学会の開催するTNT研修会または医師セミナーを受講。 ・（医師以外のスタッフ）日本静脈経腸栄養学会の開催するNST専門療法師セミナー受講。 						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	在宅緩和医療を推進する上で最も重要な技術は栄養管理である。全ての慢性疾患で在宅医療での栄養指標を高く維持するためには一定以上の技術の習得を要する。拠点病院と在宅のスタッフが同じ教育を受けることで、在宅栄養管理パスが機能し、シームレスな在宅移行が可能となる。また、地域の各職種の栄養管理技術がレベルアップすることで、安全かつ満足度の高い在宅医療が実現できる。						
指導体制	福井大学医学部附属病院をはじめ、各大学病院の栄養サポートチームが中心となる。日本静脈経腸栄養学会認定教育施設の研修サポートを受ける事ができる。日本静脈経腸栄養学会北陸支部会、TNT委員会もサポートする。						
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	コース修了者は、医師ではNSTのチェアマン、地域NSTの指導者として期待される。医師以外のスタッフは、日本静脈経腸栄養学会認定NST専門療法師資格の取得をめざすことができる。						
受入開始時期	平成29年10月						
受入目標人数	対象者	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	計
	医師	/	2	2	2	2	8
	医師以外	/	10	20	20	20	70
	計	0	12	22	22	22	78

教育プログラム・コースの概要

大学名等	福井大学医学部						
教育プログラム・コース名	在宅緩和医療コース（インテンシブ）						
対象者	一般医師、歯科医師、後期研修医、在宅医療に関わる看護師、薬剤師、管理栄養士、言語聴覚士、理学療法士、運動療法士、その他の医療スタッフ						
修業年限（期間）	1年						
養成すべき人材像	緩和は全ての医療の目的であり、特に在宅医療にあっても欠かせない医療技術である。終末期がん患者や慢性疾患の終末期を在宅で療養する場合にも地域の医療資源として緩和医療を安全かつ有効に行うことができる医療者を養成する。在宅医、訪問看護師、訪問薬剤師又は地域の調剤薬剤師、その他地域の医療者が対象となる。						
修了要件・履修方法	<p><修了要件>必修科目（e-learning）3単位の修得。かつ、がんプロが実施するオンコロジーセミナーに2回以上参加または国の定める緩和ケア研修会を受講すること。</p> <p><履修方法>e-learning教材、TV会議によるセミナー、演習等で履修する。</p>						
履修科目等	<p><必修科目>がん緩和医療特論（1単位）、在宅緩和ケア特論（1単位）、臨床栄養学特論（1単位）</p> <p><選択科目>以下のいずれかを演習として履修する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・がんプロが実施するオンコロジーセミナー2回以上の参加 ・国の定める緩和ケア研修会の受講。 						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	北陸地域で用いられている在宅緩和医療パスを用いて、病院から在宅へのシームレスな連携を行うための医療者を養成する。在宅栄養にも重点をおく。						
指導体制	大学緩和ケアチームと緩和医療学会専門医、認定医、暫定指導医が中心に教育を行う。緩和医療学会緩和ケア研修会が研修をサポートする。						
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	コース修了者は、医師では施設の緩和ケアチーム医師、緩和ケア病棟医師、地域緩和ケアチームのリーダーとしての活躍が期待できる。また、日本緩和医療学会の専門医を目指す為の教育を提供できる。医師以外のスタッフでは、地域緩和ケアチームのスタッフとして期待される。						
受入開始時期	平成29年10月						
受入目標人数	対象者	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	計
	医師	/	4	4	4	4	16
	医師以外のスタッフ	/	20	20	20	20	80
	計	0	24	24	24	24	96

教育プログラム・コースの概要

大学名等	金沢医科大学大学院医学研究科生命医科学専攻						
教育プログラム・コース名	がん集学的治療医養成コース（インテンシブ）						
対象者	地域でがん診療に携わる医師						
修業年限（期間）	1年（延長可）						
養成すべき人材像	富山県西部能登南部連合地域および能登北部地区を重点にがん診療に携わる医師を対象として、希少がんや小児がんを含む様々ながんの集学的治療などに造詣の深い医師を養成する。						
修了要件・履修方法	<p><修了要件>北信がんプロフェッショナル授業科目3単位以上の修得及び北信オンコロジーセミナーへの出席又は多職種連携セミナーへの参加。</p> <p><履修方法>全国規模のe-learning教材及び本事業が開催するがんゲノムシンポジウムにおける講義教材を利用して自己学習を行うのみならず、TV会議システムを利用した北信オンコロジーセミナー又は多職種連携セミナーへの参加による学修を行う。</p>						
履修科目等	<p><選択科目>がんゲノム医療特論（1単位）、小児・AYA世代・希少がん特論（1単位）、ライフステージに応じたがん医療特論（1単位）、在宅緩和ケア特論（1単位）、北信オンコロジーセミナー（1単位）、がんライフステージ演習（1単位）</p>						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	当施設が実地医療を担当している地域のがん診療に携わる医師を対象として、希少がんや小児がんを含む様々ながんの集学的治療の教育機会を提供する点に新規性がある。						
指導体制	大学及び連携機関に所属するがん集学的治療のエキスパートであるスタッフが、様々ながん種に対する集学的治療を行うために必要なスキルをe-learning又はシンポジウムで講義する（e-learningやシンポジウム参加、TV会議で受講）。						
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	本コースで養成された医師は、多職種と連携できるがん集学的治療のリーダーとして、地域基幹病院におけるがん医療に貢献する。						
受入開始時期	平成29年10月						
受入目標人数	対象者	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	計
	地域医療機関の医師	1	2	2	2	2	9
	計	1	2	2	2	2	9

教育プログラム・コースの概要

大学名等	石川県立看護大学大学院看護学研究科（博士前期課程） 看護学専攻実践看護学領域成人看護学分野						
教育プログラム・コース名	がんライフケアコース（インテンシブ）						
対象者	看護師、薬剤師、医師、理学・作業療法士、ソーシャルワーカー等						
修業年限（期間）	6月～1年						
養成すべき人材像	これまでのがん看護経験又はすでに取得している専門看護師が、がん看護、小児看護、老年看護のそれぞれの専門性を活かし、全人的痛みに関する事例やミニレクチャーを通して、小児、AYA世代、壮年、高齢者といった各ライフステージにおける全人的痛みに関する生活過程の全般を統合・管理し、卓越した看護ケアを提供できる看護師を養成する。						
修了要件・履修方法	＜修了要件＞がんライフステージ演習1単位以上の修得及び公開講演への参加。 ＜履修方法＞TV会議によるセミナー、演習等で履修する。						
履修科目等	＜必修科目＞がんライフステージ演習（1単位）、公開講演への参加。						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	北陸3県においてTV会議システムやWeb会議システムを利用して、各専門看護師や薬剤師、医師で、緩和ケア、がんリハビリ、化学療法中の患者への疼痛ケア事例について意見を交換をおこない、各対象に応じた緩和ケアの知識・技術を得ることができる。						
指導体制	北陸3県のがん看護専門看護師と薬学部の学生、薬剤師を中心に、小児専門看護師、老人看護専門看護師、薬剤師、医師、理学療法士がそれぞれの専門的立場からテレビ会議システムを通して、事例検討する。それぞれの専門を互いに共有することで、小児、AYA世代、老年期の特徴を理解すると共に患者の全人的理解とそのケアについて検討していく。がん患者の会などとも連携を取り、事例検討のうち1-2回は、患者会にも参加していただく。						
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	本コース修了者は、地域基幹病院のみならず、僻地におけるがん医療に貢献する。また、この経験を生かし、看護師、学部生（看護、薬学、医学）への関わりの中で、次世代のがん医療従事者の育成に関わる。						
受入開始時期	平成29年10月						
受入目標人数	対象者	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	計
	看護師	1	3	3	3	3	13
	看護師以外の多職種	1	2	2	2	2	9
	計	2	5	5	5	5	22

第II部 実績

令和元年度 教育コース受入実績

■本科生コース

	教育コース	受入目標	受入実績	充足率
金沢大学	◆先端的個別化医療コース	5	5	100%
	◆がん個別化薬物療法薬剤師リーダーコース	2	2	100%
	◆個別化高度化を担う医療技術・医学物理人材育成コース	2	4	200%
信州大学	◆ゲノム医療に精通したがん治療医育成コース	2	2	100%
	◆がん診療に詳しい認定遺伝カウンセラー養成コース	1	3	300%
富山大学	◆高齢がん患者対策専門コース	4	10	250%
	◆高齢化した地域医療を個別化医療で支えることができる高度薬剤師養成コース	1	2	200%
福井大学	◆地域がん専門医養成コース	2	5	250%
金沢医科大学	◆がんプロフェッショナルがん専門医リーダー養成コース	2	2	100%
石川看護大学	◆がんライフステージコース	2	3	150%

令和2年1月31日現在

■インテンシブコース

	教育コース	受入目標	受入実績	充足率
金沢大学	◆がんゲノム医療生涯教育コース	6	11	183%
	◆がん個別化薬物療法実践薬剤師コース	3	3	100%
	◆がんゲノム多職種連携入門コース	10	13	130%
信州大学	◆がん専門医療人養成インテンシブコース	5	6	120%
富山大学	◆高齢がん患者対策専門コース	2	2	100%
	◆高齢化した地域医療を個別化医療で支えることができる専門的薬剤師養成コース	2	2	100%
	◆在宅がん緩和リハビリテーションコース	2	3	150%
福井大学	◆在宅栄養管理コース	22	23	105%
	◆在宅緩和医療コース	24	24	100%
金沢医科大学	◆がん集学的治療医養成コース	2	2	100%
石川看護大学	◆がんライフケアコース	5	5	100%

令和2年1月31日現在

令和元年度 北信がんプロ行事一覧

主催	月	日	行事	行事
金沢大学	4	17	がんサロン	がんサロンハーモニー 「免疫療法の最新情報」
	5	15	がんサロン	がんサロンハーモニー 「薬剤師さんに聞いて見よう～上手な医薬品情報の使い方～」
	6	15	市民公開講座	第43回日本頭頸部癌学会（日本頭頸部癌学会 共催）
	6	19	がんサロン	がんサロンハーモニー 「NST・栄養サポートチームの試み ～サルコペニアと腸能力のおはなし～」
	7	11	F D	石川県がん診療連携拠点病院研修会 「大腸癌薬物療法の最新のトピックスと展望」 国立がん研究センター東病院 消化管内科 科長吉野 孝之先生 ほか
	7	17	がんサロン	がんサロンハーモニー 「自分にご褒美、癒しのスキンケア」
	9	18	がんサロン	がんサロンハーモニー 「大腸がん治療で大事なこと」
	9	21	会議	第31回石川県がん診療連携協議会 「甲状腺癌治療の切札的存在 薬物療法」 西山 明宏 先生 ほか
	10	16	がんサロン	がんサロンハーモニー 「心とからだに寄り添う音楽療法」
	10	17	F D	第44回石川県がん診療連携拠点病院研修会 「クリニカルパスの基礎」 名古屋大学医学部附属病院メディカルITセンター 副センター長助教 船田 千秋 先生 ほか
	10	20	市民公開講座	市民公開講座（金沢大学） 北信がんプロ市民公開講座「令和元年最新のがん医療」 第1部「金大病院の実力 最新の集学的治療はこれだ！」 第2部「金沢で受けられるがんゲノム医療」
	11	20	がんサロン	がんサロンハーモニー 「がんと就労支援～ハローワークの出張相談を受けてみませんか～」
	12	18	がんサロン	がんサロンハーモニー 「患者力を高めよう」
	1	15	がんサロン	がんサロンハーモニー 「がん口コモ～あなたの骨と関節は大丈夫ですか～」
	2	19	がんサロン	がんサロンハーモニー 「がんと遺伝子/ゲノムと遺伝子 ～遺伝カウンセリングをご存知ですか～」
	3	5	FD	【中止・延期】第45回石川県がん診療連携拠点病院研修会 「消化器癌に対する放射線治療の役割と治療開発の状況」 昭和大学医学部 放射医学講座 放射線治療学部門 教授 伊藤 芳紀先生 ほか
	3	18	がんサロン	【中止・延期】がんサロン 「対話のための対話～雑談しましょう～」

主催	月	日	行事	行事
信州大学	4	22	CB	キャンサーボード症例検討会
	5	21	FD	信州大学医学部地域保健推進センター主催 健康講座シリーズ 10, 第1回「がん診療の現状とがん対策への取組」(共催)
	5	27	CB	キャンサーボード症例検討会
	6	1	FD	北信がんプロセミナー(シスメックス学術セミナー) 「動き始めたがんゲノム医療ー現状と展望ー」
	6	4	FD	信州大学医学部地域保健推進センター主催 健康講座シリーズ 10, 第2回「個別化・多様化が進む乳がんの治療ー女性がかかる一番多いがんですー」(共催)
	6	6	FD	信州がんセンター主催公開講座「備えあれば憂いなし 前立腺がん ～身近ながんと向き合うために～」(共催)
	6	18	FD	信州大学医学部地域保健推進センター主催 健康講座シリーズ 10, 第3回「整形外科領域のがんー稀少がん：骨軟部肉腫のサバイバルー」(共催)
	6	24	CB	キャンサーボード症例検討会
	7	2	FD	信州大学医学部地域保健推進センター主催 健康講座シリーズ 10, 第4回「アドバンス・ケア・プランニング(Advance Care Planning)について学びましょう :もしものための話し合いーあなたの大切なことは何ですかー」(共催)
	7	8	CB	キャンサーボード症例検討会
	8	22	市民公開講座	信州がんセンター主催公開講座 「肺がんについて知ろう! ～診断から治療まで～」(共催)
	8	26	CB	キャンサーボード症例検討会
	9	17	その他	がん専門医療人養成インテンシブコース新設
	9	30	CB	キャンサーボード症例検討会
	10	20	市民公開講座	信州大学がん哲学外来 in 軽井沢(共催)
	10	25	市民公開講座	緩和ケアセンター市民公開講座「自分らしい療養場所を選択するためにーもしものに備えて話し合っておこうー」
	10	28	CB	キャンサーボード症例検討会
	11	7	市民公開講座	信州がんセンター市民公開講座 「がんゲノム医療ー信州大学附属病院の取り組みー」
	11	17	会議	令和元年度 北信がんプロ学長連絡協議会
	11	17	市民公開講座	第3回 北信がんプロ合同市民公開講座(信州大学) 「小児・AYA(アヤ)世代のがんを知る」
	11	17	その他	北信がんプロ大学院生交流会
	11	25	CB	キャンサーボード症例検討会
	12	16	CB	キャンサーボード症例検討会
	1	27	CB	キャンサーボード症例検討会
	2	7	オンコロジー セミナー	第10回オンコロジーセミナー 特別講演「がんゲノム医療の実地臨床における課題」腫瘍制御学講座(臨床遺伝子医療学分野) 教授 平沢 晃 先生ほか
	2	10	CB	キャンサーボード症例検討会
3	7	市民公開講座	【中止・延期】信州大学がん哲学外来 in 軽井沢(共催)	

主催	月	日	行事	行事
富山大学	5	31	オンコロジーセミナー	北信がんプロ第7回オンコロジーセミナー 症例検討1：富山大学 消化器・腫瘍・総合外科 助教 平野 勝久先生 症例検討2：福井大学 消化器外科 特命助教 成瀬 貴之先生 特別講演：「膵腫瘍のゲノム解析とゲノム医療」 岡山大学大学院医学系研究科医科学専攻 教授 古川 徹 先生
	7	18	CB	第1回富山がん看護事例検討会
	7	22	キックオフミーティング	在宅緩和ケアパスのICT化の有用性に関する研究キックオフミーティング（富山大学附属病院）
	9	14	その他	高齢化した地域医療を個別化医療で支えることができる専門的薬剤師養成コース（大学院生本科・インテンシブ）演習 2019
	9	16	市民公開講座	がんゲノム医療 市民公開講座（富山大学附属病院）
	9	19	CB	第2回富山がん看護事例検討会
	10	20	市民公開講座	緩和ケア市民公開講座（富山大学附属病院）
	11	21	CB	第3回富山がん看護事例検討会
	11	30	FD	日本臨床腫瘍学会北信越セミナー（共催）（富山大学附属病院）
	12	14	CB	在宅がん緩和リハビリテーション（インテンシブ）セミナー 在宅看取り
	1	16	CB	第4回富山がん看護事例検討会
	1	29	FD	乳がん領域のがんゲノム医療（共催）（富山大学附属病院）
	2	1-2	FD	がん医療に携わる医師に対するコミュニケーション技術研修会（共催）（富山大学附属病院）
	2	5	FD	福井県立病院 陽子線がん治療センター説明会（共催）（富山大学附属病院）
	2	6	FD	AYA世代のがんの就労に関するワークショップ（共催）（富山大学附属病院）
	2	17-21	FD	【中止・延期】海外FD研修（台湾視察） （台北医学大学訪問）（信州大学・富山大学）
3	19	CB	【中止・延期】第5回富山がん看護事例検討会	

主催	月	日	行事	行事
福井大学	4		CB	緩和ケアチームカンファレンス （4月3日、11日、17日 開催）
	5		CB	緩和ケアチームカンファレンス （5月8日、15日、22日、29日 開催）
	6		CB	緩和ケアチームカンファレンス （6月5日、12日、19日、26日 開催）
	7		CB	緩和ケアチームカンファレンス （7月3日、10日、17日、24日、31日 開催）
	8		CB	緩和ケアチームカンファレンス （8月7日、14日、21日、28日 開催）
	9		CB	緩和ケアチームカンファレンス （9月4日、11日、18日、25日 開催）

主催	月	日	行事	行事
福井大学	10		CB	緩和ケアチームカンファレンス (10月2日、9日、16日、23日、30日開催)
	11		CB	緩和ケアチームカンファレンス (11月6日、13日、20日、27日開催)
	11	22	FD	看護セミナー「患者のニーズに沿った寄り添う看護」 【基調講演】「私たちは心の声を聞いているか？」／【事例検討】 講師 名古屋市立大学病院 精神看護専門看護師 田端 恭兵 先生
	11	29	FD	緩和ケアセミナー 「がん医療に携わる医療者が知っていると役立つ家族ケア・遺族ケア」
	11	29	オンコロジー セミナー	北信がんプロ第9回オンコロジーセミナー 症例検討1：福井大学医学部附属病院 小練 研司 先生 症例検討2：信州大学医学部附属病院 久保田 冨英 先生 特別講演：「新たながん医療において、がん医療従事者に求められる意思決定支援を含めた患者支援」 国立がん研究センターがん対策情報センターがん医療支援部 部長 加藤 雅志 先生
	12		CB	緩和ケアチームカンファレンス (12月4日、11日、18日、25日開催)
	12	13	FD	医療者セミナー「アドバンスケアプランニングを知っていますか？ ～本人・家族・医療者とで考える生き方～」
	12	15	市民公開講座	県民公開シンポジウム「がん診療最前線」 テーマ：がん治療の新時代
	1		CB	緩和ケアチームカンファレンス (1月8日、15日、22日、29日開催)
	1	20	FD	教育研修「医療スタッフのためのがん患者の外見ケア」
	2		CB	緩和ケアチームカンファレンス (2月5日、12日、19日、26日開催)
	3		CB	緩和ケアチームカンファレンス (3月4日、11日、18日、25日開催)
	3	18	その他	片山寛次先生退職記念セミナー 「医療の基本である栄養、目的である緩和を実践してきた32年」

主催	月	日	行事	行事
金沢医科大学	4	27	FD	第10回腫瘍内科医会セミナー 「腫瘍循環器学がもたらす腫瘍内科のさらなる発展」(共催)
	5	17	FD	2019年度 第2回医学研究セミナー 「がんゲノム医療時代の臨床医の役割」 島根大学医学部産科婦人科学 教授 京哲 先生
	6	21	FD	2019年度 第8回医学研究セミナー 「脂肪幹細胞(ADSC)を用いた乳癌術後の乳房再生医療臨床試験と脂肪幹細胞の応用技術」 鳥取大学大学院医学系研究科機能再生医科学専攻遺伝子再生医療学講座再生医療学部門 教授 久留 一郎 先生

主催	月	日	行事	行事
金沢医科大学	6	21	会議	事業実施に係る学内打ち合わせ (本年度予算、合同市民公開講座演者、大学院生交流会出席者、1・2期がんプロ教材の見直し、履修生受け入れ、本年度事業について他)
	7	10	FD	第36回腫瘍病理セミナー・北信がんプロFD講演会 「ゲノミクスの病理解剖への応用」 大阪大学大学院医学系研究科先端ゲノム医療学共同研究講座 特任教授 前田 大地 先生
	7	12	FD	第3回先進呼吸器外科学セミナー・北信がんプロFD講演会 「末梢型肺癌に対する気管支鏡診療」 地方独立行政法人岐阜県総合医療センター呼吸器内科 部長 浅野 文祐 先生
	7	17	FD	2019年度 第10回医学研究セミナー 「消化管癌の最新の診断と治療」名古屋市立大学院医学研究科 消化器・代謝内科学 教授 片岡 洋望 先生
	7	25	FD	第37回腫瘍病理セミナー・北信がんプロFD講演会 「染色体末端領域テロメア・サブテロメアから生命の基本原理を探る」 大阪大学蛋白質研究所細胞核ネットワーク研究室 独立准教授 加納 純子 先生
	9	18	オンコロジー セミナー	北信がんプロ第9回オンコロジーセミナー 症例検討：金沢医科大学 腫瘍内科学 助教 葛西 傑 先生 金沢医科大学一般・消化器外科学 臨床教授 高村 博之 先生 特別講演：慶應義塾大学医学部 腫瘍センター ゲノム医療ユニット 教授 西原 広史 先生
	10	1	その他	がんプロインテンシブコース生（科目等履修生）1名受け入れ
	10	5	市民公開講座	市民公開講座免疫チェックポイント阻害薬：ノーベル賞を受けた治療への正しい理解のために「消化器がんに対する免疫療法の最前線」九州大学大学院医学研究院社会環境医学講座連携社会医学分野 教授 馬場英司 先生「免疫チェックポイント阻害薬で大きく変わった肺がんの治療」千葉大学大学院医学研究院臨床腫瘍学/医学部附属病院腫瘍内科 教授 滝口 裕一 先生（金沢医科大学）
	10	15	FD	（共催事業：国際シンポジウム） 細胞治療プロジェクト シンポジウム“Reprogramming of Cancer Genome”「Facts and myths of cancer precision medicine」 金沢医科大学総合医学研究所 教授 新井田 要 先生 「Cancer reprogramming of human gastric cancer cells inhibits tumorigenicity induced by HOXA13-LNCRNA hottip axis.」 高雄医学大学 医学研究所 教授 横山 一成 先生 「Dissecting cancer biology with iPS cell technology」 東京大学 医科学研究所 システム疾患モデル研究センター先進病態モデル研究分野 教授 山田 泰広 先生
	3	4-6	その他	【中止・延期】第92回日本胃癌学会総会安本特任教授参加
	3	13-14	その他	【中止・延期】第19回日本再生医療学会総会下平教授・小屋助教参加
	3	14-15	FD	【中止・延期】がん医療に携わる医師に対するコミュニケーション技術研修会（金沢医科大学）
	3	19	その他	インテンシブコース生3名修了

主催	月	日	行事	行事
石川県看護大学	6	4	C B	第1回ライフステージ事例検討会
	7	2	C B	第2回ライフステージ事例検討会
	7	27	看護C B	CNS 関係者によるがん看護事例検討会
	8	4	C B	第3回ライフステージ事例検討会 事例検討：「A Y A 世代の乳がん患者の対応に苦慮した事例」 金沢医科大学病院 藪下佳子看護師 ミニレクチャー：「A Y A 世代のがん看護」 金沢医科大学病院 上埜千春がん看護専門看護師
	8	6	C B	第3回ライフステージ事例検討会
	8	24	F D	看護実践セミナー 「臨床で行なうリンパ浮腫のケア～基礎編～」
	10	1	C B	第4回ライフステージ事例検討会
	10	6	F D	医療従事者向け公開講座 「ゲノム医療の現状と薬物間相互作用を知り、現場に活かそう」
	10	6	看護C B	CNS 関係者によるがん看護事例検討会
	10	26	F D	看護実践セミナー「臨床で行なうリンパ浮腫のケア～アドバンス編～」
	11	5	C B	第5回ライフステージ事例検討会
	12	3	C B	第6回ライフステージ事例検討会
	2	4	C B	第7回ライフステージ事例検討会
	3	3	C B	【中止・延期】第8回ライフステージ事例検討会
	3	22	市民公開講座	【中止・延期】市民公開講座「がんになっても自分らしい人生を過ごすために～今から家族と人生会議（ACP）を～」

主催	月	日	行事	行事
その他	4	30	その他	平成30年度 実績報告書提出
	5	22	委員会	第1回 総務委員会
	6	17	F D	海外F D研修（台湾高雄）報告会
	10	8	C B	小児血液・がん症例検討会 in 中部
	11	7	会議	令和元年度 北信がんプロ運営協議会
	12	27	新聞掲載	北國新聞 10月20日開催 市民公開講座 報告記事
	12	1	テレビ放映	10月20日開催の市民公開講座のダイジェスト版を放送 （金沢ケーブルテレビネット・テレビ松本・ケーブルテレビ富山・福井ケーブルテレビ）
	1	1	テレビ放映	11月17日開催の市民公開講座のダイジェスト版を放送 （金沢ケーブルテレビネット・テレビ松本・ケーブルテレビ富山・福井ケーブルテレビ）
	1	26	新聞掲載	福井新聞 12月15日開催 県民公開シンポジウム 採録記事
	2	4	新聞掲載	北國新聞・信濃毎日新聞・富山新聞 11月17日開催 市民公開講座 報告記事
	3	6	委員会	第2回 総務委員会

令和元年度 学長連絡協議会

【日 時】 令和元年 11 月 17 日（日） 13：00～13：50

【場 所】 ホテルメトロポリタン長野 2 階（中宴会場「梓」）

【参加者】

氏 名	所 属	部署/役職
山崎 光悦	金沢大学	金沢大学長
矢野 聖二		附属病院がんセンター長・腫瘍内科教授（統括コーディネーター）
中田 光俊		脳神経外科学 教授
大谷 咲子		がん進展制御研究所 腫瘍内科 特任助教
石塚 靖志		医学大学院係 事務補佐員
今村 麻左美		医学大学院係 事務補佐員
濱田 州博	信州大学	信州大学長
小泉 知展		包括的がん治療学教室 教授
手塚 道憲		学務・臨床研修グループ 副事務長
丸山 佳笑		学務・臨床研修グループ 事務補佐員
齋藤 滋	富山大学	富山大学長
林 龍二		臨床腫瘍部 教授
経田 麻衣		富山大学 医薬系学務課 事務補佐員
上田 孝典	福井大学	福井大学長
廣野 靖夫		医学部附属病院がん診療推進センター長准教授
武藤 香子		総務部松岡キャンパス運営管理課 総務担当主査
神田 享勉	金沢医科大学	金沢医科大学長
下平 滋隆		再生医療学教授
石野 道香		教学課（大学院医学研究科担当） 事務補佐員
石垣 和子	石川県立看護大学	石川県立看護大学長
牧野 智恵		石川県立看護大学 成人・老年看護学講座教授

【開催風景】



【発表資料】

令和元年11月17日（日）
ホテルメトロポリタン長野

令和元年度
北信がんプロ学長連絡協議会

「超少子高齢化地域での先進的がん医療人養成」
北信がんプロ活動状況報告

事業責任者 矢野 聖二

金沢大学附属病院がんセンター
金沢大学がん遺伝制御研究所 腫瘍内科
WPI 金沢大学ナノ生命科学研究所

令和元年度北信がんプロ学長連絡協議会

発表内容

- 1、事業概要と実施体制
- 2、事業予算
- 3、平成30年度外部評価委員会の結果と対応策
- 4、事業の進捗
 - (1) 教育コースの整備状況
 - (2) 教育コースの受入れ状況
 - (3) スタッフ研修
 - (4) 合同シンポジウム
- 4、市民公開講座、啓発活動
- 4、今後の予定

北信がんプロの実施事業

① 講義
全国e-learningクラウド
がんゲノム、小児・AYA・AYAがん、
ライフステージに関する教材を
教員が作成

② 演習（多職種連携）
北信4県のがん拠点病院等
北信4県の医師会
北信4県の自治体
北信オンコロジーセミナー
ライフステージ事例検討会
(TV会議システムを使用)

③ 地域がん医療の特徴把握
地域がんデータベース
(院内がん登録データを活用)
小児・AYA世代・高齢者の
がんデータの把握と対策立案

④ スタッフ研修 (FD)
地域でのFD研修
がん拠点病院や
大学プログラムと連
携した研修会を実施
海外FD研修
海外連携施設

⑤ 人材交流
国際シンポジウム
合同シンポジウム
他のがんプロ拠点
他の人材育成プログラム
「未来医療」、「超プロ」
「スーパードクター」等

⑥ 市民啓発・教育
市民公開講座
アンケートでニーズの把握
患者会
北信4県の自治体
北信4県の医師会
北信4県のがん拠点病院等

北信がんプロ

連携校責任者

福井大 金沢区大 金沢大 石川看護大 富山大 信州大

藤野 晴久 丸橋 誠治 大野 聖二 牧野 智恵 村 誠二 小倉 邦典

北信がんプロ事務局(金沢大内)

スタッフが一部変わりました

今村 麻友典 石塚 靖志

各種委員会 委員リスト

※会議はTV会議システムで開催

大学名	総務委員長	財務委員長	広報委員長	がんゲノム・AYA 委員長	オンコロジー・セミナー 委員長	連携委員長	外部評価委員 委員長
金沢大学	矢野 聖二	清上 野	大島 正博	中田 光俊	矢野 聖二	藤谷 康樹	塩田 美智子
	中田 光俊	鈴木 謙之	宮崎 智一	土屋 弘行	中田 光俊	日本 祥	今嶋 美子
		田嶋 新		谷本 祥			武村 智浩
		松下 真					堀 杏彦
	武村 智浩					三島 夏美	
						徳丸 孝弘	
信州大学	中山 淳	中山 淳	塩川 丹生	小倉 邦典	小倉 邦典	伊藤 研一	内田 諒
	小倉 邦典	中沢 洋三	野見山 智生	中沢 洋三	中沢 洋三		関宮 敦子
		小倉 邦典		中沢 洋三	塩川 丹生	伊藤 研一	
富山大学	村 誠二	北村 寛	新田 洋典	村 誠二	藤本 秀隆	北村 寛	安藤 智美
	新田 洋典	早川 秀弘	糸田 成昭	関野 道和	関野 道和	藤本 秀隆	星野 聖明
							新田 洋典
福井大学	藤野 晴久	小林 基弘	藤野 晴久	宮田 邦雄	藤野 晴久	山ノ内 智樹	上野 聖一
	片山 真次	堀見 智恵	上野 聖一	高田 智昭	片山 真次		松田 直美
	堀見 智恵	藤野 晴久					
	片山 真次						
北信医科大学	丸橋 誠治	下平 道隆	富川 光	西野 善一	安本 和志	山田 邦典	北村 佳子
	下平 道隆	川崎 志	新井 田 豊	清水 秀隆	藤村 博之	川崎 康弘	
石川県立看護大学	石塚 靖志	牧野 智恵	村 誠二		今井 和子	牧野 智恵	牧野 智恵
	牧野 智恵	北村 寛	藤野 晴久			松本 聖基	北村 寛

令和元年度北信がんプロ学長連絡協議会

発表内容

- 1、事業概要と実施体制
- 2、事業予算
- 3、平成30年度外部評価委員会の結果と対応策
- 4、事業の進捗
 - (1) 教育コースの整備状況
 - (2) 教育コースの受入れ状況
 - (3) スタッフ研修
 - (4) 合同シンポジウム
 - (5) 市民公開講座、啓発活動
- 4、今後の予定

北信がんプロ令和元年度予算概要

(単位:千円)

	共通	金沢大	信州大	富山大	福井大	金沢 医科大	石川 看護大	合計
福利経費	22,369	10,800	16,700	7,700	11,500	7,700	6,100	81,910
福利経費	2,000	2,000	—	—	—	—	—	4,000
予算計	24,369	12,800	16,700	7,700	11,500	7,700	6,100	86,869

平成29年度 131,900

平成30年度 101,420

令和元年度北信がんプロ学長連絡協議会

発表内容

1. 事業概要と実施体制
2. 事業予算
3. 平成30年度外部評価委員会の結果と対応策
4. 事業の進捗
 - (1) 教育コースの整備状況
 - (2) 教育コースの受入れ状況
 - (3) スタッフ研修
 - (4) 合同シンポジウム
 - (5) 市民公開講座、啓発活動
4. 今後の予定

H30年度外部評価委員会

2018年4月10日開催

出席者: 北信がんプロ協議会会長、各大学代表、協議会事務局

議題: 1. 協議会の現状と今後の方向性、2. 教育コースの整備状況、3. 市民公開講座の開催状況

平成30年度 外部評価委員会からのコメント

優れた点

- がんプロ大学院コース、インテンシブコースとも予定人数を確保して教育を行っている点
- 医科系5大学がゲノム医療拠点病院に指定された動きに呼応して、がんゲノム多職種連携入門のインテンシブコースを新設し、多職種の教育を行い、ゲノム医療開始に貢献している点
- E-ラーニングの教材をそれぞれの専門家が充実した内容で収録し、全国がんプロe-ラーニングクラウドに提供した点
- FDの一環として、教員が海外の優れた取り組みを学んでいる点
- 各大学が積極的に市民向けの広報活動を積極的に行い、多くの参加者を得た点
- ライフステージ事例検討会はよく練られた内容で非常に優れた取り組みである
- ホームページを更新し、内容も充実し、わかりやすい形で整備したことは評価できる。特にがんプロの入学者確保に向けたアナウンスは優れている。また、一般市民向けにもがんに関する情報源として大変有益と評価できる。

平成30年度 外部評価委員会からのコメント

改善を要する点

- 大学院コースおよびインテンシブコースの履修生・受講生の専門性やバックグラウンドを十分に把握したうえで、養成された人材が地域での新しいテーマに対応するがん医療が推進できるように考慮していただきたい(評価資料やプレゼンで示していただきたい)。
- オンコロジーセミナー、ライフステージ事例検討会は大学間連携・多職種連携に重要と考えられ、充実した内容であるが、大学を超えた取組・多職種の連携を図る教育事業がほかにあまりない点を考えると、もう少し開催回数を増やせないか考慮いただき、多職種が参加することによる幅広い議論を望みたい。
- 各大学がそれぞれの教育内容を分担する形で全体として第3期がんプロのテーマが推進されているのはよく理解できるが、必然的に大学ごとにみると特定の職種や専門性にばらつきがみられることになる。各地域に必要な人材養成の観点から考えると地域単位(大学単位)での後発的な養成も考慮すべきである。
- がんプロの活動内容および成果をもっと発信してアピールすることが望ましい。

平成30年度 外部評価委員会からのコメントへの対応策1

改善を要する点

- 大学院コースおよびインテンシブコースの履修生・受講生の専門性やバックグラウンドを十分に把握したうえで、養成された人材が地域での新しいテーマに対応するがん医療が推進できるように考慮していただきたい(評価資料やプレゼンで示していただきたい)。

対応策

- 大学院コースおよびインテンシブコースの履修生・受講生のリストを北信がんプロ事務局が作成し、専門性やバックグラウンドの把握を行う。
- 履修生・受講生のバックグラウンドが理解できる図表を作成し、令和元年度の外部評価委員会で提示する。

平成30年度 外部評価委員会からのコメントへの対応策2

改善を要する点

- オンコロジーセミナー、ライフステージ事例検討会は大学間連携・多職種連携に重要と考えられ、充実した内容であるが、大学を超えた取組・多職種の連携を図る教育事業がほかにもあまりない点を考えると、もう少し開催回数を増やせないか考慮いただき、多職種が参加することによる幅広い議論を望みたい。

対応策

- 第1期～第2期がんプロにおいて、セミナーの回数を増加（2週間ごと）させると、1回あたりの参加者数の減少やスタッフ・教員の疲弊を招いた経緯があるため、1回あたりの参加者数および職種数を増加させる対応を行う。
- オンコロジーセミナーに事例やケアに関する内容を多く組みこむ、ライフステージ事例検討会になるべく医師が参加するようなテーマを組みこむよう、対策を講じる。

平成30年度 外部評価委員会からのコメントへの対応策3

改善を要する点

- 各大学がそれぞれの教育内容を分担する形で全体として第3期がんプロのテーマが推進されているのはよく理解できるが、必然的に大学ごとにみると特定の職種や専門性にばらつきがみられることになる。各地域に必要な人材養成の観点から考えると地域単位（大学単位）での後発的な養成も考慮すべきである。

対応策

- 本来のがんプロの趣旨に基づき、自施設で弱い部分を強みを持った他施設の教材、教員による教育により補い、全体のレベルアップを図る。
- さらに専門性や職種のばらつきにより弱い部分については、自施設での研修会、講習会を開催して強化する。
- 可能であれば、インテンシブコースや大学院コースの立ち上げを行い、大学単位での強化を目指す。

各大学の独自の対応策と取組み

信州大	2019年度に、新規インテンシブコース「がん専門医療人インテンシブコース」を開設。
富山大	がんゲノム医療の充実を目的に、地域医療従事者も含めた「がんゲノム医療研修会」4回、「がんゲノム医療」とテーマとした市民公開講座を2年連続で開催。その結果、2019年9月には厚生省から「がんゲノム医療拠点病院」に指定。
福井大	平成27年度から福井県の協力のもと専門医を育成するためのがん専門医育成推進講座を医学部に設置。若手医師の資格取得のためにセミナー受講費や学会参加費、資格試験受験費用、論文投稿費用など専門医取得に必要な経費も含めてサポート。
金沢医大	遺伝子改変「細胞療法等の新たながん治療技術」に対応できる、専門的な認定者の育成。
石川看護大	一般の方に「人生会議」をもっと知ってもらう市民公開講座を企画。「がんになっても自分らしい人生をすごすために ～今から家族と人生会議(ACP)を～」 2020年3月22日(日) ホテル金沢
金沢大	大学院医薬保健学総合研究科の修士課程コースとして「遺伝カウンセリングコース」の新設を令和2年度に予定。指導教官：渡邊 淳 特任教授（金沢大学附属病院遺伝診療部）

平成30年度 外部評価委員会からのコメントへの対応策4

改善を要する点

- がんプロの活動内容および成果をもっと発信してアピールすることが望ましい。

対応策

- 合同市民公開講座1回、各大学における市民公開講座6～7回を行っているが、さらにその内容を北信4件の新聞社への記事の掲載、ケーブルテレビでの放映などで発信してアピールをする。ホームページのさらなる充実を行う。SNS利用も行っている。

北信がんプロの3大学病院ががんゲノム医療連携病院に指定（2018年4月）

連携病院	中核拠点病院
金沢大学	国立がんセンター東病院 慶應義塾大学病院
信州大学	岡山大学病院
富山大学	京都大学医学部附属病院
福井大学	京都大学医学部附属病院 香川県立中央病院
金沢医科大学	慶應義塾大学病院

北信がんプロの3大学病院ががんゲノム医療拠点病院に指定（2019年9月）

がんゲノム医療拠点病院（3大学）

北海道がんセンター	信州大学医学部附属病院
弘前大学医学部附属病院	新潟県立病院がんセンター
山形大学医学部附属病院	愛知県がんセンター
秋田大学附属病院	三重大学医学部附属病院
埼玉医科大学がんセンター	大阪府がんセンター
埼玉医科大学国際医療センター	滋賀大学病院
千葉県がんセンター	大阪市総合医療センター
がん研究会有明病院	兵庫県がんセンター
東京総合助産院	神戸大学医学部附属病院
東京医科大学大学医学部附属病院	兵庫医科大学病院
国立成育医療研究センター	広島大学病院
神奈川県立がんセンター	香川大学医学部附属病院
東海大学医学部附属病院	西宮がんセンター
聖マリアンナ医科大学病院	京都大学病院
新潟大学医学部総合病院	九州がんセンター
富山大学附属病院	長崎大学病院
金沢大学附属病院	鹿児島大学病院

令和元年度北信がんプロ学長連絡協議会

発表内容

- 1、事実概要と実施体制
- 2、事業予算
- 3、平成30年度外部評価委員会の結果と対応策
- 4、事業の進捗
 - (1) 教育コースの整備状況
 - (2) 教育コースの受入れ状況
 - (3) スタッフ研修
 - (4) 合同シンポジウム
 - (5) 市民公開講座、啓発活動
- 4、今後の予定



がんプロe-learningクラウド

年度	講義科目	金沢大	石川大	福井大	富山大	北信大	北陸大	山梨大	山形大	合計
2019年度	がんプロe-learningクラウド									
2020年度	がんプロe-learningクラウド									

がんプロe-learningクラウド

年度	講義科目	金沢大	石川大	福井大	富山大	北信大	北陸大	山梨大	山形大	合計
2019年度	がんプロe-learningクラウド									
2020年度	がんプロe-learningクラウド									

がんプロe-learningクラウド

年度	講義科目	金沢大	石川大	福井大	富山大	北信大	北陸大	山梨大	山形大	合計
2019年度	がんプロe-learningクラウド									
2020年度	がんプロe-learningクラウド									

令和元年度開講講義

北信がんプロ教育コース受入れ目標数

教育コース	年度	令和元年度(2019年度)					合計
		H29	H30	H31	H32	H33	
本科生コース							
がんプロe-learningクラウド	2019年度	0	5	5	5	5	20
がんプロe-learningクラウド	2020年度	0	1	2	2	2	7
がんプロe-learningクラウド	2021年度	0	2	2	2	2	6
がんプロe-learningクラウド	2022年度	0	2	2	2	2	6
がんプロe-learningクラウド	2023年度	0	1	1	1	1	4
合計		0	4	4	4	4	16
インディペンデントコース							
がんプロe-learningクラウド	2019年度	0	1	1	1	1	4
がんプロe-learningクラウド	2020年度	0	2	2	2	2	6
がんプロe-learningクラウド	2021年度	0	2	2	2	2	6
がんプロe-learningクラウド	2022年度	0	2	2	2	2	6
がんプロe-learningクラウド	2023年度	0	2	2	2	2	6
合計		0	22	22	22	22	91

北信がんプロの教育コース(受入目標と実績)

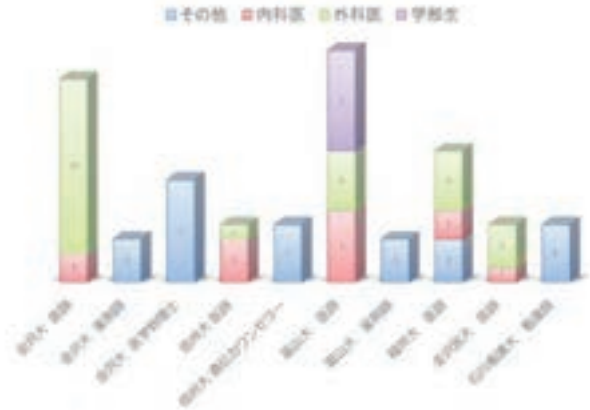
本科生コース(平成30年4月受入開始) (令和元年11月14日現在)

コース名	職種	受入目標人数				受入実績			
		H29	H30	R01	R02	H29	H30	R01	R02
金沢大	先端がん医療技術者	0	5	5	5	0	9	5	14
	放射線医療技術者	0	1	2	2	0	1	2	3
	高度化医学物理士	0	2	2	2	0	3	4	7
信州大	がんゲノム医療技術者	0	2	2	2	0	2	2	4
	遺伝子カウンセラー	0	1	1	1	0	1	1	4
富山大	高度がん医療技術者	0	4	4	4	0	4	4	10
	遺伝子医療技術者	0	1	1	1	0	1	2	3
福井大	がんゲノム医療技術者	0	2	2	2	0	4	5	9
	がんゲノム医療コーディネーター	0	2	2	2	0	2	2	4
石川看護大	がんライフサイエンス	0	2	2	2	0	1	3	4
合計		0	22	23	23	0	30	30	69

インテンシブコース 平成29年10月受入開始(一部30年4月受入開始)

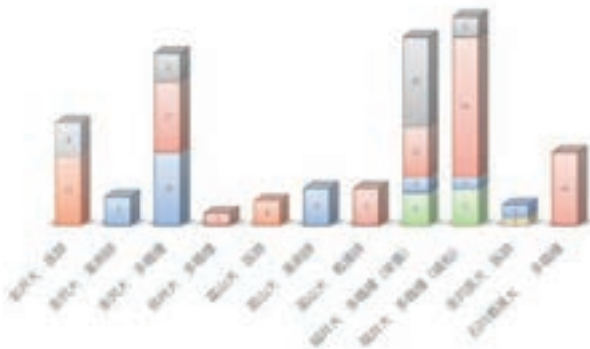
コース名	職種	受入目標人数				受入実績				
		H29	H30	R01	R02	H29	H30	R01	R02	
金沢大	がんゲノム医療技術者	2	6	6	6	2	12	11	20	
	放射線医療技術者	0	1	4	4	0	4	3	7	
	がんゲノム多職種連携入門全職種	-	10	10	10	40	-	32	12	44
信州大	がんゲノム医療技術者	-	-	5	10	10	25	-	3	3
	高度がん医療技術者	2	2	2	2	10	2	2	2	6
富山大	高度がん医療技術者	1	2	2	2	9	2	5	2	9
	遺伝子カウンセラー	0	1	2	2	2	0	3	2	5
福井大	がんゲノム医療技術者	0	12	22	22	29	0	23	23	45
	遺伝子医療技術者	0	24	24	24	24	0	27	24	51
	がんゲノム医療コーディネーター	1	2	2	2	9	1	2	2	5
石川看護大	がんライフサイエンス	2	5	5	5	22	3	10	9	19
合計		5	35	70	70	204	10	122	30	223

本科コース内訳



インテンシブコース内訳

■ 内科医 ■ 外科医 ■ 小児科 ■ 病棟 ■ 医師 ■ 薬剤師 ■ 看護師 ■ その他



多職種連携演習

・目的: 最先端のゲノム医療、小児・AYA世代・高齢者がん、希少がん症例の研究、診断、治療、緩和ケア、就労支援等を効率的に学習する演習

北信オンコロジーセミナー ライフステージ事例検討会

- ・がんの病態、診断、治療に主眼
- ・開催頻度: 3か月に1回 (5年間で18回)
- ・患者のケアに主眼
- ・開催頻度: 年に8回 (5年間で30回)
- ・石川看護大が主催

第1回 (金沢大)	第6回 (金沢大)	(H30年度 参加人数)	(R01年度 参加人数)
29.12.8 90名	31.2.7 89名	第1回 97名	第1回 113名
第2回 (富山大)	第7回 (富山大)	第2回 85名	第2回 113名
30.3.26 92名	01.5.31 115名	第3回 89名	第3回 98名
第3回 (金沢医大)	第8回 (金沢医大)	第4回 102名	第4回 98名
30.6.29 107名	01.9.18 91名	第5回 118名	第5回 61名
第4回 (福井大)	第9回 (福井大)	第6回 93名	第6回 名
30.9.21 95名	01.11.29 開催予定	第7回 71名	第7回 名
第5回 (信州大)	第10回 (信州大)	第8回 77名	第8回 名
30.11.22 82名	02.2.7 開催予定	計 732名	計 483名
1~8回計 671名参加			

海外FD研修の実績と予定

年度	主幹校	テーマ	訪問施設	参加人数	日程
2017	金沢大	がんゲノム医療	ワシントンDC 国立ヒトゲノム研究所(NHGR) 国立がん研究所(NCI)	12	2018/2/12-2/17
	石川看護大	緩和ケア	メルボルン モナッシュ大学 ピクトリア州保健福祉局 など合計6施設	14	2018/3/24-3/30
2018	金沢医大	高度医療	台湾 高雄醫學大學	15	2018/11/13-11/17
2019	信州大 富山大	がんゲノム医療	台湾 台北医学大学 台北医学大学雙和病院	12 (予定)	2020/2/17-2/21

令和元年6月17日(月)に海外FD研修報告会を
連携6大学のTV会議で実施

海外FD研修(台湾高雄)報告会

参加者全員がスライドで成果を発表

研修成果を連携6大学のスタッフに提供

2019年6月17日(月)
18:00~19:00

金沢大学看護学部 第7号講義室

九州がんプロ合同シンポジウム

北信がんプロ第4回オンコロジーセミナー2月7日開催 参加人数：85名

北信がんプロ・九州がんプロ 第6回オンコロジーセミナー合同シンポジウム

【講演内容】
 1. がん診療最前線
 2. がん診療最前線
 3. がん診療最前線

合同市民公開講座

(参加人数250名)
 目的：市民への啓蒙がん教育

検診受診
↓
 早期発見
↓
 早期治療
↓
 早期社会復帰

の流れを作る

○場所 県民ホール（アオキスタ6階） 料 300円
 ○日時 12月16日（水） 13:30～17:00

- ・年1回ずつ
- ・場所は毎年持ちまわり
- ・有田全大関係者が1名は出席
- ・順番は石川→福井→長野→石川→富山

がん診療最前線

最新がん診療の動向を伝える。がん診療最前線。がん診療最前線。がん診療最前線。

小児・AYA世代のがんを知る

11.17. がんを知る

県民ホール（アオキスタ6階） 料 300円

期日	場所	内容	主催
11月17日	県民ホール	がんを知る	北信がんプロ連合会
11月18日	県民ホール	がんを知る	北信がんプロ連合会
11月19日	県民ホール	がんを知る	北信がんプロ連合会
11月20日	県民ホール	がんを知る	北信がんプロ連合会
11月21日	県民ホール	がんを知る	北信がんプロ連合会
11月22日	県民ホール	がんを知る	北信がんプロ連合会
11月23日	県民ホール	がんを知る	北信がんプロ連合会
11月24日	県民ホール	がんを知る	北信がんプロ連合会
11月25日	県民ホール	がんを知る	北信がんプロ連合会
11月26日	県民ホール	がんを知る	北信がんプロ連合会
11月27日	県民ホール	がんを知る	北信がんプロ連合会
11月28日	県民ホール	がんを知る	北信がんプロ連合会
11月29日	県民ホール	がんを知る	北信がんプロ連合会
11月30日	県民ホール	がんを知る	北信がんプロ連合会

北信がんプロホームページ

HPアクセス状況（1年間の推移）
 ユーザー数 10,727
 ページビュー 47,883
 ページセッション 2,941

※以下、平成30年4月～平成31年3月

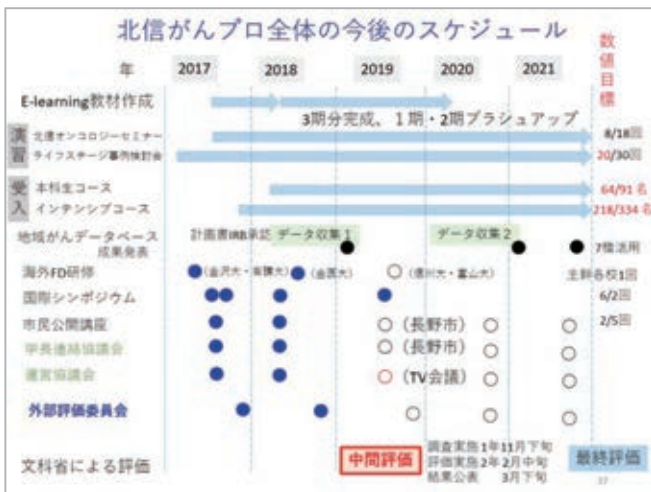
ホームページ更新状況
 更新主体 60回
 金沢大 56回
 富山大 23回
 金沢医科大 16回
 石川商経大 24回

※以下、Facebook/Twitter
 更新主体 40回
 金沢大 32回
 金沢医科大 11回

令和元年度北信がんプロ学長連絡協議会

発表内容

1. 事実概要と実施体制
2. 事業予算
3. 平成30年度外部評価委員会の結果と対応策
4. 事業の進捗
 - (1) 教育コースの整備状況
 - (2) 教育コースの受入れ状況
 - (3) スタッフ研修
 - (4) 合同シンポジウム
 - (5) 市民公開講座、啓発活動
4. 今後の予定





北信がんプロ

若少子高齢化地域での先進的がん医療人養成

今後ともよろしくお願いたします

令和元年度 運営協議会

【日 時】 令和元年 11 月 7 日 (水) 17:00～

【場 所】 各施設テレビ会議室

【参加者】 40 名 (陪席 大学職員 14 名)

氏 名	所属	部署/役職	備考
蒲田 敏文	金沢大学	附属病院長	
大竹 茂樹		基幹教育改革・財務・附属病院担当理事	
矢野 聖二		がんセンター長・腫瘍内科教授 統括コーディネーター	
松下 良		臨床薬物情報学教授	
稲垣 美智子		保健学類長	
大島 正伸		腫瘍遺伝学教授	
安本 和生	金沢医科大学	腫瘍内科学特任教授	
下平 滋隆		再生医療学教授	
又野 豊	小松市民病院	消化器内科担当部長	
西野 昭夫		副病院長 (泌尿器科)	
横川 明男	石川県済生会金沢病院	病院長	
龍澤 泰彦		副病院長	
上田 博	石川県医師会	副会長	
菊地 修一	石川県健康福祉部	健康福祉部次長	
石垣 和子	石川県立看護大学	学長	
牧野 智恵		教授	
高見 俊也	北國新聞社	論説委員長	
和田 真由美	血液疾患の患者会「萌の会」	代表	
大石 尚毅	金沢市立病院	消化器内科科長	
卜部 健	白山石川医療企業団	副企業長	
上木 修	公立能登総合病院	病院長	
牛島 聡		副病院長	
鎌田 徹	恵寿総合病院	病院長	代理出席：森下 毅
前田 亜佐子		事務部副部長	
佐久間 寛	芳珠記念病院	病院長	
本郷 一博	信州大学	病院長	
小泉 知展		包括的がん治療学教室教授	代理出席：小林 孝至
片山 寛次	福井大学	がん専門医育成推進講座 特命教授	
廣野 靖夫		がん診療推進センター長	
磯見 智恵		看護学科成人・老年看護学教授	
宮下 裕文	福井県健康福祉部	健康増進課長	

氏名	所属	部署/役職	備考
林 龍二	富山大学	臨床腫瘍部教授	
北村 寛		医学薬学研究部(医学) 腎泌尿器科学教授	
新田 淳美		医学薬学研究部(薬学) 薬物治療学教授	
尾崎 淳	富山赤十字病院	第二血液内科部長	
吉田 徹	富山県済生会高岡病院	外科部長	
梶川 昌二	諏訪赤十字病院	病院長	
田内 克典	相澤病院	病院長	代理出席：三島 修
和田 秀一	長野赤十字病院	病院長	
西村 秀紀	長野市民病院	副病院長・がんセンター長	

【運営協議会次第】

文部科学省 平成29年度大学教育再生戦略推進費
多様なニーズに対応する「がん専門医療人材（がんプロフェッショナル）」養成プラン

超少子高齢化地域での先進的がん医療人養成 令和元年度 北信がんプロ運営協議会

■日時 令和元年11月7日（木）17時～

■場所 各施設テレビ会議システム設置場所
(金沢大学医学部教育棟地下大多目的室)

次第

(開会挨拶) 金沢大学附属病院 病院長 蒲田 敏文

(議題) 1. 令和元年度事業計画等について概要説明
北信がんプロ 事業責任者 (20分)
金沢大学附属病院がんセンター 教授 矢野 聖二

2. 各大学の取り組みについて (各5分)

信州大学包括的がん治療学	教授	小泉 知要
金沢医科大学 腫瘍内科学	特任教授	安本 和生
富山大学 附属病院臨床腫瘍部	教授	林 龍二
福井大学 がん診療推進センター	准教授	廣野 靖夫
石川県立看護大学 成人看護学	教授	牧野 智恵
金沢大学 臨床薬物情報学	教授	松下 良
金沢大学附属病院がんセンター	教授	矢野 聖二

3. がんデータベースについて

金沢医科大学 公衆衛生学	教授	西野 善一
--------------	----	-------

4. その他 (質疑応答)

(閉会挨拶) 基幹教育改革・財務・附属病院担当理事 大竹 茂樹 (18時30分 終了予定)

【運営協議会開催風景】



オンコロジーセミナー

No.	内容
<p>第7回</p>	<p>北信がんプロ 第7回オンコロジーセミナー</p> <p>日 時：令和元年5月31日（金）18：00～20：00</p> <p>場 所：各大学、各施設テレビ会議室</p> <p>症例検討1：「局所進行切除不能膵癌に対する Conversion surgery の2症例」</p> <p>発表者：平野 勝久 （富山大学大学院医学薬学研究部 消化器・腫瘍・総合外科助教）</p> <p>症例検討2：「長期間のIP治療後に生じた多発肝転移に対して Nivolumab が奏功したCY陽性胃癌の1例」</p> <p>発表者：成瀬 貴之 （福井大学医学部附属病院 消化器外科 特命助教）</p> <p>特別講演：「膵腫瘍のゲノム解析とゲノム医療」</p> <p>講師：古川 徹（東北大学大学院 医学系研究科医科学専攻 病理病態学講座 病態病理学分野 教授）</p> <p>参加者：115名</p> 
<p>第8回</p>	<p>北信がんプロ 第8回オンコロジーセミナー</p> <p>日 時：令和元年9月18日（水）18：00～20：00</p> <p>場 所：各大学、各施設テレビ会議室</p> <p>症例検討1：「急速進行した前胸部原発転移性メルケル細胞癌の1例」</p> <p>発表者：葛西 傑（金沢医科大学医学部 腫瘍内科学 助教）</p> <p>症例検討2：「巨大肝転移巣切除により診断された膵臓房細胞癌の1例」</p> <p>発表者：高村 博之 （金沢医科大学医学部 一般・消化器外科学 臨床教授）</p> <p>特別講演：「がんゲノム医療の展開 -遺伝子パネル検査から全エクソン解析へ」</p> <p>講師：西原 広史（慶応義塾大学医学部腫瘍センター ゲノムユニット長 教授）</p> <p>参加者：81名</p> 
<p>第9回</p>	<p>北信がんプロ 第9回オンコロジーセミナー</p> <p>日 時：令和元年11月29日（金）18：00～20：00</p> <p>場 所：各大学、各施設テレビ会議室</p> <p>症例検討1：「膵体尾部切除を行った多発性骨髄腫の膵病変の1例」</p> <p>発表者：小練 研司（福井大学医学部附属病院 消化器外科 講師）</p> <p>症例検討2：「HER2陽性再発性乳房外 Paget病に対する Trastuzumab+paclitaxel 療法-5例の経験」</p> <p>発表者：久保田 冴英 （信州大学医学部附属病院 信州がんセンター 医学科3年生）</p> <p>特別講演：「新たながん医療において、がん医療従事者に求められる意思決定支援を含めた患者支援」</p> <p>講師：加藤 雅志（国立がん研究センター がん対策情報センターがん医療支援部 部長）</p> <p>参加者：82名</p> 

No.	内容
第10回	<p>北信がんプロ 第10回オンコロジーセミナー</p> <p>日 時：令和2年2月7日(金) 18:00~20:00</p> <p>場 所：各大学、各施設テレビ会議室</p> <p>症例検討1：「10年以上肝転移再発治療を行ってきた乳癌患者に対するがん遺伝子パネル検査」</p> <p>発表者：井上 慎吾(山梨大学 第一外科 講師)</p> <p>症例検討2：「ニボルマブ投与中に劇症1型糖尿病を発症した腎細胞癌の1例」</p> <p>発表者：縺縺 佳樹(金沢大学附属病院 泌尿器科 医員)</p> <p>特別講演：「がんゲノム医療の実地臨床における課題」</p> <p>講 師：平沢 晃 (岡山大学 大学院医歯薬学総合研究科 病態制御科学専攻 腫瘍制御学講座(臨床遺伝子医療学分野))</p> <p>参加者：84名</p>



<開催風景>



(金沢大学附属病院 CPD センター)



(金沢大学医学類教育棟 多目的室)

ライフステージ事例検討会

No.	内 容
第1回	<p>北信がんプロ 第1回がんライフステージ事例検討会</p> <p>日 時：令和元年6月4日（火）17：45～19：15</p> <p>場 所：各大学、各施設テレビ会議室</p> <p>事例検討：「転倒・転落の危険性が高い終末期がん患者の尊厳を保つ 関わりー患者の人生から考える“動きたい”の意味ー」</p> <p>事例発表者：野口 麻衣 松本 友梨子（福井県済生会病院）</p> <p>ミニレクチャー：「緩和ケアにおける倫理的問題への対応」</p> <p>講 師：松本 友梨子（福井県済生会病院 がん看護専門看護師）</p> <p>参 加 者：113名</p>
第2回	<p>北信がんプロ 第2回がんライフステージ事例検討会</p> <p>日 時：令和元年7月2日（火）17：45～19：15</p> <p>場 所：各大学、各施設テレビ会議室</p> <p>事例検討：「揺れ動く気持ちの中で在宅療養が叶わなかった事例を 振り返って～思いに寄り添う看護とは～」</p> <p>事例発表者：森木 郷江 藤崎 薫（市立砺波総合病院 看護師）</p> <p>ミニレクチャー：「看護師のグリーフへの援助」</p> <p>講 師：平 優子（市立砺波総合病院 がん看護専門看護師）</p> <p>参 加 者：113名</p>
第3回	<p>北信がんプロ 第3回がんライフステージ事例検討会</p> <p>日 時：令和元年8月6日（火）17：45～19：15</p> <p>場 所：各大学、各施設テレビ会議室</p> <p>事例検討：「AYA世代の乳がん患者の対応に苦慮した事例」</p> <p>事例発表者：上埜 千春、藪下 佳子（富山赤十字病院）</p> <p>ミニレクチャー：「意思決定支援における看護師の役割」</p> <p>講 師：上埜 千春（金沢医科大学 がん看護専門看護師）</p> <p>参 加 者：98名</p>
第4回	<p>北信がんプロ 第4回がんライフステージ事例検討会</p> <p>日 時：令和元年10月1日（金）17：45～19：15</p> <p>場 所：各大学、各施設テレビ会議室</p> <p>事例検討：「対応が難しいと感じた終末期高齢がん患者の 家族との関わりを経験して」</p> <p>事例発表者：井田 晋一郎、時山 麻美（富山県立中央病院）</p> <p>ミニレクチャー：「エンド・オブ・ライフを支える家族へのケア～患者・家族の 思いに寄り添う看護師の体験からみえてきた家族ケア～」</p> <p>講 師：時山 麻美（富山県立中央病院）</p> <p>参 加 者：98名</p>





No.	内 容
第5回	<p>北信がんプロ 第5回がんライフステージ事例検討会</p> <p>日 時：令和元年11月5日（火）17：45～19：15</p> <p>場 所：各大学、各施設テレビ会議室</p> <p>事例検討：「分子標的治療薬による皮膚症状で治療中断を希望されたがん患者への支援」</p> <p>事例発表者：藤川 直美（石川県立中央病院）</p> <p>ミニレクチャー：「分子標的治療薬による皮膚症状とケア」</p> <p>講 師：藤川 直美（石川県立中央病院 がん看護専門看護師）</p> <p>参加者：61名</p> 
第6回	<p>北信がんプロ 第6回がんライフステージ事例検討会</p> <p>日 時：令和元年12月3日（火）17：45～19：15</p> <p>場 所：各大学、各施設テレビ会議室</p> <p>事例検討：「有害事象により日常生活への支障があるがサポートを希望しない40代男性との関わり」</p> <p>事例発表者：竹中 栄伸（金沢大学附属病院 緩和ケア認定看護師）</p> <p>ミニレクチャー：「がん治療を受ける40代男性の意向を汲み生活を支える」</p> <p>講 師：佐伯 千尋（金沢大学附属病院 がん看護専門看護師）</p> <p>参加者：100名</p> 
第7回	<p>北信がんプロ 第7回がんライフステージ事例検討会</p> <p>日 時：令和2年2月4日（火）17：45～19：15</p> <p>場 所：各大学、各施設テレビ会議室</p> <p>事例検討：「在宅看取り希望の終末期の患者が腸閉塞で緊急入院した事例 ～訪問診療所の立場から～」</p> <p>事例発表者：辻裏 夏希（福井大学医学部附属病院 看護師）</p> <p>ミニレクチャー：「在宅療養がん高齢者を支える急性期病院の入退院支援」</p> <p>講 師：久保 博子（福井大学医学部附属病院 がん看護専門看護師）</p> <p>参加者：95名</p> 
第8回	<p>北信がんプロ 第8回がんライフステージ事例検討会</p> <p>日 時：令和2年3月3日（金）17：45～19：15</p> <p>場 所：各大学、各施設テレビ会議室</p> <p>事例検討：「患者本人への予告告知を希望されなかった本人・家族への関わりを振り返る ～残された時間をその人らしく過ごすためには～」</p> <p>事例発表者：水上 かよ子（市立砺波総合病院 看護師） 前田 真裕美（市立砺波総合病院 がん性疼痛看護認定看護師）</p> <p>ミニレクチャー：「がん看護と語り」</p> <p>講 師：平 優子（市立砺波総合病院がん看護専門看護師）</p> <p>新型コロナウイルス感染予防のため来年度に延期</p> 

セミナー・事例検討会

	内 容	
金沢大学	<p>国際シンポジウム Joint Symposium on Tumor Biology in Kanazawa Joint Symposium 令和元年度 金沢大学がん進展制御研究所・韓国ソウル大学がん微小環境研究所 合同シンポジウム</p> <p>日 時：令和元年9月3日(月) 13:00~16:10 場 所：金沢大学自然科学系図書館 AV ホール 主 催：がん進展制御研究所、金沢国際がん生物学研究会 共 催：北信がんプロ、NanoLSI、新学術創成研究機構 参加者：92名</p>	
金沢大学	<p>国際シンポジウム International Symposium on Tumor Biology in Kanazawa 2019 令和元年度 金沢国際がん生物学シンポジウム</p> <p>日 時：令和元年10月26日(月) 09:00~17:00 場 所：金沢大学医学部記念館 主 催：がん進展制御研究所、金沢国際がん生物学研究会 共 催：北信がんプロ、超然プロジェクト、NanoLSI、新学術創成研究機構 参加者：115名</p>	
金沢大学	<p>北信がんプロセミナー (DL 講習会)</p> <p>日 時：令和2年2月29日(日) 13:30~17:15 場 所：金沢大学医薬保健学域保健学類 4号館1階4111講義室 演 題：「北信がんプロセミナー Deep Learning 講習会」 講 師：原 武史 先生 岐阜大学工学部電気電子・情報工学科 岐阜大学人工知能研究推進センター 主 催：北信がんプロ</p> <p>※新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、オンラインセミナーに変更</p>	
金沢大学	<p>石川県がん診療連携拠点病院研修会</p> <p>日 時：令和元年7月11日(木) 18:00~20:00 場 所：金沢大学附属病院 外来診療棟4階 宝ホール 演 題：「大腸癌薬物療法の最新のトピックス」 講 師：国立がん研究センター東病院 消化管内科 科長吉野 孝之先生 演 題：「がんゲノム医療の臨床実装」 講 師：京都大学大学院医学研究科 腫瘍薬物治療学講座 教授武藤 学先生 主 催：金沢大学附属病院 共 催：北信がんプロ、株式会社ヤクルト 後 援：石川県病院薬剤師会 参加者：66名</p>	

	内 容
<p>金沢大学</p>	<p>石川県がん診療連携拠点病院研修会</p> <p>日 時：令和元年10月17日(木) 18:00~20:00 場 所：金沢大学附属病院 外来診療棟4階 宝ホール 演 題：「クリニカルパスの基礎」 講 師：船田 千秋 (名古屋大学医学部附属病院 メディカルITセンター副センター長助教)</p> <p>演 題：「非小細胞肺癌における有効性 UP Date と安全性対策」 講 師：山本 信之 (和歌山県立医科大学 呼吸器内科・腫瘍内科 教授)</p> <p>主 催：金沢大学附属病院 共 催：北信がんプロ、アストロゼネカ株式会社 後 援：石川県病院薬剤師会 参加者：60名</p> 
<p>信州大学</p>	<p>北信がんプロセミナー</p> <p>「動き始めたがんゲノム医療 –現状と展望–」</p> <p>日 時：令和元年6月1日(土) 10:00~16:00 場 所：信州大学医学部 臨床棟 第1臨床講堂 対 象：医療関係者、医学部生 演題1：「食道がんの起源について」 -加齢に伴う食道上皮の遺伝子変異クローンによる再構- 講 師：小川 誠司先生 (京大大学院医学研究科 腫瘍生物学講座 教授)</p> <p>演題2：「がんゲノム医療の国内実装と国際展開」 講 師：中征 斉先生 (国立研究開発法人 国立がん研究センター 理事長)</p> <p>参加者：46名</p> 
<p>信州大学</p>	<p>都道府県がん診療連携拠点病院 医療者研修会</p> <p>小児・AYA世代のがんへの対応</p> <p>日 時：令和2年3月1日(日) 13:00~15:00 場 所：信州大学医学部附属病院 外来棟4階 大会議室</p> <p>講演1：「小児・AYA世代がんの現状」 講 師：大倉 絵梨 医師 信州大学医学部附属病院小児科</p> <p>講演2：「がん治療後の晩期合併症～長期フォローアップの重要性～」 講 師：盛田 大介 医師 信州大学医学部附属病院小児科</p> <p>講演3：「妊よう性温存の実際」 講 師：岡 賢二 医師 信州大学医学部附属病院産科婦人科</p> <p>主 催：信州大学医学部附属病院 信州がんセンター 共 催：北信がんプロ</p> <p>新型コロナウイルス感染予防の観点から来年度に延期</p> 

	内 容
<p>富山大学</p>	<p>乳がん領域のがんゲノム医療</p> <p>日 時：令和2年1月29日（水）17：30～ 場 所：富山大学附属病院 総合臨床研修センター2階 多目的研修室</p> <p>演 題：「がんゲノム医療」 講 師：田村 研治 （国立がん研究センター中央病院 乳腺・腫瘍内科科長通院治療センター）</p> <p>主 催：富山大学附属病院集学的がん診療センター、北信がんプロ 後 援：富山県がん診療連携協議会 参加者：38名</p> 
<p>富山大学</p>	<p>福井県立病院 陽子線がん治療センター説明会</p> <p>日 時：令和2年2月5日（水）19：00～ 場 所：富山大学附属病院 総合臨床教育センター2階 多目的研修室</p> <p>演 題：「福井県立病院 陽子線がん治療センターについて」 講 師：玉村 裕保（福井県立病院 陽子がん治療センター長）</p> <p>主 催：富山大学附属病院集学的がん診療センター、北信がんプロ 参加者：35名</p> 
<p>富山大学</p>	<p>AYA世代のがんの就労に関するワークショップ</p> <p>日 時：令和2年2月6日（木）18：30～ 場 所：富山大学附属病院2階 多目的研修室</p> <p>演 題：「AYA世代のがんの就労に関するワークショップ」 講 師：桜井 なおみ （一般社団法人CSRプロジェクト代表理事 キャンサーソリューションズ(株)代表取締役社長）</p> <p>主 催：富山大学附属病院集学的がん診療センター、北信がんプロ 参加者：50名</p> 

内 容

福井大学

看護セミナー

「地域で暮らすがん患者への支援」

日 時：令和元年11月22日（金）17：30～19：00

場 所：福井大学医学部 講義等1階 合併講義室

基調講演

演 題：「私たちは心の声を聴けているか？」

講 師：田端 恭兵

（名古屋市立大学病院 精神看護専門看護師）

事例検討

講 師：田端 恭兵

（名古屋市立大学病院 精神看護専門看護師）

座 長：磯見 智恵

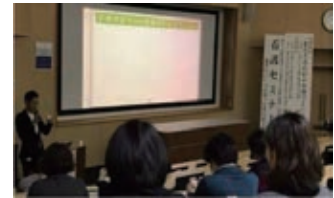
（福井大学医学部看護学科臨床看護学分分野 教授）

主 催：北信がんプロ

共 催：福井大学大学院医学系研究科

後 援：福井県看護協会

参加者：117名



福井大学

医療者セミナー

日 時：令和元年12月13日（日）14：10～15：15

場 所：福井大学医学部附属病院 臨床小講義室

演題1：「アドバンス・ケア・プランニングを知っていますか？」

～本人・家族・医療者として考える生き方～

講 師：西 智弘

（川崎市立井田病院 かわさき総合ケアセンター

腫瘍内科/緩和ケア内科）

主 催：

共 催：北信がんプロ

参加者：71名



	内 容
<p>金沢医科大学</p>	<p>第36回腫瘍病理セミナー／北信がんプロFD講演会 日 時：令和元年7月10日（水）18：00～19：30 場 所：金沢医科大学 基礎研究棟3階大学院セミナー室、 各大学・各施設テレビ会議室 演 題：「ゲノミクスの病理解剖への応用」 講 師：前田 大地（大阪大学大学院医学系研究科 先端ゲノム医療学共同研究講座 特任教授） 主 催：金沢医科大学大学院医学研究所腫瘍病理学 共 催：北信がんプロ 参加者：52名</p> 
<p>金沢医科大学</p>	<p>第3回先進呼吸器外科学セミナー／北信がんプロFD講演会 日 時：令和元年7月12日（金）18:00～ 場 所：金沢医科大学 病院中央棟中 会議室 各大学・各施設テレビ会議室 演 題：「末梢型肺癌に対する気管支鏡診療」 講 師：藤永 由佳子 （地方独立行政法人岐阜県総合医療センター 呼吸器内科部長 ） 主 催：金沢医科大学呼吸器外科学 共 催：北信がんプロ 参加者：22名</p> 
<p>金沢医科大学</p>	<p>第37回腫瘍病理セミナー／北信がんプロFD講演会 日時：令和元年7月25日（水）18:00～ 場所：金沢医科大学 基礎研究棟3階大学院セミナー室、 各大学・各施設テレビ会議室 演題：「染色体末端領域テロメア・サブテロメアから 生命の基本原理を探る」 講師：藤永 由佳子 （大阪大学蛋白質研究所細胞核ネットワーク研究室 独立准教授） 主 催：金沢医科大学病理学Ⅰ 共 催：北信がんプロ 参加者：42名</p> 

	内 容
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">石川県立看護大学</p>	<p>令和元年度ライフステージ事例検討会 「CNS 関係者によるがん看護事例検討会」 【第1回】 日 時：令和元年7月27日（土）14：00～16：30 場 所：石川県立看護大学 3階 会議室 スポンサー：近藤 まゆみ（北里大学 がん看護専門看護師） 参加者：22名</p> <p>【第2回】 日 時：令和元年10月6日（日）13：30～15：00 場 所：ホテル金沢6階 ミーティングルーム</p> <p>主 催：北信がんプロ 参加者：11名</p>   
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">石川県立看護大学</p>	<p>令和元年度看護実践セミナー 「臨床で行なうリンパ浮腫のケア」 【基礎編】 日 時：令和元年8月24日（日）9：30～16：00 場 所：石川県立看護大学 教育研究棟2階 成人・老年看護学実習室 講 師：時山 麻美 （富山県立中央病院 がん看護専門看護師） 参加者：66名</p> <p>【アドバンス編】 日 時：令和元年10月26日（土）9：30～15：30 場 所：石川県立看護大学 教育研究棟2階 成人・老年看護学実習室 講 師：時山 麻美（富山県立中央病院 がん看護専門看護師） 山野 洋子（福井済生会病院 看護師） 主 催：北信がんプロ 参加者：17名</p>   
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">石川県立看護大学</p>	<p>公開講座 「がんゲノム医療を理解し現場に活かそう」 日 時：令和元年10月6日（日）10：00～12：30 場 所：ホテル金沢 5階アプローチ</p> <p>【第1部】 演 題：「がんゲノム医療の現状と看護上の倫理的課題」 講 師：村上 好恵（東邦大学看護学部がん看護学研究室 教授）</p> <p>【第2部】 演 題：「抗がん剤の PK/PD と相互作用」 講 師：大野 能之（東京大学医部附属病院薬剤部 副薬剤部長） 主 催：北信がんプロ 後 援：石川県病院薬剤師会、北國新聞社 参加者：50名</p>   

内 容

小児血液がん学会

第5回小児血液・がん症例検討会 in 中部

日 時：2019年10月8日（火）17：30～19：10

場 所：金沢大学+ネット中継

演題1：「左下肢麻痺で発症した胸椎硬膜外腫瘍の1例」

講 師：小松 和幸（静岡県立子ども病院血液腫瘍化）

演題2：「鼻閉で発症し多発脳病変を認めた副鼻腔腫瘍の一例」

講 師：森 翔

（三重大学大学院医学系研究科臨床医学系講座 小児科学）

演題3：「神経芽腫中枢神経再発に対し臍帯血移植及び

Omburtamab 髄腔内投与を行った1例」

講 師：今屋 雅之（名古屋大学大学院 医学系研究科 小児科学）

演題4：「末梢血幹細胞移植後の再発 ALL に対する

ブリナツモマブの使用経験」

講 師：有賀 讓（福井大学医学部 病態制御医学講座 小児科学）

演題5：「免疫抑制療法後に非血縁者間骨髄移植を施行し

サイトメガロウイルス網膜炎を発症した最重症再生不良性貧血の一例」

講 師：阿部 咲子（新潟県立がんセンター新潟病院 小児科）

参加者：104名

第5回小児血液・がん症例検討会 in 中部
プログラム

演題	講 師	所属
1. 左下肢麻痺で発症した胸椎硬膜外腫瘍の1例	小松 和幸	静岡県立子ども病院血液腫瘍化
2. 鼻閉で発症し多発脳病変を認めた副鼻腔腫瘍の一例	森 翔	三重大学大学院医学系研究科臨床医学系講座
3. 神経芽腫中枢神経再発に対し臍帯血移植及びOmburtamab 髄腔内投与を行った1例	今屋 雅之	名古屋大学大学院 医学系研究科 小児科学
4. 末梢血幹細胞移植後の再発 ALL に対するブリナツモマブの使用経験	有賀 讓	福井大学医学部 病態制御医学講座
5. 免疫抑制療法後に非血縁者間骨髄移植を施行しサイトメガロウイルス網膜炎を発症した最重症再生不良性貧血の一例	阿部 咲子	新潟県立がんセンター新潟病院 小児科

小児血液がん学会

第6回小児血液・がんセミナー in 中部

日 時：令和2年1月28日（火）17：30～19：30

場 所：金沢大学・名古屋大学 + ネット中継

【指定演題1】

演 題：「脳出血の発症で明らかになった

特発性全身性静脈血栓症の13歳男児例」

講 師：野口 和寛（金沢大学附属病院 小児科）

【教育講演1】

演 題：「小児血液がん診療に役立つ漢方医学」

講 師：小川 恵子（東京大学医部附属病院薬剤部 副薬剤部長）

【指定演題2】

演 題：「AML から T-ALL に lineage switch した急性白血病の1例」

講 師：佐治木 大知

（名古屋第一赤十字病院 小児医療センター 血液腫瘍科）

【指定演題2】

演 題：「造血細胞移植におけるNK細胞の役割」

講 師：平山 雅浩

（三重大学大学院医学系研究科臨床医学系講座 小児科学）

参加者：98名

第6回小児血液・がんセミナー in 中部
プログラム

演題	講 師	所属
1. 脳出血の発症で明らかになった特発性全身性静脈血栓症の13歳男児例	野口 和寛	金沢大学附属病院 小児科
2. 小児血液がん診療に役立つ漢方医学	小川 恵子	東京大学医部附属病院薬剤部 副薬剤部長
3. AML から T-ALL に lineage switch した急性白血病の1例	佐治木 大知	名古屋第一赤十字病院 小児医療センター 血液腫瘍科
4. 造血細胞移植におけるNK細胞の役割	平山 雅浩	三重大学大学院医学系研究科臨床医学系講座



<金沢大学>

No.	内 容
第1回	日 時：平成31年4月17日（水）14：00～15：30 テーマ：「免疫療法の最新情報」 講 師：大坪 公士郎（がんセンター医師） 参加者：43名
第2回	日 時：令和元年5月15日（水）14：00～15：30 テーマ：「がん治療で使うお薬のこと」 講 師：原 祐輔（附属病院薬剤部 薬剤師） 参加者：14名
第3回	日 時：令和元年6月19日（水）14：00～15：30 テーマ：「NST・栄養サポートチームの試み」 講 師：宮下 知治（附属病院栄養管理部 医師） 参加者：34名
第4回	日 時：令和元年7月17日（水）14：00～15：30 テーマ：「自分にご褒美、癒しのスキンケア」 講 師：荒木 かほる（ヘアメイク） 参加者：32名
第5回	日 時：令和元年9月18日（水）14：00～15：30 テーマ：「大腸がん治療で大事なこと」 講 師：中村 慶史（胃腸外科 医師） 参加者：28名
第6回	日 時：令和元年10月16日（水）14：00～15：30 テーマ：「笑ってストレス解消！免疫力UP！」 講 師：土田 敬子（ラフターヨガリーダー） 参加者：35名
第7回	日 時：令和元年11月20日（水）14：00～15：30 テーマ：「がんと就労支援～ハローワークの出張相談を受けてみませんか～」 講 師：藤本 順子（ハローワーク金沢 就職支援ナビゲーター） 北村 俊勝（ハローワーク金沢 統括職業指導官） 参加者：19名
第8回	日 時：令和元年12月18日（水）14：00～15：30 テーマ：「患者力を高めよう」 講 師：がんピアサポーター（がん相談支援センター） 参加者：15名
第9回	日 時：令和2年1月15日（水）14：00～15：30 テーマ：「がん口コモ ～あなたの骨と関節は大丈夫ですか～」 講 師：土屋 弘行（整形外科 医師） 参加者：30名
第10回	日 時：令和2年2月19日（水）14：00～15：30 テーマ：「がんと遺伝子/ゲノムと遺伝 ～遺伝カウンセリングをご存知ですか～」 講 師：黒川 由貴（リハビリテーション部 理学療法士） 参加者：39名
第11回	日 時：令和2年3月18日（水）14：00～15：30 テーマ：「がん治療を支える漢方医学」 講 師：金田 礼三（神経科精神科 医師） 新型コロナウイルス感染予防のため来年度に延期



市民公開講座

	内 容
<p>信州大学</p>	<p>第3回 北信がんプロ 合同市民公開講座 「小児・AYA（アヤ）世代のがんを知る」 日 時：令和元年11月17日（日）14：00～16：00 場 所：ホテルメトロポリタン長野 講演1：「北信地域における小児・AYA 世代のがんの現状」 講 師：大倉 絵梨（信州大学 小児医学教室 大学院生） 講演2：「子宮頸がんの予防について」 講 師：黒川 哲司（福井大学 産科婦人科学教室 准教授） 講演3：「がん化学療法における妊孕性の問題」 講 師：島 友子（富山大学産科婦人科学教室 助教） 講演4：「小児がん患者が AYA 世代に ～長期フォローアップ中に出てくる問題点～」 講 師：伊川 泰広（金沢大学附属病院 小児科 特任助教） 講演5：「AYA 世代の子宮がん経験者の困難 ～治療から1年以上経過後のインタビューから～」 講 師：樋口 麻衣子（富山大学附属病院 看護師） 講演6：「患者や家族への支援活動」 講 師：木村 美代 （石川県がん安心生活サポートハウス つどい場はなうめ 看護師） 主 催：北信がんプロ 後 援：長野県医師会／長野県看護協会／長野県薬剤師会／ 聞社／abn 長野朝日放送 参加者：75名</p>



【採録記事 北國新聞・信濃毎日新聞・富山新聞 2020年2月掲載】



	内 容
<p>金沢大学</p>	<p>第43回日本頭頸部癌学会 市民公開講座 「甲状腺がんを知ろう」 日 時：令和元年6月15日（土）10：00～12：00 場 所：金沢市アートホール</p> <p>講演1：超音波検査でしっかり発見！甲状腺がん 講 師：萱野 大樹（金沢大学核医学診療科 助授）</p> <p>講演2：「甲状腺癌治療の主軸 手術治療」 講 師：石川 和也（金沢大学耳鼻咽喉科・頭頸部外科 助教）</p> <p>講演3：「核医学治療でやっつけよう！甲状腺がん」 講 師：若林 大志（金沢大学 核医学診療科 助教）</p> <p>講演4：「甲状腺癌治療の切札的存在 薬物療法」 講 師：西山 明宏（金沢大学がん進展制御研究所 腫瘍内科 助教）</p> <p>主 催：日本頭頸部癌学会、北信がんプロ 後 援：北國新聞社 参加者：64名</p>  
<p>金沢大学</p>	<p>北信がんプロ市民公開講座 「令和元年最新のがん医療」 日 時：令和元年10月20日（日）13：00～15：30 場 所：金沢大学宝町キャンパス 十全講堂</p> <p>～第1部～ 金大病院の実力 最新の集学的治療はこれだ！ 講演1：「金大病院のダビンチ手術」 講 師：角野 佳史（金沢大学附属病院 泌尿器科副科長/准教授）</p> <p>講演2：「集学的な精密放射線治療」 講 師：高松 繁行（金沢大学附属病院 放射線部副部長/講師）</p> <p>講演3：「日進月歩のがん薬物療法」 講 師：大坪 公士郎 （金沢大学附属病院 外来化学療法センター長/講師）</p> <p>～第2部～ 金沢で受けられるがんゲノム医療 講演4：「ゲノムのABC」 講 師：松本 邦夫 （金沢大学がん進展制御研究所腫瘍動態制御 教授）</p> <p>講演5：「金大病院のがんゲノム医療」 講 師：竹内 伸司（金沢大学附属病院 がんセンター 講師）</p> <p>講演6：「金大病院の遺伝カウンセリング」 講 師：渡邊 淳（金沢大学附属病院 遺伝診療部 特任教授）</p> <p>講演7：「ゲノム医療としての免疫チェックポイント阻害療法」 講 師：山田 智彦（金沢大学医学類5年）</p> <p>主 催：北信がんプロ（超少子高齢化地域での先進的がん医療人養成）、北國新聞社 共 催：石川県がん診療連携協議会、金沢大学がん進展制御研究所、金沢大学附属病院先端医療開発センター 後 援：石川県、金沢市、石川県医師会、金沢市医師会、石川県薬剤師会、石川県病院薬剤師会ほか 参加者：120名</p>  



内容	
信州大学	<p>信州大学がんプロ公開講座</p> <p>「がんについて学びましょう」</p> <p>日 時：第1回令和元年5月21日(火)、第2回令和元年6月4日(火) 第3回令和元年6月18日(火)、第4回令和元年7月2日(火) 18:00~19:15</p> <p>場 所：信州大学旭総合研究棟9階 講義室A・B</p> <p>第1回：「がん診療の現状とがん対策への取組」講 師：小泉 知展 (信州大学医学部附属病院 信州がんセンター 教授)</p> <p>第2回：「個別化・多様化が進む乳がんの治療」講 師：伊藤 研一 (信州大学医学部附属病院 信州がんセンター 教授)</p> <p>第3回：「個別化・多様化が進む乳がんの治療」講 師：青木 薫 (信州大学医学部保健学科 准教授)</p> <p>第4回：「アドバンス・ケア・プランニング(AdvanceCarePlanning) について学びましょう：もしものための話し合い -あなたの大切なことは何ですか-」：唐澤 咲子 (信州大学医学部附属病院 看護部 副看護師長)</p> <p>参加者：計357名(第1回102名、第2回81名、第3回82名、第4回92名)</p>



	内 容	
信州大学	<p>信州大学医学部附属病院 信州がんセンター公開講座</p> <p>日 時：令和元年6月6日（木）18：00～19：00</p> <p>場 所：信州大学医学部附属病院 外来棟4階 大会議室</p> <p>講演1：「備えあれば憂いなし前立腺がん ～身近ながんと向き合うために～」</p> <p>講 師：鈴木 都史郎（信州大学医学部附属病院 泌尿器科 助教）</p> <p>主 催：信州がんセンター 共 催：北信がんプロ</p> <p>参加者：113名</p>	
信州大学	<p>信州大学医学部附属病院 信州がんセンター公開講座</p> <p>日 時：令和元年8月22日（木）18：00～19：00</p> <p>場 所：信州大学医学部附属病院 外来棟4階 大会議室</p> <p>講演1：「肺がんについて知ろう！～診断から治療まで～」</p> <p>講 師：立石 一成（信州大学医学部内科学第一教室 助教）</p> <p>主 催：信州大学医学部附属病院 信州がんセンター</p> <p>共 催：【北信がんプロ】</p> <p>参加者：60名</p>	
信州大学	<p>信州大学がん哲学外来 in 軽井沢</p> <p>日 時：令和元年10月20日（日）10：00～12：00</p> <p>場 所：軽井沢病院 2階 会議室</p> <p>講 師：樋野 興夫（順天堂大学名誉教授）</p> <p>共 催：信州大学医学部附属病院、軽井沢町国民健康保険軽井沢病院、北信がんプロ</p> <p>参加者：22名</p>	
信州大学	<p>緩和ケアセンター公開講座</p> <p>日 時：令和元年10月25日（金）17：30～19：00</p> <p>場 所：信州大学医学部附属病院 外来診療棟4階 大会議室</p> <p>講 師：樋野 興夫（順天堂大学医学部 病理・腫瘍学講座 教授）</p> <p>主 催：信州大学医学部附属病院 緩和ケアセンター</p> <p>共 催：【北信がんプロ】</p> <p>参加者：45名</p>	
信州大学	<p>公開講座「がんゲノム医療 – 信州大学医学部附属病院の取組 –」</p> <p>日 時：令和元年11月7日（木）18：00～19：00</p> <p>場 所：信州大学医学部附属病院 外来棟4階 大会議室</p> <p>講 師：小泉 知展（信州大学医学部附属病院 信州がんセンター長）</p> <p>主 催：信州大学医学部附属病院 信州がんセンター</p> <p>共 催：北信がんプロ、AMED ゲノム創薬基盤推進研究事業 A3班「ゲノム医療従事者の育成プログラム開発」班</p> <p>参加者：100名</p>	

		内 容
信州大学	<p>公開講座</p> <p>「がんゲノム医療 ー信州大学医学部附属病院の取組ー」</p> <p>日 時：令和2年2月13日（木）18：00～19：00</p> <p>場 所：信州大学医学部附属病院 外来棟4階 大会議室</p> <p>講 師：川上 聡（信州大学医学部附属病院 画像医学教室 助教） 小沢 岳澄</p> <p>主 催：信州大学医学部附属病院 信州がんセンター</p> <p>共 催：北信がんプロ</p> <p>参加者：65名</p>	
信州大学	<p>信州大学がん哲学外来 in 軽井沢</p> <p>日 時：令和2年3月7日（日）10：00～12：00</p> <p>講 師：樋野 興夫（順天堂大学名誉教授）</p> <p>場 所：軽井沢病院 2階 会議室</p> <p>共 催：信州大学医学部附属病院 軽井沢町国民健康保険軽井沢病院、 北信がんプロ</p> <p>新型コロナウイルス感染予防のため中止</p>	
富山大学	<p>公開講座「がんゲノム医療市民公開講座」</p> <p>日 時：令和元年9月16日（月・祝）13：00～16：00</p> <p>場 所：富山国際会議場大手町フォーラム3F メインホール</p> <p>講 演：「がんゲノム医療の実際とこれから」</p> <p>講 師：武藤 学（京都大学大学院医学研究科腫瘍薬物治療学 教授）</p> <p>主 催：富山大学附属病院</p> <p>共 催：北信がんプロ 多様なニーズに対応する『がん専門医療人材養成プラン』</p> <p>後 援：富山県・富山市・富山県医師会・富山市医師会・富山県薬剤師会 富山市薬剤師会・富山県看護協会・富山県がん診療連携協議会</p> <p>参加者：270名</p>	
富山大学	<p>市民公開講座「がん治療における放射線診断・放射線治療の役割」</p> <p>日 時：令和元年10月20日（日）14：00～16：00</p> <p>場 所：富山国際会議場大手町フォーラム3F メインホール</p> <p>講 演：「いのちの落語 ー生きてるだけで金メダラーー」</p> <p>講 師：樋口 強（いのちの落語家・作家）</p> <p>講 演：「緩和ケアについて」</p> <p>講 師：梶浦 新也（富山大学附属病院 臨床腫瘍部 副部長）</p> <p>主 催：富山大学附属病院 共 催：北信がんプロ</p> <p>後 援：富山県・富山市・富山県医師会・富山市医師会・富山県薬剤師会 富山市薬剤師会・富山県看護協会・富山県がん診療連携協議</p> <p>参加者：230名</p>	

	内 容	
<p>福井大学</p>	<p>県民公開公開シンポジウム がん診療最前線者「がん治療の新時代」 日 時：令和元年12月15日（日）13：30～15：50 場 所：福井県県民ホール（アオッサ8階） 講演1：「最新の大腸癌治療」 講 師：五井 孝憲（福井大学医学部附属病院 消化器・乳腺内分泌科 教授） 講演2：「保険診療に向けたがんゲノム医療の展開」 講 師：根来 英樹 （福井大学医学部附属病院 がん診療推進センター 副センター長） 講演3：「ガンになっても子供はできますか？」 講 師：折坂 誠（福井大学医学部附属病院 産科婦人科 講師） 講演4：「胃癌腹膜転移の新治療」 講 師：廣野 靖夫（福井大学医学部附属病院 がん診療推進センター長） 講演5：「がんと栄養」 講 師：片山 寛次（福井大学医学部がん専門医育成推進講座 特命教授） 主 催：北信がんプロ 共 催：福井新聞社 後 援：福井県医師会、福井県薬剤師会、福井県看護協会、福井県病院薬剤師会、 福井県がん診療連携協議会 参加者：260名</p>	 
<p>金沢医科大学</p>	<p>市民公開公開講座 免疫チェックポイント阻害薬： ノーベル賞を受けた治療への正しい理解のために 日 時：令和元年10月5日（土）15：00～17：00 場 所：ホテル金沢4階 エメラルドルーム 演 題：「消化器がんに対する免疫療法の最前線」 講 師：馬場 英司（九州大学大学院医学研究院 病理・腫瘍学講座 教授） 演 題：「免疫チェックポイント阻害薬で大きく変わった肺がん治療」 講 師：滝口 裕一（千葉大学 大学院医学研究院臨床腫瘍学 教授） 主 催：金沢医科大学大学院医学研究科腫瘍内科学、北信がんプロ 共 催：九州がんプロ、石川県がん診療連携協議会 参加者：34名</p>	
<p>石川県立看護大学</p>	<p>市民公開講座「がんゲノム医療」 日 時：令和元年3月22日（土）13：00～15：00 場 所：ホテル金沢（ダイヤモンドC） 講演1：「病気になっても自分らしく生きている私の人生」 講 師：御供田 幸子 講演2：「アドバンス・ケア・プランニングと厚生省ガイドライン」 講 師：樋口 範雄（武蔵野大学法学部 特任教授） 主 催：北信がんプロ 共 催：北陸 CNS の会 後 援：かほく市、北國新聞社 新型コロナウイルス感染予防のため来年度に延期</p>	

広報活動

◆ホームページ公開

北信がんプロの紹介、患者・一般向け情報、教育コースの受講者募集・受講者向け情報、セミナーや市民公開講座の案内や活動報告を日々更新

URL <http://www.gan-pro.net/>



【ホームページアクセス状況】

- ・新規ユーザー数 10,727
 - ・ページビュー 47,883
 - ・ページ/セッション 2.94
(ページ閲覧数/訪問者数)
- ※2018.10.1～2019.9.30 のデータ



【ホームページ等更新状況】

(facebook)

SNS (facebook/Twitter) : 金沢大学 36回

(Twitter)



※連携各大学が北信がんプロのホームページを開設し、随時情報を発信していますので、ぜひご覧ください。



◆ニュースレター発行

北信がんプロの取り組みをまとめたニュースレターを発刊し、がん診療連携拠点病院等に配布。連携各大学・がん診療連携拠点病院などの活動状況の報告、イベントの告知などを掲載。

<vol.5>



<vol.6>



◆新聞掲載記事

令和元年 12 月掲載

【北國新聞】

『令和元年 10 月 20 日（日）』

北信がんプロ 市民公開講座』

（金沢大学）





令和元年 2 月掲載

【北国新聞・信濃毎日新聞・富山新聞】

『令和元年 11 月 17 日（日）

第 3 回北信がんプロ 合同市民公開講座』
（信州大学）

令和元年 1 月掲載

【福井新聞】

『令和元年 12 月 15 日（日）

北信がんプロ 県民公開シンポジウム』
（福井大学）



◆新聞広告

令和元年 12 月掲載 【北国新聞】

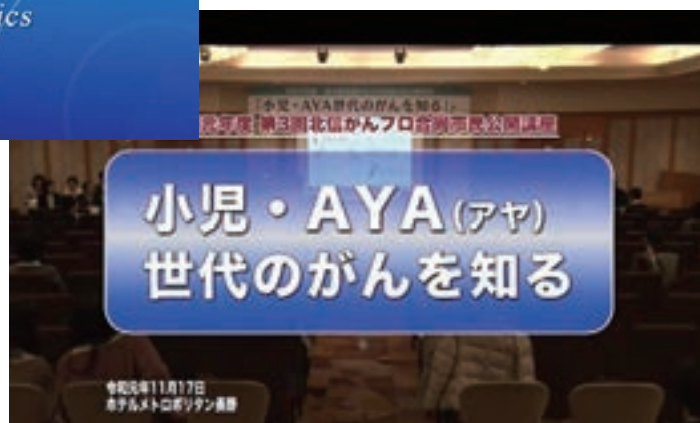


◆テレビ放送

『がんプロアワー』：金沢ケーブルテレビネットにて毎週日曜日 14：00～15：00 に放送中。
がん診療の最前線の情報やがん診療連携拠点病院の特色、患者の声などを紹介。

・令和元年 10 月 20 日（日）に開催された「北信がんプロ 市民公開講座「令和元年最新のがん医療について」（金沢大学）」のダイジェスト版（60 分番組）を金沢ケーブルテレビネット、テレビ松本、ケーブルテレビ富山、福井ケーブルテレビにて令和元年 12 月に放送。

・令和元年 11 月 17 日（日）に開催された「第 3 回北信がんプロ 合同市民公開講座「小児・AYA 世代のがんを知る」（信州大学）」のダイジェスト版（60 分番組）を金沢ケーブルテレビネット、テレビ松本、ケーブルテレビ富山、福井ケーブルテレビにて令和 2 年 1 月に放送。



第Ⅲ部 外部評価委員会

「超少子高齢化地域での先進的がん医療人養成（北信がんプロ）」

外部評価委員会議事次第

日 時：平成31年3月8日(金曜日) 14時30分～16時00分
場 所：金沢大学医学類B棟1階応接室

(進行) 統括コーディネーター 金沢大学附属病院がんセンター教授 矢野 聖二

I. 開会挨拶

金沢大学基幹教育改革・附属病院担当理事 大竹 茂樹

II. 議 事

1. 配付資料確認
2. 外部評価の手順、確認 (資料1)
3. 活動状況報告（北信がんプロ全体） (資料2)
(発表30分、質疑応答15分 計45分)
4. 活動状況報告（連携各大学） (資料3)
(発表5分程度、質疑応答5分 計60分程度)
 - ① 信州大学 包括的がん治療学教授 小泉 知展
 - ② 富山大学 附属病院臨床腫瘍部教授 林 龍二
 - ③ 福井大学 がん診療推進センター教授 片山 寛次
 - ④ 金沢医科大学 腫瘍内科学教授 元雄 良治
 - ⑤ 石川県立看護大学 成人看護学領域教授 牧野 智子
 - ⑥ 金沢大学 附属病院がんセンター教授 矢野 聖二
5. 評価委員・コーディネーター意見交換
6. 各外部評価委員からの講評
7. 松浦成昭外部評価委員長 講評（総括）

III. 閉会挨拶

金沢大学医薬保健学総合研究科長 堀 修

IV. 閉 会 (16:00 終了予定)

次紙へ

配付資料

- 資料 1 外部評価委員会の手順、確認
- 資料 2 「超少子高齢化地域での先進的がん医療人養成（北信がんプロ）」
活動状況報告資料（北信がんプロ全体 パワーポイント資料）
- 資料 3 「超少子高齢化地域での先進的がん医療人養成（北信がんプロ）」
活動状況報告資料（連携各大学（信州大・富山大・福井大・金沢医科大・
石川看護大・金沢大） パワーポイント資料）
- 資料 4 外部委員評価記入用紙（委員用）（総括）

（参考資料）

- 資料 5 「超少子高齢化地域での先進的がん医療人養成（北信がんプロ）」
文部科学省 平成 29 年度多様な新ニーズに対応する「がん専門人材（が
んプロフェッショナル）養成プラン」公募申請書
- 資料 6 「超少子高齢化地域での先進的がん医療人養成（北信がんプロ）」
採択時の推進委員会からのコメント

取組大学：金沢大学（連携大学：信州大学、富山大学、福井大学、金沢医科大学、石川県立看護大学）取組名称：超少子高齢化地域での先進的がん医療人養成

○取組概要：超少子高齢化地域での先進的がん医療人養成では①各大学の強みを生かした相互補完的教育コース（本科10コース、インテンシブ11コース）②テレビ会議を使用した多施設・多職種連携の定期演習（北信オンコロジーセミナー、がんライフステージ事例検討会）③特徴ある症例の地域がんデータベース構築に取り組んでいます。

◆各大学の強みを生かした相互補完的教育コース：多職種のがん医療人を育成するシステムを構築

◆各大学の強みを生かした相互補完的教育コース：多職種のがん医療人を育成するシステムを構築
 地域での症例や先進的がん医療の実態を把握し、戦略的がん医療人を育成するシステムを構築

コース名	職種	受入目標人数	受入実績
金沢大 先端的分別化医療 個別化薬物療法	医師 薬剤師	10 3	14 3
金沢大 高度化医学物理士	医学物理士	4	7
信州大 ガノムがん治療医	医師	4	4
信州大 遺伝カウンセラー	遺伝カウンセラー	2	4
富山大 高齢がん患者対策 個別化医療薬剤師	医師 薬剤師	8 2	16 3
富山大 地域がん専門医	医師	4	9
金沢医大 がん専門レジダー	医師	4	4
石川看護大 がんライフステージ	看護師	4	4
合計		45	68

平成30年4月受入開始～令和元年10月

コース名	職種	受入目標人数	受入実績
金沢大 ガノムがん生涯教育 個別化薬物実践	医師 薬剤師	14 4	25 7
金沢大 ガノムがん多職種連携入門	多職種	20	45
信州大 ガノム専門医療人養成	多職種	5	6
富山大 高齢がん患者対策 高認知薬剤師	医師 薬剤師	6 5	9 9
富山大 在宅栄養管理 在宅緩和ケア	看護師	3	9
福井大 在宅栄養管理 在宅緩和医療	多職種	34	46
金沢医大 がん集学的治療	多職種	48	51
石川看護大 がんライフステージ	医師	5	5
石川看護大 がんライフステージ	多職種	12	18
合計		156	227

平成29年10月受入開始～令和元年10月

◆実施体制：学長連絡協議会による進捗管理、運営協議会で意思決定、外部評価委員会による定期評価



▶ 主な取組と進捗状況：テレビ会議システムによる各種セミナー

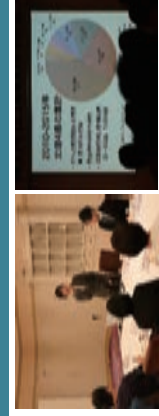
特徴ある症例の地域がんデータベース構築
 がんデータベース解析結果を情報発信 定期演習

遠隔教育システム活用
 e-learning教材 19科目作成



- 北信オンコロジーセミナー
 - ライブ開催 671名参加
 - ライフステージ事例検討会 計21回開催 1,767名参加
- 海外研修者によるFD講習会 (ゲノム医療、緩和ケア等)
 - 海外研修3回実施 41名派遣
- 九州がんプロとの合同シンポジウム (プログラムの情報発信・普及)

▶ 市民への啓蒙・成果の還元



市民公開講座3回開催
 第2回(福井市)
 採録記事を4県の地元新聞で掲載

小児がん医療費負担軽減、妊孕性保存体制構築の必要性を 石川県議会に政策提言

特徴：石川県では小児・AYA世代がんの割合が大



北信4県のがん診療・連携拠点病院から平成22年～平成27年の院内がん登録データ(21施設:15.7万症例)と障がい者がん情報(10施設:医療費受給者証を有する2479症例)を収集し、データベースを構築

特徴：石川県では小児・AYA世代がんの割合が大

小児がん医療費負担軽減、妊孕性保存体制構築の必要性を 石川県議会に政策提言

多様な新ニーズに対応する「がん専門医療人材 (がんプロフェッショナル)」養成プラン 進捗状況報告書(中間評価用)

申請担当大学名 (連携大学名)	国立大学法人金沢大学 信州大学、富山大学、福井大学、金沢医科大学、石川県立看護大学
事業名称	超少子高齢化地域での先進的がん医療人養成

<連絡先>

事業責任者 連絡先	職名・氏名	金沢大学がん進展制御研究所腫瘍内科教授 矢野 聖二
	TEL	(076)265-2780
	E-Mail	syano@staff.kanazawa-u.ac.jp
事務担当者 連絡先	職名・氏名	金沢大学医薬保健系事務部学生課長 酒本 喜浩
	TEL	(076)265-2126
	E-Mail	iyakuhogakusei-kacho@adm.kanazawa-u.ac.jp

(記入要領・共通)

- ・着色した記入欄に記入してください。
- ・本報告書については、平成29年度、平成30年度、令和元年度における取組実績を記入してください。
(令和元年度の実績については、令和元年10月末までの取組を対象とします。)
- ・記述欄については、重要な箇所やポイントとなる部分に下線を用いるなど、読みやすさを考慮して記入してください。なお、ページ設定やフォント、フォントサイズの変更はしないよう留意してください。
- ・定性的な成果・効果を記述する際は、数値データ等による根拠と併せて記入してください。
- ・記入欄は、決められたページ数を超えて記入することはできません。(公平を期するため、印刷した際に超えた分等に記載されている内容は評価の対象外とします。)
- ・行が不足する場合は、適宜追加してください。また、列の追加や削除等を行わないでください。
- ・事業開始前から各大学が行っている取組の成果や効果は、本事業による成果や効果と見なしませんので記入しないでください。
- ・進捗状況報告書に虚偽の記載が判明した場合、翌年度以降の事業を停止とすることもありますので、記入にあたっては十分留意願います。

1. 総括表（(1)及び(2)で1ページ以内）

(1)取組概要

（申請書の「1. (1)①事業の概要等〈事業の概要〉」を転記してください。）

〈事業の概要〉

本事業は、県の枠を超えた北信地域での戦略的がん医療人育成システム構築を目指す。6大学の強みを生かした最先端がんゲノム医療、小児・AYA世代・希少がんの集学的治療、ライフステージに応じたケアを大学の枠を超えて学習できる、共通科目や単位互換を導入した相互補完的教育コース(本科10、インテンプ9)を新設する。2期がんプロで構築したTV会議システムを発展させた北信オンコロジーセミナー等を定期開催し、遠隔教育により多施設・多職種連携を推進する。さらに免疫チェックポイント阻害薬使用例など特色ある症例の北信地域がんデータベースを構築し、学会・論文発表に使用して専攻生や教員の意欲を高めると共に、地域がん対策に活用し成果を社会に還元する。これらの活動により、患者中心のチーム医療を行う超少子高齢化地域で活躍できる先進的がん医療人を輩出し、将来の日本の超少子高齢化社会におけるがん医療人材育成モデルを確立する。

(2)達成目標に対する進捗状況

【達成目標】

本事業は、①県の枠を超えた北信地域6大学の強みを生かした最先端がんゲノム医療、小児・AYA世代・希少がんの集学的治療、ライフステージに応じたケアを大学の枠を超えて学修できる、共通科目や単位互換を導入した相互補完的教育コース(本科10、インテンプ9)を設置、継続する。②2期がんプロで構築したTV会議システムを発展させた北信オンコロジーセミナー等を定期開催し、遠隔教育により多施設・多職種連携を推進する。③さらに免疫チェックポイント阻害薬使用例など特色ある症例の北信地域がんデータベースを構築し、学会・論文発表に使用して専攻生や教員の意欲を高めると共に、地域がん対策に活用し成果を社会に還元する。

これらの活動により、患者中心のチーム医療を行う超少子高齢化地域で活躍できる先進的がん医療人を輩出し、将来の日本の超少子高齢化社会におけるがん医療人材育成モデルの確立を目標とする。

【達成目標に対する進捗状況】

①外部評価委員会からの指摘に対応し、当初予定よりインテンプコースを2コース(多職種向けのがんゲノム医療を中心とした教育コース)増設して、本科生10コース、インテンプ11コースを開講した。全年度、全コースで目標を上回る受入人数(本科生コース68名/45名(達成率151.1%)、インテンプコース227名/156名(同145.5%))を達成した。

②新規19科目に対するe-learning教材作製を完成し、全国e-learningに提供して北信地域の815名が受講した。連携6大学および北信4県のがん診療連携病院等とのTV会議システムネットワークを拡張(増設6か所、更新10か所、計32施設が接続可能)し、双方向性演習として北信オンコロジーセミナーやがんライフステージ事例検討会等を計画通り実施し、合計2,929名が受講した。

③海外FD研修を合計3回実施し41名が参加した。米国、豪州、台湾の合計9施設を訪問し、最新のがんゲノム医療等の研修を受け、TV会議システムを用いたFD研修報告会で研修成果を北信地域の医療従事者に還元した。付随的な効果として、北信がんプロの3大学病院ががんゲノム医療拠点病院に指定されるという成果をあげ、地域住民にがんゲノム医療を提供できる体制を構築した。国際シンポジウムを6回開催し、学生や医療従事者の国際化を促進した。

④北信4県のがん診療連携拠点病院など(21施設)の平成22年から平成27年までの院内がん登録データを基にした157,196症例(男:89,023例、女68,173例)の臨床情報を収集し、データベースを構築した。これまでほとんど実態が明らかになっていない障がい者患者については、10施設から85,979症例(男48,040例、女37,939例)分の臨床情報を収集し、うち2479症例が障がい者医療費受給者証を有することを明らかにした。これらのデータを基に解析を進めた結果、石川県では小児・AYA世代がん症例の割合が全国と比較高いこと等が明らかになった。その成果を3演題として学会発表した。さらに、令和元年の合同市民公開講座でも公表し地域住民に成果を還元した。また、小児医療費制度や妊孕性保存の課題について石川県議会に提言を行った。

⑤北信がんプロ活動の広報の一環として、九州がんプロとのジョイントシンポジウムを平成31年2月6日に開催し、特別講演(九州大)や症例報告(富山大、金沢大、九州大)に対する双方向の活発な質疑を行った。また、平成29年度から東海北陸地区小児血液がん学会と連携した小児血液がんセミナーを計5回開催(355名参加)し、希少な小児がん症例の治療などに関する情報共有を行うと共に、北信がんプロの活動を小児がん学会へ広げた。

⑥合同市民公開講座を合計3回(金沢市、福井市、長野市)開催し、合計400名以上の参加者に対し最新のがん医療をわかりやすく解説した。北信4県の地元新聞への採録記事(約100万部)や同エリアケーブルテレビでのダイジェスト版放送(約40万世帯が視聴可能)で、参加できなかった市民にも講座の概要や本事業の広報を行った。

(3)年度別の計画(工程表)に対する実施状況(実績欄は、インプット・プロセス・アウトプット、アウトカムのそれぞれについて最大1ページ以内)
(計画部分は工程表から転記し、対応する実施状況を実績欄に記入してください。)

年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	
区分	定量的なもの	定量的なもの	定量的なもの	
インプット・プロセス	<p>計画(工程表)</p> <ul style="list-style-type: none"> 運営組織設置(学長連絡協議会、内部評価委員会、総務委員会、教務委員会、がんデンター・タバース委員会、広報委員会等を設置、開催) 運営協議会・内部評価委員会開催(1回) FD研修の実施(2大学) 第一期大学院生専攻・社会人コース受講者選考・一部受入れ開始 【定員】インテックコース(受入れ)／医師6名、看護師1名、薬剤師1名(計8名) 	<p>定性的なもの</p> <ul style="list-style-type: none"> 事業計画、アグジョイント協議 特任教員の採用 金沢大学及び各連携大学にがんアロ事務局を設置 信州大学にテレビ会議システム導入、ネットワーク環境整備 平成30年度教育コース学生募集 	<p>定性的なもの</p> <ul style="list-style-type: none"> 事業計画、アグジョイント協議 平成31年度教育コース学生募集 	<p>定性的なもの</p> <ul style="list-style-type: none"> 事業計画、アグジョイント協議 令和2年度教育コース学生募集
	実績	<p>定量的なもの</p> <ul style="list-style-type: none"> 学長連絡協議会、学長連絡協議会、外部評価委員会を各々開催 総務委員会、教務委員会、がんデンター・タバース委員会、各々開催 海外FD研修の実施(11月、14名参加) 第二期大学院生・社会人コース受講者受入れ 本科学士コース／医師21名、遺伝カウンセラー1名、看護師2名、薬剤師2名、医学物理士3名(計29名) インテックコース／医師16名、看護師28名、薬剤師6名、管理栄養士7名、その他10名(計123名) <p>定性的なもの</p> <ul style="list-style-type: none"> がん治療の専門知識を持った薬剤師向け講義を開催、緩和ケア連携調整員研修へ参加 	<p>定量的なもの</p> <ul style="list-style-type: none"> 学長連絡協議会、運営協議会開催通知(11月実施) 総務委員会開催(5月) 海外FD研修の参加者募集(2大学主催、2月実施) 外部評価委員会開催通知(3月実施) 第三期大学院生・社会人コース受講者受入れ 本科学士コース／医師24名、遺伝カウンセラー3名、看護師3名、薬剤師4名、医学物理士4名(計38名) インテックコース／医師31名、看護師32名、薬剤師13名、臨床検査技師2名、管理栄養士11名、その他5名(計94名) <p>定性的なもの</p> <ul style="list-style-type: none"> がん治療の専門知識を持った薬剤師向け講義を開催 	<p>定量的なもの</p> <ul style="list-style-type: none"> 学長連絡協議会、運営協議会の開催を通知し、事業計画、アグジョイント協議する場を設け、各委員会において計画検討実施 令和元年度全教育コースの学生募集のホスター、チラシを作成し、連携大学、がん拠点病院に配布 インテックコース／医師を薬剤師会などに周知、配布 高齢化した地域医療を個別化医療で支えることのできる専門的薬剤師養成コース(大学院生本科・インテック)演習を開始 個別化医療分野での薬剤師選択へのゲノム解析実習を実施

年度 区分	平成29年度		平成30年度		令和元年度	
	定量的なもの	定性的なもの	定量的なもの	定性的なもの	定量的なもの	定性的なもの
計画（工程表）	<ul style="list-style-type: none"> ・合同市民公開講座(1回) ・合同シンポジウム(1回) ・国際シンポジウム(1回) ・合同FD講習会開催(1回) ・オンロジセミナー(2回)、ライブステージ事例検討会(8回) ・第1期インテジブコース修了者(修了者見込み、医師6名、看護師1名、薬剤師1名(計8名)) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページの公開 ・第1期志願者書類審査及び面接試験の実施 ・e-learning講義内容の決定、作成 ・各教育コース関連規定等整備 ・連携大学及び関連地域医療機関との連携、情報ネットワーク整備 ・内部評価委員による評価 ・外部、地域への情報発信 	<ul style="list-style-type: none"> ・合同市民公開講座(1回) ・合同シンポジウム(1回) ・国際シンポジウム(1回) ・合同FD講習会開催(1回) ・オンロジセミナー(4回)、ライブステージ事例検討会(12回) ・第2期インテジブコース修了者(修了者見込み、医師17名、看護師4名、薬剤師4名、その他30名(計55名)) 	<ul style="list-style-type: none"> ・第2期志願者書類審査および面接試験の実施 ・外部評価委員による評価 ・外部、地域への情報発信 ・e-learning講義作成、完成 ・地域包括医療への貢献を各病院で実施する。それらは大学院生が実習を受ける 	<ul style="list-style-type: none"> ・合同市民公開講座(1回) ・合同シンポジウム(1回) ・国際シンポジウム(1回) ・合同FD講習会開催(1回) ・オンロジセミナー(4回)、ライブステージ事例検討会(12回) ・第1期本科コース修了者(遺伝かかりセナー1名、医学物理士2名、看護師2名) ・第3期インテジブコース修了者(修了者見込み、医師17名、看護師5名、薬剤師6名、その他40名(計68名)) ・資格取得者(認定遺伝かかりセナー1名、医学物理士、がん看護専門看護師2人) 	<ul style="list-style-type: none"> ・第3期志願者書類審査および面接試験の実施 ・内部評価委員による評価 ・外部、地域への情報発信 ・e-learning講義作成、完成 ・地域包括医療への貢献を各病院で実施する。それらは大学院生が実習を受ける
アウトプット	<ul style="list-style-type: none"> ・合同市民公開講座開催(1回、10月、157名参加) ・国際シンポジウム開催(1回、10月、221名参加) ・合同FD講習会の開催(1回、10月、171名参加) ・オンロジセミナー開催(2回、延べ182名) ・ライブステージ事例検討会開催(7回、延べ499名参加) ・第1期インテジブコース修了者看護師3名修了。 ・市民公開講座開催(計12回、延べ1,376名参加) ・看護・福祉関係者向けセミナー開催(延べ323名参加) ・小児血液がんセミナーin中部開催(2月、85名参加) ・FD講習会・FD講演会(各1回、延べ106名参加)、看護実践セミナー開催(77名参加) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページの新ホームページ公開(9月) ・第1期志願者書類審査及び面接試験の実施(3月) ・全教育コースを網羅した募集要項作成、大学に配布 ・インテジブコース募集要項を作成し、関係者に配布 ・地域医療機関と大学間の連携強化新TV会議システムを6拠点に追加設置 ・外部評価委員による評価 ・ニュースレターを発行し病院等に配布、地方新聞などの北信がんに掲載 ・地域包括医療への貢献を連携各病院にて実施。 ・看護教員等に対しがん教育講義を実施。在宅緩和ケア推進会議を開催(2回) ・患者の意向を尊重した意思決定の研修会を実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・合同市民公開講座開催(1回、12月、250名参加) ・国際シンポジウム開催(2回、307名参加)、合同FD講習会の開催(5月、73名参加) ・オンロジセミナー(4回、延べ307名参加)、ライブステージ事例検討会(8回)、延べ733名参加) ・金沢大エキスパートセミナー(2回)延べ70名参加) ・第2期インテジブコース修了者看護師10名 ・信州大学がん哲学外来in軽井沢(3回、参加者55名) ・市民公開講座の開催(計7回、延べ1,105名参加) ・小児血液がんセミナーin中部(3月、78名)FD講習会講演会開催(6回、528名参加) ・OCNS対象看護事例検討会実施(2回、27名参加) ・看護実践セミナー開催(2回、延べ65名参加) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページ更新 ・第2期志願者書類審査及び面接試験の実施(3月) ・全教育コースを網羅した募集要項作成し配布 ・インテジブコース募集要項をがん拠点病院に配布 ・地域医療機関連携、新TV会議用PCを4拠点更新 ・外部評価委員による評価 ・ニュースレターを発行し関係各所に配布、地方新聞などの北信がんに掲載 ・市民公開講座開催(計13回、延べ1,394名参加) ・小児血液がん症例検討会中部開催(10月、104名参加) ・各大学でFD講習会・講演会開催(5回、212名参加) ・OCNS対象看護事例検討会実施(2回、33名参加) ・看護実践セミナー(2回、延べ83名参加)医療者向けセミナー(6月、46名参加) ・信州大学がん哲学外来開催(10月、参加者22名) 	<ul style="list-style-type: none"> ・北信がんにアロ及び連携大学のホームページを更新 ・第3期志願者書類審査及び面接試験の実施(3月) ・全教育コースを網羅した募集要項を作成し配布 ・インテジブコース募集要項をがん拠点病院に配布 ・地域医療機関連携、新TV会議用PCを4拠点更新 ・ニュースレターを発行し関係各所に配布 ・各地方新聞などでの北信がんに掲載 ・長野のケールTVで公開講座の模様を放送 ・地域包括医療について学部生及び大学院生が受講 ・長野県地域がん診療連携拠点病院と連携し、医療者研修会を実施、小中高校の看護教員、小中学校の児童等に対しがん教育の講演を行った 	

年度	平成29年度		平成30年度		令和元年度		
	定量的なもの	定性的なもの	定量的なもの	定性的なもの	定量的なもの	定性的なもの	
区分	<p>・学部学生、研修医をばじめとする大学院入学対象者への北信がんプロの告知 ・北信テーハ-タ-ース情報収集 ・地域医療で活躍する薬剤師の輩出(1名)</p>	<p>・教育コースの構築 ・連携大学及び関連地域医療機関等の連携強化 ・本プランの周知 ・内部評価を基にした検討、改善 ・北信がんテーハ-タ-ース情報内容の精査及び方向性決定 ・情報発信として学会発表や論文発表を行い、得られた成果を共有する ・北信地域における在宅医療、在宅緩和医療への理解度が高くなる。両立支援、意志決定支援が充足する</p>	<p>・北信地域におけるがんの実態把握 ・地域医療で活躍する薬剤師の輩出(2名) ・北信地域における在宅移行率、死亡率の1%上昇</p>	<p>・外部評価委員会によるPDCAサイクル形成、改善、次年度事業の実施体制検討、本プラン周知と入学希望者確保 ・チーム医療リーダ-養成 ・地域医療に貢献できる専門医師の推進、先進的臨床研究の推進、先進的医療を担う国際的人材育成とキャリア形成、がん予防、検診受診、早期発見治療等、社会啓蒙効果 ・多職種連携が可能ながん診療リーダ-の輩出によるゲム医療への貢献 ・がんテーハ-タ-ース内容充実及び履修生・教員らが学会発表等を行い、成果を共有し、在宅医療、在宅緩和医療の理解度を向上させた</p>	<p>・北信地域のがん診療連携拠点病院(21拠点)の院内がん登録データの検証を行った ・長野県における院内および全国がん登録から見た肺がんの特徴を解析し、合同市民公開講座にて発表を行った ・本学薬学科より県内急性期病院へ薬剤師を輩出した ・県内の病院や薬局での地域連携業務に従事するインテ-ンシブコース受講者受入 ・市民公開講座でライブステージに応じたがん患者への北信がんプロの告知(ホ-スター掲載) ・大学院入学対象者への北信がんプロの告知(ホ-スター等配布) ・各大学で事業に関する告知、広報活動を行い、教育コース受講者を募集した</p>	<p>・内部評価委員会によるPDCAサイクル形成、改善、次年度事業の実施体制検討、本プラン周知と入学希望者確保 ・チーム医療リーダ-養成 ・地域医療に貢献できる専門医師の推進、先進的臨床研究の推進、先進的医療を担う国際的人材育成とキャリア形成、がん予防、検診受診、早期発見治療など社会啓蒙効果 ・多職種連携が可能ながん診療リーダ-の輩出によるゲム医療への貢献 ・がんテーハ-タ-ース内容充実及び履修生・教員らが学会発表等を行い、成果を共有し、在宅医療、在宅緩和医療の理解度を向上させた</p>	<p>・北信地域のがん診療連携拠点病院(21拠点)の院内がん登録データ分析結果を利用し、学会等での発表によるキャリア形成を図った ・合同市民公開講座において、小児・AYA世代のがんについての現状や治療、ケアについての講演会を開催 ・県内の病院や薬局での地域連携業務に従事するインテ-ンシブコース受講者受入 ・大学院入学対象者へホ-スター掲示、ハ-ムフレット、チラシ等配布、ホ-ムページにて告知した ・各大学にて北信がんプロ事業に関する告知、広報活動を行うとともに、教育コースの受講者を募集した</p>
	<p>・学部学生、研修医をばじめとする大学院入学対象者への北信がんプロの告知(ホ-スター掲示、ハ-ムフレット、チラシ等配布) ・北陸、長野のがん診療拠点病院にアンケート調査を実施、情報収集への協力依頼(20拠点参加予定) ・在宅医療で活躍する薬剤師のスキルアップ及び薬業連携を行い、地域医療で活躍する薬剤師を輩出(2名) ・各大学にて北信がんプロ事業に関する告知、広報活動を行うとともに、教育コースの受講者を募集した</p>	<p>・大学院院内規則や科目等履修生規則を見直し、教育コースの構築し、教育指導体制を確立、運営協議会や各種セミナーを通し、大学及び関連医療機関等との連携強化、外部評価結果を基に取組を改善した ・北信がんテーハ-タ-ース情報内容の方向性の決定、情報発信として学会発表や論文発表を行い得られた成果共有 ・市民公開講座や新聞報道を通し、北信地域における在宅医療、在宅緩和医療の両立支援、意思決定支援を行った ・TV会議システム基盤整備で多様なセミナーが受講可能となり学習、研修機会増加 ・教育学部でがん教育講習を必修化した(福井大学)</p>	<p>・北信地域のがん診療連携拠点病院(21拠点)の院内がん登録データの検証を行った ・長野県における院内および全国がん登録から見た肺がんの特徴を解析し、合同市民公開講座にて発表を行った ・本学薬学科より県内急性期病院へ薬剤師を輩出した ・県内の病院や薬局での地域連携業務に従事するインテ-ンシブコース受講者受入 ・市民公開講座でライブステージに応じたがん患者への北信がんプロの告知(ホ-スター掲載) ・大学院入学対象者への北信がんプロの告知(ホ-スター等配布) ・各大学で事業に関する告知、広報活動を行い、教育コース受講者を募集した</p>	<p>・外部評価委員会の設置等による事業計画を改善した ・学長連絡協議会、運営協議会による事業計画を承認 ・総務委員会にて事業の実施体制を調整・確立した ・運営協議会にて地域医療機関等と連携強化を行った ・教育コース・セミナーによりチーム医療のリーダ-養成 ・会にてがん医療シンポジウムを開催した ・海外FD研修への派遣と成果発表による国際的人材育成 ・多職種多施設連携によりがん医療スキルアップ養成 ・テーハ-タ-ース解析結果を大学教員らが学会発表を行った ・市民公開講座を通じた在宅医療、がん治療と就労の両立支援の情報を発信した</p>	<p>・北信地域のがん診療連携拠点病院(21拠点)の院内がん登録データ分析結果を利用し、学会等での発表によるキャリア形成を図った ・合同市民公開講座において、小児・AYA世代のがんについての現状や治療、ケアについての講演会を開催 ・県内の病院や薬局での地域連携業務に従事するインテ-ンシブコース受講者受入 ・大学院入学対象者へホ-スター掲示、ハ-ムフレット、チラシ等配布、ホ-ムページにて告知した ・各大学にて北信がんプロ事業に関する告知、広報活動を行うとともに、教育コースの受講者を募集した</p>	<p>・内部評価委員会によるPDCAサイクル形成、改善、次年度事業の実施体制検討、本プラン周知と入学希望者確保 ・チーム医療リーダ-養成 ・地域医療に貢献できる専門医師の推進、先進的臨床研究の推進、先進的医療を担う国際的人材育成とキャリア形成、がん予防、検診受診、早期発見治療など社会啓蒙効果 ・多職種連携が可能ながん診療リーダ-の輩出によるゲム医療への貢献 ・がんテーハ-タ-ース内容充実及び履修生・教員らが学会発表等を行い、成果を共有し、在宅医療、在宅緩和医療の理解度を向上させた</p>	
	<p>計画(工程表)</p>						
	<p>実績</p>						
	アウトカム						

(4)これまでの取組全般における成果・効果

- 本事業の実施によって解消することを目指している課題に対する成果・効果及び本事業の実施による付随的な効果等
 ○新しい人材養成システム等が導入されたことによる、従来とは異なる新規性・独創性のある成果・効果
 ○連携大学、自治体、地域医療機関、民間企業等との連携体制の構築による成果や効果
 などについて、可能な限り数値的な根拠を示しつつ、具体的に記入してください。

(図表等の挿入可。全体で1ページ以内)

【取組全般における成果・効果】

少子高齢化が進んでいる北信地域では医療スタッフが少なく、小児・AYA世代・希少がん症例数が少ない、地域として医療実態の把握がなされていない等、がん医療人養成に対する地域的医療課題があり、以下の取組を行った。

- ①教育コースの当初予定は本科10コース、インテグコース9コース計19コースであったが、外部評価委員会から「がんゲム医療に対応できる医療従事者養成を促進するコースの増設」を勧められたため、金沢大と信州大が多職種向けのインテグコースを新設し、合計21コースを開講した。
- ②北信がんプロ独自の取組として、学長連絡協議会を毎年1回開催し教育コースの履修生受入の進捗管理を行った結果、令和元年10月末現在で本科生コース68名(実績)/45名(目標)(達成率151.1%)、インテグコース227名(実績)/156名(目標)(同145.5%)と目標を上回る成果をあげた。
- ③新3科目を含む独自のe-learning教材を計19科目分公開し、全国がんプロe-learningシステムに提供した。令和元年10月末現在で、北信地域の学生や医療従事者815名が受講中である。
- ④TV会議システム(連携大学・地域医療機関の33施設が同時接続が接続可能)による多施設・多職種連携の双方向性演習を実施し、オンコロジーセミナーの診断・治療に関する16症例(計8回、669名参加)、および看護事例19例(計19回、1,706名参加)の検討を計画通り行った。また、27名の講師による特別講演を行った。その結果、北信4県での症例不足が課題であった希少がんや各施設で課題となっている高齢者がん、在宅緩和ケアなどについて、多くの学生や医療従事者の学習に貢献した。
- ⑤連携6大学の教職員が引率する海外FD研修を合計3回にわたり実施し延べ41名が参加した。米国、豪州、台湾の合計9施設を訪問し、最新のがんゲム医療や緩和ケア等について研修を受け、各自のキャリア形成につなげた。TV会議システムを用いたFD研修報告会を合計2回開催して研修の成果を北信地域の医療スタッフにフィードバックし、日常業務におけるチーム医療の中心的な役割を担う人材育成に貢献した。その付随的な効果として、令和元年9月に北信がんプロの5大学病院のうち3病院ががんゲム医療拠点病院に指定されるという成果をあげ、地域住民にがんゲム医療を提供する体制を整えた。
- ⑥北信4県のがん診療連携拠点病院21施設において倫理委員会の承認を得たのち、平成22年～平成27年の院内がん登録データを基にした157,196症例(男: 89,023例、女 68,173例)の臨床情報を収集し、データベースを構築した。障がいや有するがん患者については、10施設から85,979症例(男48,040例、女37,939例)分の臨床情報を収集し、うち2479症例が障がい患者医療費受給者証を有することを明らかにした。4研究課題の提案をデータベース委員会で承認し、解析を開始した。その成果として、小児・AYA世代のがん患者が全国と比較しても石川県に多い傾向があることが明らかとなり、小児がんの治療を成人後も継続した場合医療費負担が著増する問題や妊孕性保存の問題があり解決する体制を確立する必要があることを石川県議会に提言した。日本内科学会で合計3演題の発表を行った。
- ⑦自治体、地域医療機関、患者会代表が参加する運営協議会(関連20施設からおおよそ50名が参加)を毎年1回ずつTV会議システムを用いて開催し、北信がんプロの事業取組や教育コース等を広報するとともに意見交換を行った。その結果、地域医療機関の医療従事者のインテグコース履修申し込みにも貢献した。
- ⑧北信がんプロの教育システムの広報の一環として、九州がんプロとのジョイントシンポジウムを平成31年2月6日に開催した。九州がんプロの大学院生および教員が金沢大を訪問し症例報告や特別講演をTV会議システムを通じて金沢大から発信するとともに、TV会議システムで九州大にも中継を結び九州大での参加者から北信がんプロの症例報告に対する双方向の活発な質疑を行った。本シンポジウムの成功により、その他のがんプロチームとのジョイントシンポジウム開催の可能性を示すことができた。
- ⑨小児・AYA世代、希少がん症例対策のひとつとして、平成29年度より東海北陸地区小児血液がん学会と連携した小児血液がんセミナーを計5回開催(延べ355名参加)開催し、希少な小児がん症例の治療などに関する情報共有を行うとともに、活動をがんプロから小児がん学会へと広げること成功した。
- ⑩金沢大がん進展制御研究所等と共催でシガホール国立大や復旦大等と国際シンポジウムを合計6回開催し、合計820名以上の参加者を集め、学生や医療従事者の最新のがん研究成果の学習や国際化に貢献した。
- ⑪連携大学が主幹を持ち回りで担当して合計3回(金沢市、福井市、長野市)の合同開市民公開講座を開催し、合計400名以上の参加者に対し最新のがん医療をわかりやすく解説した。公開講座の概要を採録記事として北信4県の地元新聞誌で掲載(約100万部)したほか、同エリアのケーブルテレビでも公開講座のダイジェスト版を放送(約40万世帯が視聴可能)し、参加できなかった市民に対する最新のがん医療や北信がんプロ事業の広報を行った。

【定量的に示すことのできる成果・効果(事業前後での比較等)】※ 受入人数等、他の様式で確認できるものは除く。

①各大学ホームページの開設 0→6

北信がんプロ6大学では各大学においても独自のがんプロホームページを開設し、事業本体のホームページとリンクしており、学内外への北信がんプロ情報の発信の一助となっている。

②他のがんプロとの連携事業 0→2

中部小児血液がんセミナーや、各種講演会において、他のがんプロとの共動したり、全国がんプロe-learningクラウドに参画することにより、他拠点・他地域の取り組みを学ぶ機会が推進された。

③がんゲム拠点病院の指定 0→3

医科系大学はいずれもがんゲム連携病院であったが、本事業での取り組みを通じ、令和元年度、金沢大・信州大・富山大の附属病院ががんゲム拠点病院に指定され、がんゲム医療の推進がなされている。

④富山県がんゲム医療研修会の開催(第1回70名、第2回72名、第3回31名、第4回32名)

【補助金の使途のうち、成果・効果を上げるための貢献度が高かったもの】※理由と併せて具体的に記入してください。

TV会議システムの整備・拡張: 遠隔地の学生・医療従事者にも同時に双方向で講演聴講や議論を行う場を提供できたため、合計2,900名以上が参加している演習(セミナー)に加え、各種会議にも使用しており、交通費の削減、参加者数の増加に貢献している。

海外FD研修: 海外の最先端の医療現場で研修・見学できたことにより、研修に参加した北信がんプロの医療従事者の知識のみならず意識改革やモチベーションの向上に大きく貢献した。間接的には、3大学病院のがんゲム医療拠点病院指定に貢献した。

E-learning教材作成: 履修者が自由な時間帯に聴講し学習が可能になったため、815名が聴講した。

3. 推進委員会からの要望、指摘事項等への対応状況

(1) 推進委員会からの要望への対応状況について

(下線部分のこれまでの実施状況や検討状況について、具体的に記入してください。①～③で2ページ以内)

推進委員会からの要望事項	対応状況
<p>① 本事業は各大学の連携の下で実施するものであることを踏まえ、一部の大学が主体となって実施するのではなく、事業責任者のリーダーシップの下、事業における各大学の役割や責任体制を明確化し、<u>連携大学すべてが一体となって事業を推進すること。また、事業期間終了後も各大学において、長期的な展望に基づく具体的な事業継続の方針・考え方について検討し、自立化した事業体制を構築すること。</u></p>	<p>【事業の責任体制・実施体制】 ※複数大学が連携する取組は、連携体制についても記入してください。また、本取組より新たな講座等が設置された場合の新たな運営体制等についても記入してください。</p> <p>○事業の責任体制：連携各大学の学長が各施設においてガバナンスを発揮して事業を推進するとともに、6大学の学長が参加する学長連絡協議会において定期的に取り組事業の進捗状況を管理している。学長連絡会議で進捗管理を行った結果、全年度、全コースで目標を上回る受入数（本科生コース68名/45名（達成率151.1%）、インテンシブコース227名/156名（同145.5%））を達成した。また、e-learning教材作成では各大学の役割分担を決め、それぞれが強みを持つ領域の教材作成（がんゲノム医療・金沢大、小児・AYA世代がん：信州大・金沢医大、ライフステージ：富山大・福井大・石川看護大）を行い19科目の教材作成を完成させた。演習や合同市民公開講座、海外FD研修会も持ち回りで主催・主幹を分担しワンチーム体制で開催した。</p> <p>○実施体制：6大学・地域医療機関・医師会・自治体・患者会等による運営協議会（年1回開催）を設置し、取組事業における意思決定及び運営を行うほか、主幹である金沢大がんセンター長が統括事業責任者として6大学の連携強化・調整を行い、さらに6大学による総務委員会（ステアリングコミッティー）、教務委員会、がんデータベース委員会（がんデータベースの個人情報管理状況、倫理審査状況も掌握）、広報委員会、企画委員会等を設置・開催し、実務を行った。</p> <p>【自立化した事業継続体制】 ※長期的な展望に基づく具体的な事業継続の方針・考え方について、記入してください。その際、将来的な財源確保（学内共通経費や寄附金を含む外部資金等の有力な財源を示すこと）に関する具体的な状況についても必ず記入してください。</p> <p>将来の日本の超少子高齢化社会で活躍できるがん医療人材の戦略的な育成のため、本事業で設置した教育コース、連携事業等は各大学の学長のガバナンスにおいて予算を確保して継続させる方針である。</p> <p>特に、北信地域がんデータベース構築事業は、北信地域ひいては将来の日本の超少子高齢化社会における効率的ながん医療人材教育システム構築に向けた基盤形成事業と位置付け、改善・発展させながら継続する。令和元年度までに15万症例以上の臨床情報を収集しデータベースを構築、解析を開始した。今後は、自己資金の支出のみに依存せず、自治体等の公的研究費獲得に向けた申請を継続的に行う予定である。</p> <p>また、新たにNPO法人（北信がんプロ認定機構）を平成31年4月に設立した。地域におけるがんプロフェッショナルの認定により、がん医療人材のスキルアップ、キャリア形成につなげると共に、資金を確保し事業継続に伴う広報や教育システム維持にかかる資金の一部費用負担を行うなどの経済的な支援も予定している。</p>

推進委員会からの要望事項	対応状況
<p>② 厳格な事業の進捗管理の下、自己点検・評価や患者等を含む外部評価を実施し、事業の<u>不断の見直し</u>を行いつつ、<u>がん医療の新たなニーズ</u>に対応できる優れた人材を養成する体系的な教育プログラムを展開すること。その際、履修する学生や医療従事者等のキャリアパス形成に資するものとする。また、客観的なアウトプットやアウトカムを年度ごとに明確にすること。</p>	<p>【事業の不断の見直し】 ※評価から改善の流れ等について、具体例等を含めて記入してください。 当初は、内部評価委員会と外部評価委員会を隔年で実施する予定であったが、推進委員会からの指摘を受け、外部評価委員会を毎年実施するように変更した。患者も構成員に含めた外部評価委員会を平成30年3月16日と平成31年3月8日に開催し、有益な改善点の指摘を複数受けた。また、患者、自治体、地域のがん診療連携拠点病院等よりなる北信がんプロ運営協議会を毎年1回(平成29年9月18日、平成30年11月14日、令和元年11月7日)開催し、広く意見を取り入れ事業見直しに努めた。したがって、現在北信がんプロでは、外部評価委員会、運営協議会、総務委員会での評価やセルフチェックにより改善点を抽出し、総務委員会で対応方針を決定し、下部委員会が対応策の策定および実施を行う体制をとっている。 具体的には、外部評価委員会で新設を勧められた多職種向けのがんゲノム医療に関するインテンシブコースに関しては、総務委員会で新設の意思決定後、教務委員会で新設の作業を行い、よく年度内に新設を実現した。 また、専攻生や市民公開講座等のイベント参加者へのアンケート調査を行い、取り上げるべき講演テーマの決定に活用した。</p> <p>【キャリアパス形成に資する取組】 ※修了者のキャリアパス形成に対してどのような支援を行っているか具体例等を含めて記入してください。 北信がんプロではキャリアパス形成の試みの一つとして、海外FD研修会を実施した。教員(各大学数名ずつ)を海外連携機関へFD研修に派遣し、最新の医療が行われている現場で1週間程度の研究を受けさせ、その成果を後日TV会議システムを活用した北信地域でのFD講習会で発表させることにより、国際化と教育のキャリア形成を行った。この取り組みは、人員不足のため長期海外留学が困難な地方大学病院の医療従事者にとって、大変モチベーションを向上させる事業となった。平成30年2月は金沢大主幹で米国NCIなどでゲノム医療を、3月には石川看護大主幹で豪州メルボルンの6医療施設で緩和ケアを、11月には金沢医大主幹で台湾高雄大で先進医療の研究を実施した。今後予算確保ができる場合には海外FD研修を継続し、海外FD参加者の選出においては修了者を優先させる方針である。 女性でも継続的勤務が可能な働きやすい職場環境の実現を目指し2期北陸がんプロでは看護師の復帰支援の取組を行い実績を挙げたが、北信がんプロでは、出産等で休職した女性医師、歯科医師、薬剤師、遺伝カウンセラー、ソーシャルワーカー、放射線技師、リハビリテーション技師、栄養士等を含む多職種についても復帰支援を積極的に行っている。その学習ツールとして、e-learning教材による学習やオンコロジーセミナーやがんライフステージ事例検討会などの演習への参加を呼び掛けている。 今後、教育コース修了者に対して、NPO北信がんプロ認定機構による認定証を発行する予定となっており、キャリアパス形成につなげると共に、認定取得者の輩出により、認定取得者周囲への波及効果が望まれ、履修者、修了者のさらなる増加につながる。</p> <p>【客観的なアウトプット・アウトカム】 ※客観的なアウトプット・アウトカム等について具体的に記入してください。 ①平成29年度：学長連絡協議会、キックオフミーティング(運営協議会)を通じ、連携大学及び北陸・長野の地域医療機関と大学間での連携を確認した後、取組事業の紹介や受講者募集等を行い、北信がんデータベースへの協力を求めたほか、オンコロジーセミナー、がんライフステージ事例検討会など、TV会議システムを用いた多施設、多職種演習(延べ594名参加)の参加協力を求めた。 また、一般市民、医療機関への情報発信としてホームページ、ニュースレター、新聞各紙、ケーブルテレビなどの媒体や、市民公開講座を開催しそれぞれの場において取組事業の紹介を行ったほか、関連機関への受講者募集等の広報活動を行うことで各教育コース受入数の当初目標の達成につながった。 さらに、東海地区の小児血液がん学会関係施設と連携し、小児血液がんセミナーin中部を開催(85名参加)するなど、これまでの連携エリアの枠を超えた新たな連携が形成された。 ②平成30年度：前年度同様、学長連絡協議会、運営協議会を通じ、連携大学間、地域医療機関との協力連携により、オンコロジーセミナー、がんライフステージ事例検討会など、テレビ会議システムを用いた多施設、多職種演習を12回(延べ1,040名参加)開催したほか、外部評価委員会の指摘を受け、ホームページを更新充実させた結果、年間閲覧数が7万を超えた。 ③令和元年度：前年度同様、学長連絡協議会、運営協議会を通じ、連携大学間、地域医療機関との協力連携による事業運営体制を整えたほか、オンコロジーセミナー、がんライフステージ事例検討会など、TV会議システムを用いた多施設、多職種演習を6回(延べ618名参加)開催した。</p>
<p>③ 成果や効果は可能な限り可視化した上で、地域や社会に対して分かりやすく情報発信すること。また、他大学の参考となるよう、特色ある先進的な取組やモデルとなる取組について、表現するためのノウハウ、留意点等も含めて積極的に情報発信するなど、成果等の普及・展開に努めること。</p>	<p>【成果等の情報発信、他大学への普及・展開】 ※成果等の情報発信や、他大学への普及について、具体例等を含めて記入してください。 ・本事業による人材養成モデルや成果に関して受講者向け、患者向け、医療従事者向けと大別し、それぞれ連携大学、地域医療機関、社会一般向けに各大学が主催する市民公開講座、シンポジウム、ホームページ、ニュースレター(計5回発行、毎回約200部発行)、マスメディアを通じて情報発信を行い、「がん教育、予防、検診受診、早期発見、早期治療、早期社会復帰」に向けた情報を発信、意識付けが出来るよう啓蒙に努める。 ・他大学に対しても参考となるよう取組モデルをまとめた事業報告書を作成・配布するほか、facebookやtwitterなどのSNSも有効活用し、多角的な情報発信を図る。 ・薬学系の演習で服薬指導のロールプレイに用いたシナリオを国内74薬学部へ配布するなど、積極的に情報展開を行い、成果の普及・展開を行う。 ・合同市民公開講座の採録記事(全15段記事)を、北信4県(石川、富山、福井、長野)新聞に掲載したほか、北信4県のケーブルテレビにて、合同市民公開講座の様子を収録したダイジェスト版(60分)を各地で4回程度放送した。</p>

(2) 推進委員会からの指摘事項(改善を要する点等)への対応状況について

(指摘事項に対するこれまでの実施状況や検討状況について、具体的に記入してください。全体で1ページ以内)

推進委員会からの指摘事項	対応状況
取組継続に関して、各大学の学長のガバナンスにおいて予算確保の継続は評価するが、中長期的戦略も必要であり、公的資金以外にも資金確保の工夫を期待したい。	本事業で設置した教育コース、連携事業等は各大学の学長のガバナンスにおいて予算を確保して継続させる方針である。 また、自己資金の支出のみに依存せず、研究費獲得に向けた申請を継続的に行うほか、NPO法人北信がんプロ認定機構を平成31年4月に設立し、事業継続に伴う費用負担の一部を補う基盤を整えた。今後自治体などの公的資金獲得の申請を行う。
事業計画の進捗管理・改善や北信地域がんデータベースの構築に関する方法論、実施体制等が提示されていない。	進捗管理については連携6大学の学長連絡協議会により学長ガバナンスにより進捗管理を行っており、本科生コース、インテンスコースともに140%以上の充足率を達成している。 データベース構築については、研究申請書を金沢大学で倫理委員会承認を得たのち、本事業に賛同した北信4県のがん診療連携拠点病院21施設において倫理委員会の承認を得た。次に、平成22年～平成27年の院内がん登録データを基にした157,196症例(男: 89,023例、女 68,173例)の臨床情報を収集し、金沢医大公衆衛生学教室(西野教授)でデータベース化した。これまでほとんど実態が明らかになっていない障がい有するがん患者については、10施設から85,979症例(男48,040例、女37,939例)分の臨床情報を収集し、うち2479症例が障がい者医療費受給者証を有することを明らかにした。連携大学から申請された4研究課題の提案をデータベース委員会で検討・承認し、研究者による解析を開始した。その成果として、小児・AYA世代のがん患者が全国と比較しても石川県に多い傾向があることが明らかとなり、小児がんの治療を成人後も継続した場合医療費負担が著増する問題や妊孕性保存の問題があり解決する体制を確立する必要があることを石川県議会に提言した。日本内科学会で合計3演題の発表を行った。今後もデータ集積を進め、同様の手順で履修生の学術活動や、北信地域のがん医療対策として活用する予定である。
少子高齢化と小児・AYA 世代のがん医療についてどのような問題点があり、どのように解決していくのか明確となっていない。	地域として医療実態の把握がなされていないという問題については、上述の手法で地域がんデータベースを構築し、実態把握についての作業を開始している。小児・AYA世代・希少がん症例が少ないという問題については、地域がんデータベースの成果として、石川県では小児・AYA世代がん症例の割合が全国平均よりもむしろ高いという特徴が明らかになってきた。すでに、石川県議会に小児がんの医療費負担や妊孕性保存に関する問題提起まで行った。医療スタッフが少ないという問題については、1)海外FD研修を行うことで参加したスタッフの知識レベルやモチベーションの高めた、2)現在スタッフ数不足が深刻な遺伝カウンセラーに対し、養成する本科コースを信州大学で設置しているほか、金沢大学でも修士大学院コースを令和2年度に新設するなどの対応を行った。
外部評価は隔年施行予定とあるが、アドバイスの、監査的要素も入れて毎年関与されるシステムの構築が望ましい。	学長連絡協議会で検討の結果、内部評価と外部評価を隔年で実施するのではなく、外部評価委員会を毎年開催ことに変更し、平成29年度は平成30年3月16日(金)に、平成30年度は平成31年3月8日(金)に開催した。今後も、外部評価を毎年行う監査体制で事業を推進する予定である。
北信地域の特徴は記してあるが、遠隔教育システムやデータベースを新たに構築する以外、その特徴に対して、具体的な教育・研究活動が明瞭に示されていない。	2段上のコメントに対する回答と同様である。 さらに、金沢大がん進展制御研究所、シンガポール国立大、復旦大等との連携により国際シンポジウムを合計6回開催し、先進的な研究成果の理解を高めたとともに、英語による国際交流の場を提供した。 また、看護系大学では臨床薬理や臨床腫瘍学、フィジカルアセスメントの講師などが不足している為、金沢大の教員が1対1～2という教育環境で講義を行うなど、密度の濃い教育を行った。更に、金沢大と富山大では、共に薬学系の実習において相互補完的に履修可能とするなど、教育、研究活動の連携、充実に回った。
各大学の得意な領域を活用する趣旨は評価できるが、他大学の院生がどのような形でその恩恵に与れるのか具体策が不明確である。	連携各大学の得意な領域において北信がんプロ独自のe-learning教材を作成し、他大学院生は共通科目として受講が出来る体制を構築した。TV会議システムを活用した演習も各大学が強みを有する領域の症例を連携各大学の受講者が学修した。さらに、大学院生を対象とした小児がん診療、がんゲノム医療など交換研修も可能な体制であり、学会認定資格、専門医取得などで恩恵を受けるシステムを構築した。
人材養成モデルの情報発信の方法が不明確である。単なる教員、院生の研究成果の発表にとどまらないよう考慮する必要がある。	連携各大学において市民公開講座、シンポジウム、ホームページ、マスメディアを通じ、「がん教育、予防、検診受診、早期発見、早期治療、早期社会復帰」に向けた情報を発信、意識付けする啓蒙を行った。また、facebookやtwitterなどのSNSも有効活用し、多角的な情報発信を行った。さらに、九州がんプロとのジョイントシンポジウムを開催し、お互いの教育システムに関する情報交換や情報発信を行った。

(3)事業の実施体制(担当者一覧)

	氏名	実務上の責任者に「○」	所属(研究科・専攻等)・職名	事業における役割
1	矢野 聖二	○	金沢大学がん進展制御研究所教授	事業推進統括コーディネーター、北信がんプロ運営協議会会長、総務委員会
2	山崎 光悦		金沢大学学長	学長連絡協議会会長
3	稲垣 美智子		金沢大学大学院医薬保健学総合研究科保健学専攻教授	北信がんプロ運営協議会委員、保健学系内の調整
4	武村 哲治		金沢大学大学院医薬保健学総合研究科保健学専攻教授	保健学系内の調整
5	松下 良		金沢大学大学院医薬保健学総合研究科薬学専攻教授	北信がんプロ運営協議会
6	濱田 州博		信州大学学長	事業総括・学長連絡協議会委員
7	中山 淳		信州大学学術研究院(医学系)教授・大学院医学系研究科長	事業総括
8	小泉 知展		信州大学学術研究院(医学系)教授(包括的がん治療学教室)	事業推進プロジェクトリーダー、事業推進委員会委員長、教育プログラム責任者
9	中沢 洋三		信州大学学術研究院(医学系)教授(小児科学教室)	教育カリキュラム開発・編成担当
10	齋藤 滋		富山大学学長	事業統括
11	林 篤志		富山大学附属病院院長	事業推進プロジェクトリーダー
12	林 龍二		富山大学附属病院臨床腫瘍部教授	教育カリキュラム開発・編成担当(総括)
13	長田 拓哉		富山大学附属病院集学的がん診療センター 副センター長	広報戦略担当
14	上田 孝典		福井大学学長	事業総括・学長連絡協議会委員
15	廣野 靖夫		福井大学医学部附属病院がん診療推進センター長	総務委員会委員、教務委員会委員、広報委員会委員、オンコロジーセミナー運営委員会委員
16	片山 寛次		福井大学大学院医学領域がん専門医育成推進講座特命教授	総務委員会委員、教務委員会委員、オンコロジーセミナー運営委員会委員
17	神田 享勉		金沢医科大学・学長	事業統括、学長連絡協議会 委員
18	元雄 良治		金沢医科大学医学部腫瘍内科学・教授	金沢医科大学コーディネータ、教育カリキュラム開発・編成担当、総務委員会・運営協議会 委員
19	下平 滋隆		金沢医科大学医学部再生医療学・教授	教育カリキュラム開発・編成担当、総務委員会・教務委員会・運営協議会 委員
20	安本 和生		金沢医科大学医学部腫瘍内科学・特任教授	教育カリキュラム開発・編成担当、オンコロジーセミナー企画委員会・運営協議会 委員
21	石垣 和子		石川県立看護大学学長(地域看護学)	事業総括・学長連絡協議会委員
22	西田 義明		石川県立看護大学事務局長	事業総括・総務委員会
23	牧野 智恵		石川県立看護大学学長補佐、教授(成人看護学)	看護大学コーディネーター、事業推進プロジェクトリーダー
24	谷本 千恵		石川県立看護大学准教授(精神看護学)	広報委員会
25				

4. 評価

4-1. 取組についての自己評価（全体で1ページ以内）

(1) これまでの事業の進捗状況の自己評価を下記から選択してください。

選択欄	①順調に進捗しており、当初目標を上回る効果・成果が出ている。
-----	--------------------------------

- ①順調に進捗しており、当初目標を上回る効果・成果が出ている。
- ②おおむね順調に進捗している。
- ③予定通りに進んでいない点もあるが、当初目標を達成できる見込みである。
- ④予定通り進んでおらず、当初目標を達成することが難しい状況である。

(2) 上記自己評価に関して、これまでの事業の進捗状況をどのような体制で点検・評価したのか、また、自己評価の結果を踏まえて、今後どのように改善・発展するのかについて、記入してください。

【点検・評価体制】

推進委員会の指摘に対応し、外部評価委員会を毎年実施することにした。外部評価委員会からのコメントを真摯に受け止め、総務委員会で現状を把握し改善策を検討・立案した。その改善策を担当委員会でさらに議論し、実効性のある改善対応を行った。具体的には、がんゲノム医療に関する多職種連携のインテンシブコース立ち上げを外部評価委員会から勧められ、総務委員会で立ち上げの必要性を理解し総意を得たうえで、教務委員会に諮り、金沢大学と信州大学で多職種向けのがんゲノム医療に関するインテンシブコースの新設を実現した。

今後も、あらかじめ数値目標を設定していたものに関してはそれを達成できるように努力を継続して行う。さらに、毎年外部評価委員会を実施し、客観的な評価を受けてそれに対応することで継続的に改善を行っていく予定である。

【当初目標を上回る効果・成果を出すための取組等】

※(1)の自己評価において①を選択した場合は、当初の目標を上回る効果・成果に繋がった理由について、大学として行った具体的な工夫や取組等を記入してください。

学長連絡協議会で、履修生の受け入れを中心に事業の進捗管理を行った結果、各大学の学長が本事業の重要性を理解し各大学において責任者を支援・刺激していることにより、当初目標を上回る受け入れを達成することができたと実感する。

また、6大学の責任者が北信オンコロジーセミナーやがんライフステージ事例検討会などの演習、がん関連学会等の諸活動で、常に顔が見える関係で本事業を推進しているため、北信がんプロは非常にまとまったチームになっていることも当初目標を上回る大きな要因になっていると思われる。

【今後の改善・発展方策】

※(1)の自己評価において③又は④を選択した場合は、進捗の遅れの原因を記入し、具体的な改善方策を記入してください。

4-2. 外部評価（(1)及び(2)で1ページ以内）

(1) 下表に、外部評価の実施状況を記入してください。

事業年度	外部評価の実施状況	外部評価実施(予定)年月日
平成29年度	○	平成30年3月16日
平成30年度	○	平成31年3月8日
令和元年度	○	令和2年3月実施予定

(記入要領)

実施状況について、当該年度に1回以上実施した場合は「○」を、実施していない場合は「×」を付してください(令和元年度については、実施予定がある場合も「○」を付してください)。

また、実施状況に「○」を付した場合は、当該事業年度における実施(予定)年月日を記入してください。

(2) 外部評価の実施体制についてお答えください。

① 他機関委員の参画の有無

選択欄	○
-----	---

② 他機関委員の氏名、所属・役職等(①が「○」の場合のみ記入)

No.	氏名	所属・役職等
1	松浦 成昭	大阪国際がんセンター総長 全国がんプロ協議会会長
2	石岡 千加史	東北大学腫瘍内科教授 東北次世代がんプロ養成プラン 事業推進責任者
3	眞島 善幸	特定非営利活動法人パンキャンジャパン 事務局長 一般社団法人全国がん患者団体連合会(全がん連)
4	澁谷 武志	地元産業界 シブヤEDI株式会社 代表取締役
5		

③ 具体的な実施方法等

以下の手順で、外部評価を実施した。

- 外部評価委員会の各委員による評価
外部評価委員会の各委員による評価として、各委員がそれぞれ評価結果報告書を作成する。
(1) 評価にあたっては、活動報告資料と外部評価委員会でのプレゼンテーション・質疑応答に基づき評価を行う。
(2) 各委員が評価結果報告書を北信がんプロ事務局へメール等で提出し、事務局で取りまとめをした後、委員長へメールにて送付・提出する。
- 外部評価委員長による外部評価委員会評価結果の作成
各委員の評価結果報告書を基に、委員長が外部評価委員会評価結果(案)を作成し、評価結果(案)を各委員へ送付する。
各委員は、修正意見及び質問等があれば、その旨を任意の書式により記述し、事務局へ提出する。事務局は、意見等を整理して委員へ送付する。委員長は、必要に応じて修正意見を踏まえた評価結果(修正案)を作成し、各委員へ送付する。
委員長は、メール等で対応できない場合や審議の必要があると認めた場合は、外部評価委員会を再度開催する。
最終的に外部評価委員会としての外部評価委員会評価結果を作成し、事務局へ通知する。

- (3) 各事業年度の外部評価において、指摘を受けた内容及びその内容を踏まえた改善内容及び改善時期を記入してください。
 なお、外部評価を実施していない場合は「実施していない」、令和元年度において、実施予定がある場合は「事業年度内に実施予定」と「主な指摘事項」欄に記入してください。

	主な指摘事項	<p>1. ホームページを一新して内容がわかりやすく、見やすくなった点は良いが、作成中の所がいくつかあり、情報提供の上で遅れているので、改善をお願いしたい。</p> <p>2. e-learningが教育の中心であり、良い内容のものを多数作成して大変な努力とは思いますが、少し整備が遅れていて不十分な所があるので次年度の教育に間に合うように準備頂きたい。</p> <p>3. 第2期がんにプロの大学院生が在籍しているので、引き続き教育に励んで頂くとともに、第3期がんにプロとの関連(別個にやるのか、移行するのか)についても考慮、記載頂きたい。</p> <p>4. ゲノム人材養成がにわかに関重要課題として浮かび上がってきているが、北信がんにプロではゲノム人材のコースが大学院2コース、インテンシブコースのみと少ない。ゲノム医療の実現のためにはゲノム医療の専門家だけでなく、関係する幅広い医療スタッフにある程度の知識を普及啓発する活動も必要なので、可能であればインテンシブコースの形で追加することを考慮頂きたい。また、がんにプロにおけるゲノム医療人材養成の取組みとゲノム医療連携病院としてゲノム医療実践との関連性を考慮しながら事業を進めて頂きたい。</p> <p>5. 多くのセミナー、シンポジウムを開催している点を評価するが、これらの開催はがんにプロ事業の一環であるということを意識して、がんにプロの広報にも努めて頂くようお願いしたい。</p>
平成29年度	改善内容・改善時期	<p>1. ホームページの内容の指摘事項については、平成30年2月20日に開催した広報委員会にて内容検討と併せて、ホームページ掲載の優先順位をつけ内容を充実させ、平成30年6月には指摘箇所の修正を行った。その後も継続的に見直しを行い、さらに充実した内容のホームページを目指し、維持管理を行った(更新回数計35回)。</p> <p>2. 外部評価開催時にはe-learning教材の収録が遅れ未公開となっていた一部の講義についても、平成30年度本科生の受入開始時(平成30年度5月)には、教育コースに必要な全ての科目の教材を公開した。</p> <p>3. 1期、2期がんにプロ時の教育コース履修生については、基本的に新科目は単位互換ではないため、当面、別個に教育コースを実施することとなるが、新しい科目の受講を希望する院生については柔軟に対応しており、希望があれば受講環境を提供することとしている。</p> <p>4. がんゲノムの教育コースの充実については、平成30年5月に看護系の委員会を多職種連携委員会と改称して、平成30年8月に金沢大が多職種向けのインテンシブコース(がんゲノム多職種連携入門コース)を追加開講した。連携全5大学病院(金沢大、信州大、富山大、福井大、金沢医科大)が、平成30年4月にがんゲノム医療連携病院の指定を受けており、今後、各病院の医療従事者向けにがんゲノム医療の教育の場を提供する事としている。</p> <p>5. 連携各大学が連携または合同で、セミナー、シンポジウムを開催している。年1回開催の合同市民公開講座後に、北信4県の地方新聞に採録記事を掲載すると共に、講演内容を収録したダイジェスト版を各県ケーブルテレビで4回程度放送する等地域住民への後方に勤めた。さらに、ホームページやSNSでの情報発信に加え、様々な媒体で可能な限り広報に努めている。</p>
	主な指摘事項	<p>1. 大学院コースおよびインテンシブコースの履修生・受講生の専門性やバックグラウンドを十分に把握したうえで、養成された人材が地域での新しいテーマに対応するがん医療が推進できるように考慮して頂きたい(評価資料やプレゼンで示して頂きたい)。</p> <p>2. オンコロジーセミナー、ライフステージ事例検討会は大学間連携・多職種連携に重要と考えられ、充実した内容であるが、大学を超えた取組み・多職種の連携を図る教育事業がほかにあまりない点を考えると、もう少し開催数をふやせないか考慮いただき、多職種が参加することによる幅広い議論を望みたい。</p> <p>3. 各大学がそれぞれ教育内容を分担する形で全体として第3期がんにプロのテーマが推進されているのはよく理解できるが、必然的に大学ごとにみると特定の職種や専門性にばらつきがみられることになる。各地域に必要な人材養成の観点から考えると地域単位(大学単位)での後発的な養成も考慮すべきである。</p> <p>4. がんにプロの活動内容および成果をもっと発信してアピールすることが望ましい。</p>
平成30年度	改善内容・改善時期	<p>1. 外部評価委員会での指摘を受け、令和元年度当初の総務委員会(令和元年5月22日開催)で各大学の教育コース受講生の調査を決定し、調査で得られたデータを翌年度の学長連絡協議会(令和元年11月17日開催)で報告した。令和元年度の外部評価委員会でもデータを提示する予定である。</p> <p>2. オンコロジーセミナー及びライフステージ事例検討会の開催回数の増加は困難と思われる為、さらに各大学で1回あたりの参加者数の増加させるため多職種が参加しやすいテーマを取り入れるなど内容の改善を行った。各大学で開催するFD講習会の一部を単位認定セミナーとしてTV会議システムで配信するほか、各大学の本科履修生を対象とした交流セミナー(令和元年11月17日)を開催するなど、多職種が参加するセミナーを充実させた。</p> <p>3. 外部評価委員会での資料には含まれていなかったが、大学単位での人材養成を行っている。富山大では富山県がんゲノム医療研修会を合計4回開催してゲノム医療に強い医療人材養成を行った結果、がんゲノム医療拠点病院の指定を受けるという成果を挙げた。</p> <p>4. これまでも連携各大学が開催する市民公開講座開催時や、各大学のホームページ、SNSなどで活動内容をアピールしている。さらに、関係各機関へのニュースレター、各年度の活動状況をまとめた活動成果報告書を配布しているが、今後はそれぞれの媒体をリンクさせた広報活動にも注力する。</p>
	主な指摘事項	未開催(令和2年3月に開催予定)
令和元年度	改善内容・改善時期	

5. 社会への発信

(1) 下表に申請担当大学が設けている本事業のWebサイト等の更新回数等を記入してください。(令和元年10月末時点)

取組内容		平成29年度		平成30年度		令和元年度	
		更新回数	閲覧数	更新回数	閲覧数	更新回数	閲覧数
申請担当大学が設けている本事業Webサイト等の更新回数・閲覧数	Webサイト	35回	37753回	60回	70018回	30回	42412回
	SNS等	更新回数		更新回数		更新回数	
		30回		48回		36回	

(記入要領)
Webサイトの更新回数・閲覧数とは、医学部等のWebサイト全体の更新回数等ではなく、軽微な修正等を除いた、本事業に関するページ・内容に関する更新回数等とします。
また、Facebook、twitter等のSNSによる更新回数は、「SNS等」の欄に別に記入してください。
なお、更新回数等を把握できない場合は、「不明」と記入してください。

(2) 申請担当大学が設けている本事業のWebサイトで公開している内容について、「○」または「×」を選択してください。(令和元年10月末時点)

<input type="radio"/>	① 事業概要、本事業に係る問合せ先、事業責任者、担当教員名等を掲載しているか。
<input type="radio"/>	② 教育プログラム・コース内容の詳細が明示されているか。(講義・実習等の詳細な内容、教員名等の掲載)
<input type="radio"/>	③ 教育プログラム・コースの受入目標人数及び履修者数が掲載されているか。
<input type="radio"/>	④ 学生向けのPRのためのページがあるか(履修者の意見、キャリアパスにつながる支援等)。
<input type="radio"/>	⑤ 最新のトピックス(新着情報、活動報告等)などの情報を随時更新しているか。
<input type="radio"/>	⑥ 他大学の参考となるような(普及促進に向けた)情報を掲載しているか(特色ある取組、導入経緯やノウハウ、留意点等)。
URL	http://gan-pro.net/

(3) 本事業で新たに取り組んだ社会への情報提供や本事業の普及促進を目的として、申請担当大学及び連携大学が主催したフォーラム等(シンポジウム・事例発表会)の開催実績を年度毎に記載してください。

- ※1 本事業に関連するものとして開催したフォーラム等(シンポジウム・事例発表会)を回答してください。
- ※2 本事業開始前から実施しているフォーラム等は含まないでください。
- ※3 学内や連携大学間でのカンファレンス等は含まないでください。
- ※4 連携大学の参加者数は「学内参加者数」として回答してください。

	開催年月日	フォーラム等の名称	主催大学		学内参加者数	学外参加者数	参加大学数 (自大学・連携大学を除く)
			申請担当大学	連携大学			
H29	平成29年10月29日	合同市民公開講座	○	○	16	141	0
	平成29年10月9日 他	市民公開講座		○	109	1627	3
	平成29年12月8日 他	北信オンコロジーセミナー	○	○	172	10	0
	平成29年8月1日 他	ライフステージ事例検討会	○	○	66	433	0
	平成29年10月11日 他	合同FD講習会	○	○	115	56	0
	平成29年9月9日 他	看護セミナー		○	115	28	0
H30	平成30年12月16日	合同市民公開講座		○	10	240	5
	平成30年10月28日 他	市民公開講座	○	○	56	1049	2
	平成30年6月29日 他	北信オンコロジーセミナー	○	○	266	41	2
	平成30年6月5日 他	ライフステージ事例検討会		○	59	674	0
	平成30年5月18日 他	合同FD講習会	○	○	33	0	0
	平成30年11月30日	看護セミナー		○	66	32	1
R1	平成31年4月22日 他	市民公開講座		○	92	1302	0
	令和1年5月31日 他	北信オンコロジーセミナー	○	○	169	27	1
	令和1年6月4日 他	ライフステージ事例検討会		○	31	389	0
	平成31年6月17日	看護実践セミナー(基礎、アドバンス編)		○	2	81	0
	令和1年7月10日 他	合同FD講習会・FD講演会・SD講演会		○	162	50	0
	令和1年9月3日 他	国際シンポジウム		○	199	8	0

6. 成果波及のための取組(全体で1ページ以内)

(1) 他大学等への事業の普及・促進に向けた取組について、具体的な内容を記入してください。

北信がんプロの教育システムの広報の一環として、九州がんプロとのジョイントシンポジウムを平成31年2月6日に開催した。九州がんプロの大学院生および教員が金沢大を訪問し症例報告や特別講演をTV会議システムを通じて金沢大から発信するとともに、TV会議システムで九州大にも中継を結び九州大での参加者から北信がんプロの症例報告に対する双方向の活発な質疑を行った。本シンポジウムの成功により、その他のがんプロチームとのジョイントシンポジウム開催が可能であることを示すことができた。

近畿大のがんプロチームが主催する国際シンポジウムに北信がんプロの教員が平成31年2月に講師として講演を行った。この講演では北信がんプロが作成したe-learning教材のスライドも一部使用しており、他のがんプロの大学院生や医療従事者に対して北信がんプロの取り組みを多少なりとも普及できた。令和2年にも同国際シンポジウムでの講演を北信がんプロの教員が依頼されており、北信がんプロの取り組みを広める予定である。

また、小児・AYA世代、希少がん症例対策のひとつとして、平成29年度より東海北陸地区小児血液がん学会と連携した小児血液がんセミナーを計5回開催(延べ355名参加)し、希少な小児がん症例の治療などに関する情報共有を行うとともに、活動をがんプロから小児がん学会へと広げること成功した。

(2) (1)の取組等の成果として、他大学等における具体的取組(今後の予定)について記入してください。

他がんプロチームとのジョイントシンポジウムを計画していく予定である。

近畿大のがんプロチームが主催する令和2年2月の国際シンポジウムにも北信がんプロの教員が特別講演の依頼をされており、北信がんプロの取り組みを広める予定である。

小児・AYA世代、希少がん症例対策のひとつとして、東海北陸地区小児血液がん学会と連携した小児血液がんセミナーを今後も行う予定である。

7. 今後のがん専門医療人材の養成(全体で1ページ以内)

※本様式については、今回の中間評価の対象にはなりません。

今後、我が国で養成すべきがん専門医療人材について、自由に記入してください。

アドバンスドケアプランニング(人生会議)を含めた包括的かつ終末期までの計画的ながん化学療法ができる腫瘍内科医の育成。

「がんプロフェッショナル養成推進委員会」所見

令和 2 年 2 月 2 1 日

1. 事業の概要

がんは、我が国の死因第一位の疾患であり、国民の生命と健康にとって重大な問題となっている現状から、国民に対する最適で安心・安全ながん医療を提供するために、がん専門医療人材の養成が期待されている。

特に、近年、新たなニーズとして、がんゲノム医療の推進、希少がんや小児がんへの対応、AYA（Adolescent and Young Adult）世代や高齢者等のライフステージに応じたがん対策が求められており、これらの新たなニーズに対応するため、がん医療に携わる専門的な知識・技術を有する医師やその他医療従事者を養成することが必要である。

本事業は、がんに係る多様な新ニーズに対応するための優れたがん専門医療人材（がんプロフェッショナル）を養成することを目的として、平成 29 年度より、複数の大学との連携による「がん医療人材養成拠点」を整備して、各大学の特色を活かした体系的な教育プログラムを構築する優れた取組を支援している。

2. 中間評価で確認できた成果

本委員会では、今年度 3 年目を迎えた本事業における取組の進捗状況や成果を検証し、評価結果を各大学にフィードバックすることにより、今後の事業の推進に役立てることを目的として中間評価を行った。

教育プログラム・コースの構築状況については、令和元年 10 月末時点で、本事業の実施により新たに開設された 378 の教育プログラム・コースにおいて、医師を始めとする医療従事者や大学院生など、それぞれの能力に応じた多彩な教育プログラム・コースが展開され、受講生の数は、正規課程とインテンシブコースの合計で 17,000 人を超えている。

また、多くの拠点において、がん医療の新たなニーズに対応できる優れた人材を養成する体系的な教育プログラムを展開しており、当初の目標を上回る教育プログラム・コースの開設や学生の参加を得られ、事業責任者のリーダーシップの下、連携大学が一体となって事業に取り組んでいる。

特に、全国がんプロ e-learning クラウド等を活用した教材コンテンツの拡充による教育コースの充実と新たな受講者の獲得に努めていることは大きな成果として評価できる。

なお、各取組により、養成人材の分野や事業計画、連携大学の有無、地域の実情等がそれぞれ異なることから、今回の中間評価は各取組の内容を比較して優劣をつけるものではなく、各取組が掲げた当初計画の進捗状況や本事業の目標が達成できるか否かを評価したものであることに御留意いただきたい。

3. 現状の課題

一方で、取組によっては例えば下記①～③のような課題もある。

- ①プログラム・コースによって、受講者数が目標に達していない大学も見られ、有効な改善策が講じられていない。
- ②連携大学毎の取組内容に差があるなど、拠点校による連携大学へのサポートや有機的な連携が十分でない。
- ③本事業の成果を他大学や社会に対して広く普及・促進させるための広報戦略や分かりやすい情報発信が十分でない。

4. 今後の期待

本事業の趣旨に沿った優れた人材を多数輩出するため、今後、各大学には、今回の中間評価結果における本委員会のコメントや、以下に記載の事項等を踏まえ、取組の一層の推進を期待する。

- ①修了者の多様なキャリアパスを見据えた教育プログラム・コースを構築し、推進すること。
- ②他大学への普及・促進を見据えた、新たな知見を含む教材・マニュアル等の充実を図ること。
- ③ゲノム医療、小児がん・希少がん、ライフステージに応じたがん対策の3つの分野ごとの養成人数や取組成果などを適切に把握するとともに、がん診療連携拠点病院等と連携するなど、社会のニーズにより応えられるよう改善していくこと。
- ④広報戦略として、全国の拠点が一体となったフォーラム等の開催や、がん患者からの声を吸い上げ、本事業の取組の成果とともに社会や地域に広く情報発信していくこと。
- ⑤補助期間終了後の事業の継続のための具体的かつ実現可能性の高い計画を策定し、推進すること。

「多様な新ニーズに対応する「がん専門医療人材(がんプロフェSSIONAL)」養成プラン」の
取組概要及び中間評価結果

整理番号	6
申請担当大学名	金沢大学
(連携大学名)	(信州大学、富山大学、福井大学、金沢医科大学、石川県立看護大学)
事業名	超少子高齢化地域での先進的がん医療人養成
事業推進責任者	がん進展制御研究所腫瘍内科教授 矢野 聖二
取組概要	
<p>本事業は、県の枠を超えた北信地域での戦略的がん医療人育成システム構築を目指す。6大学の強みを生かした最先端がんゲノム医療、小児・AYA世代・希少がんの集学的治療、ライフステージに応じたケアを大学の枠を超えて学習できる、共通科目や単位互換を導入した相互補完的教育コース(本科10、インテグレーション9)を新設する。2期がんプロで構築したTV会議システムを発展させた北信オンコロジーセミナー等を定期開催し、遠隔教育により多施設・多職種連携を推進する。さらに免疫チェックポイント阻害薬使用例など特色ある症例の北信地域がんデータベースを構築し、学会・論文発表に使用して専攻生や教員の意欲を高めると共に、地域がん対策に活用し成果を社会に還元する。これらの活動により、患者中心のチーム医療を行う超少子高齢化地域で活躍できる先進的がん医療人を輩出し、将来の日本の超少子高齢化社会におけるがん医療人材育成モデルを確立する。</p>	
中間評価結果	
(総合評価) B	
<p>おおむね順調に進捗しているが、当初目的を達成するためには、留意事項を考慮し、一層の努力が必要と判断される。</p>	
<p>(コメント) ○:優れた点等 ●:改善点等</p> <p>【優れた点】 ○北信がんプロ独自のe-learning教材の活用や、TV会議システムによる多施設・多職種連携の双方向性演習の実施など、多くの学生や医療従事者の学習に貢献している。</p> <p>【改善点】 ●6大学連携について、単に役割分担を行うのではなく、各大学の特徴を生かした有機的な連携について具体的な検討を行う必要がある。 ●自己点検・評価体制として、連携大学間で定期的に事業の進行状態を確認し、相互評価する体制を構築すべきである。 ●他大学との共同セミナーやシンポジウムのみならず、他大学等に本事業を普及・促進させる具体的な取り組みが必要である。</p>	

多様な新ニーズに対応する「がん専門医療人材 (がんプロフェッショナル)」養成プラン 中間評価後の改善計画書

申請担当大学名	金沢大学	
連携大学名	信州大学、富山大学、福井大学、金沢医科大学、石川県立看護大学	
事業名称	超少子高齢化地域での先進的がん医療人養成	
事務担当者 連絡先	所属・職名・氏名	金沢大学医薬保健系事務部学生課長・酒本 喜浩
	TEL	076-265-2126
	E-mail	iyakuhogakusei-kacho@adm.kanazawa-u.ac.jp

【記入要領等】

- ・「がんプロフェッショナル養成推進委員会の所見」及び「中間評価結果における指摘事項(●のコメント)」を踏まえた具体的な改善計画を記入してください。(改善計画には、改善内容や実施時期を必ず含めてください。また、定量的な実績に対して指摘を受けている場合は、改善後の目標値等を明示してください。)
- ・記入欄が足りない場合は、適宜、行を追加してください。

推進委員会の所見及び 中間評価における指摘事項 (●)	具体的な改善計画
【推進委員会の所見】 1. 修了者の多様なキャリアパスを見据えた教育プログラム・コースを構築し、推進すること。	<p>がんゲノム医療の実装化にともない北信地域で不足している遺伝カウンセラーの養成を促進するために、金沢大学大学院医薬保健学総合研究科 医科学専攻(修士課程)において遺伝カウンセリングコースを令和2年4月に開講する。</p> <p>北信がんプロにおいても「遺伝カウンセラー修士コース」を令和2年10月までに開設し、教育コースのさらなる充実を図る。尚、「遺伝カウンセラー修士コース」の受け入れ目標は令和2年度と令和3年度それぞれ1名と設定する。</p>
【推進委員会の所見】 2. 他大学への普及・促進を見据えた、新たな知見を含む教材・マニュアル等の充実を図ること。	<p>小児・AYA世代がんへの対応として、北信地域で遅れている妊孕性保存の連携体制の構築に取り組み、連携に関するマニュアルを作成し、北信4県のすべてのがん診療連携拠点病院に配布する。また、緩和ケアに関して、使用者から評価の高い富山大学の緩和ケアマニュアルをベースに北信がんプロ共通のマニュアルを作成し、北信4県のすべてのがん診療連携拠点病院に配布する。</p>
【推進委員会の所見】 3. ゲノム医療、小児がん・希少がん、ライフステージに応じたがん対策の3つの分野ごとの養成人数や取組成果などを適切に把握するとともに、がん診療連携拠点病院等と連携するなど、社会のニーズにより応えられるよう改善していくこと。	<p>3分野の履修者人数、専門医・専門職の人数を可視化して北信がんプロのHPに掲載する。また、がん診療連携拠点病院との連携事業として合同市民公開講座を年4回以上開催する。</p> <p>がん診療連携拠点病院向けに開催している研修会参加者のうちがん拠点病院のスタッフ数を可視化する。</p> <p>ゲノム拠点病院が県の枠組みを超えて地域がん拠点病院を連携病院とする連携体制を構築する。</p>
【推進委員会の所見】 4. 広報戦略として、全国の拠点が一体となったフォーラム等の開催や、がん患者からの声を吸い上げ、本事業の取組の成果とともに社会や地域に広く情報発信していくこと。	<p>一般市民が北信4県におけるがん患者会およびがんサロンの所在を把握できるように、それぞれリスト化し北信がんプロのHPに掲載する。がん患者会にアンケート調査を行い、がん患者のニーズの吸い上げを図る。</p> <p>また、北信がんプロが開催した合同市民公開講座のダイジェスト動画を北信がんプロのHPで公開し、市民に情報提供する。</p>

<p>【推進委員会の所見】</p> <p>5. 補助期間終了後の事業の継続のための具体的かつ実現可能性の高い計画を策定し、推進すること。</p>	<p>各大学の自己資金に加え、平成31年4月に設立したNPO法人北信がんプロ認定機構において、資金確保を進め、事業継続に伴う広報や教育システム維持にかかる資金の費用負担をおこなう。</p>
<p>【中間評価における指摘事項】</p> <p>●6大学連携について、単に役割分担を行うのではなく、各大学の特徴を生かした有機的な連携について具体的な検討を行う必要がある。</p>	<p>各大学の特徴を生かした有機的な連携を強化するために、小児・AYAがん症例に対する妊孕性温存に対する連携が進んでいる福井県、長野県の事例を参考に、大学間連携を強化し、北信がんプロ全体での取組を進めることとした。具体的には、医療関係者対象の勉強会をTV会議等で実施し、連携に関するパンフレットを作成し、4県のがん診療連携拠点病院に配布する。</p> <p>さらに、富山大学で作成している緩和ケアマニュアルをベースに連携大学間で協議し、妊孕性温存と同様に連携大学間での有機的な連携強化につなげる。</p>
<p>【中間評価における指摘事項】</p> <p>●自己点検・評価体制として、連携大学間で定期的に事業の進行状態を確認し、相互評価する体制を構築すべきである。</p>	<p>チェックシートを用意し、自己点検、相互訪問による相互点検を年2回行う。その際、「がんデータベース事業」、「がんゲノム医療」など具体的な事業別の評価も行う。</p>
<p>【中間評価における指摘事項】</p> <p>●他大学との共同セミナーやシンポジウムのみならず、他大学等に本事業を普及・促進させる具体的な取り組みが必要である。</p>	<p>北信がんデータベースの解析で得られた成果をJSMO北信地区セミナー、市民公開講座で発表し、医療従事者や市民に成果を発信するほか、近隣の大学等へも取組事業を説明し、合同の市民公開講座を開催するなど、本事業の取組を広く認知してもらう。</p> <p>また、北信がんプロのホームページにおいて、がん医療に関する各種数値情報や、セミナー、シンポジウムに関する情報を掲載するほか、専門医・専門薬剤師・専門看護師などの数、がんプロ履修生のがん診療連携拠点病院における在籍数を集計して掲載するなど、北信地域のがん診療連携病院との連携を強化する。</p> <p>さらに、今後作成予定の妊孕性温存や緩和ケアについて作成するマニュアルを北信地区4県のがん診療連携拠点病院に配布するほか、がん教育の普及、促進にあたり、福井県で作成した小中高校の教師向けがん教育教材をもとに、がん教育用の動画教材動画などを作成する。具体的には、各県で行っているがん教育における医師による講義動画や、がん患者のインタビュー動画を追加し、地域の教育委員会等との連携し、普及促進につなげる。</p>

外部評価の評価手順（令和元年度）

1. 外部評価委員会の各評価委員による評価

各評価委員がそれぞれ、委員個々の評価結果報告書を作成する。

(1) 評価にあたっては、「外部評価報告（委員提出用）」を用いて、中間評価（内部点検）活動状況と評価、運営協議会によるプレゼンテーション・質疑応答に基づき評価を行う。

(2) 当該評価報告書は、本プログラム担当ががんプロ事務局へメール等で提出し、事務局で一時お預かりした後、全ての委員からの報告が揃い次第、外部評価委員会委員長へメールにて送付・提出する。

※ 各委員からの外部評価報告 がんプロ事務局へ提出 3月13日（金）17時まで

2. 外部評価委員長による外部評価委員会評価結果（案）の作成

各評価委員からの評価報告を受けて、委員長が外部評価委員会としての評価結果（案）を作成する。その後、評価結果（案）を各評価委員へ送付し、評価委員は評価結果（案）を確認する。

各評価委員は、修正意見及び質問等があれば、その旨を任意の書式により記述し、事務局へ提出する。事務局は、意見等を整理して評価委員へ送付する。

評価委員長は、必要に応じて修正意見を踏まえた評価結果（修正案）を作成し、各評価委員へ送付する。委員長は、メール等で対応できない場合、審議の必要があると認めた場合は、外部評価委員会を再度開催する。

最終的に外部評価委員会としての外部評価結果を作成し、事務局へ通知する。

※ 外部評価（総括） 最終提出締切日 3月19（木）17時まで

お忙しいところ、誠に恐縮ですが、文科省への取組調査等の報告期限もあり、上記日程にてご対応いただきたく、よろしくお願い致します。

諸事情により、ご対応が困難な場合は、お知らせください。

【問い合わせ先】金沢大学がんプロ事務局 担当 石塚・今村
TEL 076(234)4205、076(265)2854 FAX 076(265)2855
mail:gpro@med.kanazawa-u.ac.jp

北信がんプロ 外部評価委員名簿

	氏名	所属・職名
1	まつうら なりあき	大阪国際がんセンター総長
	松浦 成昭	全国がんプロ協議会会長
2	いしおか ちかし	東北大学腫瘍内科教授
	石岡 千加史	東北次世代がんプロ事業推進責任者
3	ましま よしゆき	患者会 NPO 法人
	眞島 善幸	パンキャンジャパン理事長
4	しぶや たけし	地元産業界 シブヤ EDI 代表取締役
	澁谷 武志	(澁谷工業グループ企業)

外部評価委員会 出席者名簿

	氏名	所属・職名
1	やの せいじ	金沢大学附属病院がんセンター長
	矢野 聖二	金沢大学がん進展制御研究所腫瘍内科教授
2	こいずみ とものぶ	信州大学医学部附属病院がんセンター長
	小泉 知展	信州大学包括的がん治療学教授
3	はやし りゅうじ	富山大学附属病院臨床腫瘍部教授
	林 龍二	
4	ひろの やすお	福井大学がん診療推進センター長
	廣野 靖夫	
5	もとお よしはる	金沢医科大学腫瘍内科学教授
	元雄 良治	
6	まきの ともえ	石川県立看護大学成人看護学領域教授
	牧野 智恵	
7	おおたけ しげき	金沢大学基幹教育改革・附属病院担当理事
	大竹 茂樹	
8	ほり おさむ	金沢大学医薬保健学総合研究科長
	堀 修	
9	まつした りょう	金沢大学薬学類長
	松下 良	
10	さかもと のぶひろ	金沢大学医薬保健系事務部学生課長
	酒本 喜浩	
11	しらき かずなり	金沢大学医薬保健系事務部学生課副課長
	白木 一成	
12	やすだ きぬえ	金沢大学医学大学院係 係長
	安田 衣江	
13	いしづか やすし	金沢大学医学大学院係 事務補佐員
	石塚 靖志	
14	こしいし としき	金沢大学医学大学院係 事務補佐員
	興石 俊樹	
15	いまむら まさみ	金沢大学医学大学院係 派遣職員
	今村 麻左美	

外部評価結果（委員提出用）

外部評価委員： 松浦 成昭

【評価結果】

■問題や不十分な点はない。

□一部問題や不十分な点がある。

□全体的に不十分であるか、一部に重大な問題がある。

[実施状況に関するコメント]

第3期がんプロ3年目として、北信6大学がそれぞれの特徴を出しながら、がんプロ事業を質量とも優れた形で実践していることを高く評価します。外部委員の意見も大変良く取り入れて頂き、前向きに検討・改善されたことに敬意を表したいと思います。人材養成事業であるがんプロにまず問われるものは大学院生・受講生の確保ですが、6大学がすべてのコースに大学院生・受講生の受入れ実績をあげておられることに最大級の賛辞を贈らせて頂きます。がんプロ教育を支えるe-ラーニングおよびICTを用いたオンコロジーセミナー、ライフステージ事例検討会は充実した内容でよい教育環境を提供していると高く評価されます。また、学内外向けのセミナー・講演会や一般市民向けの公開講座も興味深い内容・トピックスを取り上げて、活発に実施されました。ホームページもフェイスブック・ツイッターも併用して、広報に努められ、また昨年指摘した各大学のホームページもそれぞれわかりやすく整備頂き、広報にも積極的に務められました。

引き続き残り2年間、さらに事業を継続して、優秀な医療人材の養成を推進して頂くことを期待申し上げます。

(優れた点)

・がんプロ大学院生（本科正コース）の人数が2019年度は38名と増加し、インテンシブコースも受入れ目標数をクリアしている点。

・オンコロジーセミナーは4回実施で平均90名が、ライフステージ事例検討会は7回実施で平均95名と多数の参加者があった点。参加内訳で見ると多職種が参加している点。ライフステージ事例検討会では、医師、看護師以外の職種の参加が増加している点。

・広報活動を強化した点。フェイスブックやツイッターも用いて様々な形で広報に努めた点。

・2回発行した北陸がんプロNEWSは大学院生リクルートに効果的

・各大学がそれぞれがんプロのホームページを作成し広報に努めた点。

・東海北陸合同で小児がんセミナーを行った点。

・(信州大学) インテンシブコースを新設し、17名の受講生があった点。認定遺伝カウンセラーコースの優れた教育内容。山梨大学との連携。合同市民公開講座および北信がんプロ大学院生交流会はよい取り組みです。

・(富山大学) スラッフ研修に力を入れている点。第7回オンコロジーセミナーに115名の参加者があり、盛況だった点。

・(福井大学) 片山寛次先生退職記念セミナーが開催され、長年がんプロに貢献いただきありがとうございます。がんプロ寄附講座・腫瘍病態治療学講座およびがん専門医育成講座の活動は素晴らしいと思いますが、がんプロにどのようにコミットしているか、も教えて頂きたいと思います。

・(金沢医大) がんプロ大学院生に対して優れた教育内容をしている点。ライフステージ事例検討会に積極的に参加している点。

・(石川県立看護大) 修了生が北陸各地でCNSとして活躍している点を評価したいと思います。FD研修として「CNS関係者によるがん看護事例検討会」もよい取り組みです。様々な研修会にアンケートをきちんと取って、分析している点。

・(金沢大) 市民公開講座、オンコロジーセミナーでアンケートをきちんと取って、分析している点。

(改善を要する点)

・昨年までの改善を要する点についてきちんと対応して頂きましたので、改善を要する点は特にありません。今回は発表会が中止になったので、質問と要望について記載させていただきます。

・オンコロジーセミナーの参加者内訳の数字(スライド28)とスライド27の数字はあうのでしょうか? がんプロ大学院生は是非参加してほしいのですが、68名の中でどれくらいが参加したか、調べて頂ければと思います。

・北信がんプロホームページのお知らせ・活動報告に漏れているものがあると思いますので、できるだけ記載して下さい。

・市民公開講座やセミナーはできるだけアンケートを取って、参加者の反応・意見を組んで頂きたいと思います。

・信州大学のインテンシブコースの人数は17名ですが、北信がんプロ全体の報告では6名になっているので訂正ください(スライド24)

・富山大学・福井大学・金沢大学 がんプロの教育の内容について詳細がスライドでなかったため、次の機会でプレゼンをお願いします。

外部評価結果（委員提出用）

外部評価委員 石岡千加史

評価結果

- 問題や不十分な点はない。
- 一部問題や不十分な点がある。
- 全体的に不十分であるか、一部に重大な問題がある。

[実施状況に関するコメント]

申請にからの目標とその後生じた新たな課題に対する目標に向けて、順調に事業が推進されている。

（優れた点）

- 大学院の本科生コースとインテンシブコースの療法で各大学が目標を上回る履修者を得ている点。
- e-learning について前回の外部評価後に新たに講義を収録し、教育の幅や水準を確保している点。
- 市民への広報が前回よりも積極的に行われている点。

（改善を要する点）

がんゲノム医療に関する地域がん医療機関への普及啓発は、現在が極めて重要な時期であるため、目標にとらわれずもう少し幅広く啓発活動を展開してはどうかと考える。

外部評価結果（委員提出用）

外部評価委員： 眞島喜幸

【評価結果】

- 問題や不十分な点はない。
一部問題や不十分な点がある。
全体的に不十分であるか、一部に重大な問題がある。

[実施状況に関するコメント]

- ・ 今後、がんプロのさまざまな教育面において、最新のコミュニケーションシステムの活用を進めてほしい。
- ・ 地域特性を考慮した教育プログラムになっている点はよい。
- ・ 市民公開講座は全般的によく練られたトピック、テーマを扱っており、がんプロの活動内容、事業成果のアピールにつながっている。
- ・ 医療リソースネットワーク化が進むことで、希少がんなどの領域で、患者はどこにいてもその担当医が希少がんの専門医とのコンサルテーションが可能となることから、それを踏まえた教育テーマなどもあるとよい。
- ・ e-Learning のコンテンツについては、PDCA サイクルを回して、常に受ける側のモチベーションを上げるような改善策を進めてほしい。
- ・ Web 会議の開催を進めている点は評価できる。同時に北信がんプロ施設間の協同体制をネットワークを介したコミュニケーションを活用することでさらに深化させてほしい。
- ・ 地域の患者のアンメットニーズ調査を定期的に行い、地域特有のニーズとそれに対応する医療サービスについて明らかにし、それを北信がんプロの企画に落とし込めるとよい。

- ・ 北信 6 大学の強みを生かした教育プログラム 20 コースの新設は評価に値する。
- ・ TV 会議システムを活用した遠隔教育は費用対効果の面でも高く評価される。
北信がんプロの 5 大学病院ががんゲノム医療連携病院に指定されたこと、さらに 3 大学病院がゲノム医療の拠点病院に指定されたことは患者にとり大変心強いことである。
- ・ 多職種連携、大学間連携を図る事業であることから、北信がんプロが進めているように、開催回数は多めにし、医療の進歩にあわせたトピックを選定していく計画はとてもよい。

- ・ 信州大がインテンシブコースを開設したことは評価できる。妊孕性ネットワークの構築は高く評価できる。
- ・ 富山大が、がんゲノム医療の充実を目的とした研修会、市民公開講座を開催したことは評価できる。緩和ケア市民公開講座は斬新なアイデアで、素晴らしい。がんゲノム医療拠点病院に指定されたことは朗報である。
- ・ 福井大ががん専門委の育成講座を設置し、若手医師のサポートを進めていることは重要である。がん専門委育成講座は、これからの先進医療、ゲノム医療を念頭にがん関連の専門医の育成に取り組んでいる点は評価できる。
- ・ 金沢医大のがん治療技術に対応した人材育成はニーズにマッチしている。本科生及びインテンシブコースともに受入目標を達成できている点も評価できる。また、がんデータベースの構築も研究には重要である。
- ・ 石川看護大の人生会議（ACP）の市民公開講座はタイムリーで評価できる。
金沢大の遺伝カウンセリングコースはアンメットニーズが高い領域なので高く評価できる。受入目標を上回ったことは評価できる。市民公開講座でのアンケート結果の提示は評価できる。また、学生からの声を集めたことは大変良いと思うので、継続していただきたい。

(改善を要する点)

- ・ 特になし

外部評価結果（委員提出用）

外部評価委員： 

（自筆にてサインをお願いします）

【評価結果】
<input checked="" type="checkbox"/> 問題や不十分な点はない。 <input type="checkbox"/> 一部問題や不十分な点がある。 <input type="checkbox"/> 全体的に不十分であるか、一部に重大な問題がある。
[実施状況に関するコメント] 北信がんプロの6大学は、それぞれの大学の強みや特色を生かしながら、相互補完的にガン医療人材の育成に積極的に取り組んでいると、評価できます。 がんプロ養成のための教育コースも年々、充実してきており受入人数も目標を上回る実績を上げている。
(優れた点) e-learningクラウド教材は内容が年ごとに拡充されてきており、北信がんプロ関係者が大学の枠を超え、自分が学びたいことを自分の都合で何度でも視聴できる、非常に有益なプログラムだと評価できます。 テレビ会議システムを用いての、特徴のある症例の検討や先端がん治療に関するオンラインセミナーの開催などは、がん治療に関わる医療従事者に大変役に立つものと思われます。
(改善を要する点) 市民公開講座やセミナー・シンポジウムなどを開催していることは評価できるが、参加できなかった人たちにもその内容などを知らせる広報(新聞やWEBへの掲載)をしたらいいと思います。 北信がんプロの活動の一つとして、がんの早期発見・早期治療の大切さや、たとえガンに罹患しても治療を続けながら働けることや早期社会復帰できることなどの啓蒙活動をしていただきたい。 がん治療は世界的にもものすごいスピードで日進月歩しているので、再生医療やゲノム治療などの最新情報も北信がんプロを通じてご提供いただけたらありがたいです。



北信がんプロ

金沢大学 北信がんプロ事務局

〒920-8640 石川県金沢市宝町13番1号
(医学類B棟1階)

TEL: 076-234-4205 FAX: 076-265-2855

URL: <http://www.gan-pro.net/>

E-mail: gpro@med.kanazawa-u.ac.jp